無産階級評論雑誌

# 大衆

昭和二年三月二十八日印刷　昭和二年四月一日發行（毎月一回一日發行）

4

VOL. 2 NO. 3



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# ジェルミナル

## ゾラの最大傑作!! 堺利彦譯

有ゆる生命が四月の太陽の下に再生しつゝあつた。木の芽は延びつゝあつた。草はもえつゝあつた。坑夫生活の悲慘と痛苦の間に勞働者の自覺が芽ぐみつゝあつた。勞働運動が芽を吹きつゝあつた。人間の大群が土の中から頭を持あげつゝあつた。そこにブルジョアジーの亡びゆく運命と、新社會建設の理想と希望とが出現しつゝあつた。それが即ち此の雄大深酷、悲壯、痛烈を極めた大小說の内容であり、意義である。

**炭坑ストライキの藝術的描寫!!**

特別廉價版三百二十頁
定價・七十錢

## ▼ミュレン原著『なぜなの』荒畑寒村譯

挿圖數葉 價五十錢
百二十餘頁 税四錢

社會主義大意……堺利彦（、一〇）
勞働と資本……マルクス（、一五）
社會主義と進化論…パンネコク（、二〇）
利潤の出處……マルクス（、二〇）
社會主義學說大要…堺利彦（、三〇）
ゴタ綱領批評……マルクス（、二〇）
パリコンミュン……堺利彦（、二〇）

ロザの手紙……堺眞柄（、一〇）
唯物史觀要約
資本蓄積傾向……（獨英和對照譯）（、三〇）
左翼小兒病……レーニン（、三〇）
ロシア革命十一月七日…堺利彦（、二〇）
唯物的辯證法の話…堺利彦（、一〇）

尚この他社會問題に關する内外の書籍の取次をします。月刊『赤い星』（價參錢）『名著だより』は無代贈呈但し貳錢切手封入のこと。代金引換は一切御斷りします。

東京麴町八ノ二〇 **無產社** 振替東京二四六二六



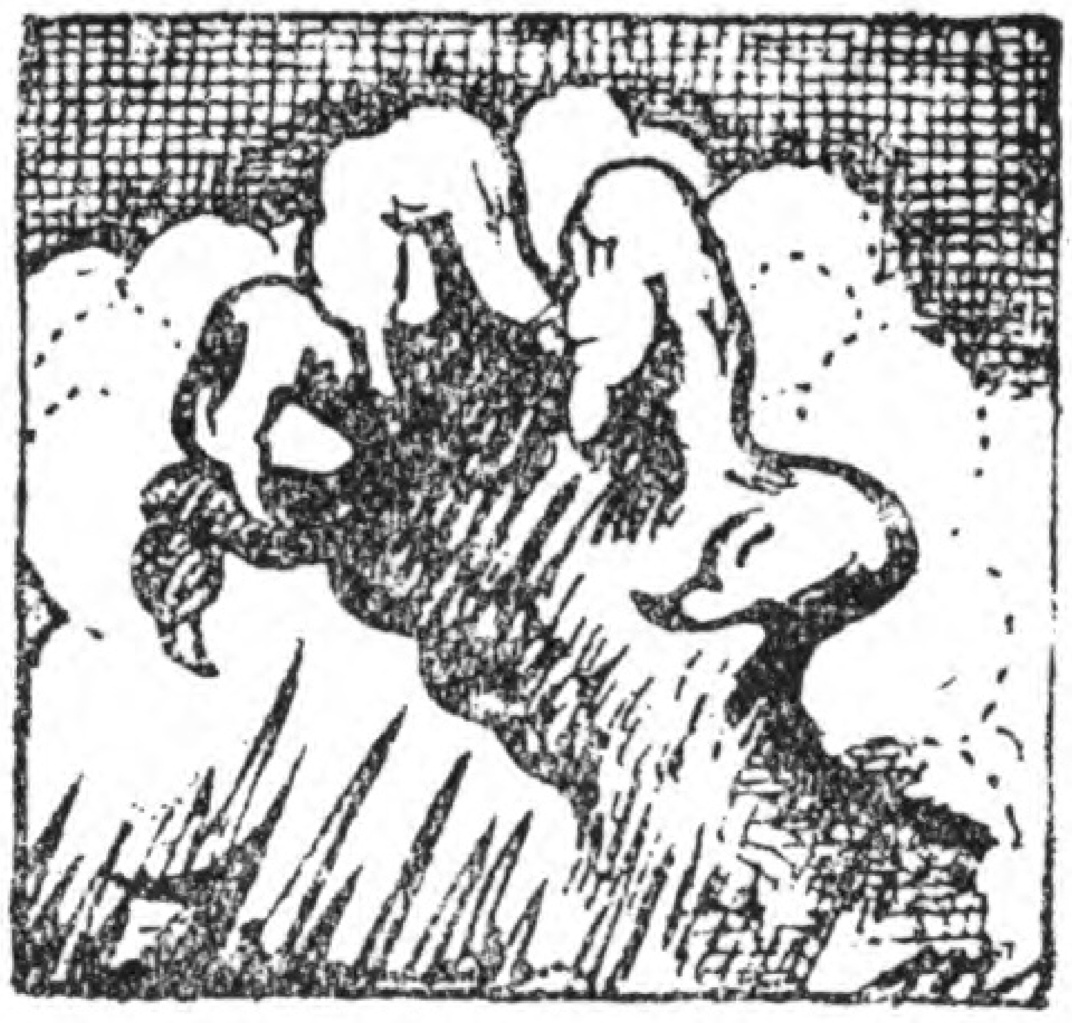
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第二巻　**大衆**　第三號


◇國內戰線……（七七）
◇組合運動に於ける前衛黨の任務……スモルヤンスキー（四二）
◇世界革命と農民の地位……ブハリン（五三）
◇京濱電鐵爭議批判……島田英雄（三三）
◇理論鬪爭の不滿……槌田かい（三六）
◇「大衆」は何をなしたか……成瀨光雄（二）
◇所謂「國家資本主義トラスト」の批判　薄茂人（一七）
◇ロシヤに行たがる人に……伊井敬一（六五）
◇山本懸藏君の立候補……まさいち（四〇）
◇現段階に於ける資本主義安定の諸問題（調査）……（六九）
◇列國の對支投資（調査）……荒木五郎（七三）
◇ブックレビュー……（八二）




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



# 「大衆は何をなしたか」

## ——自己批判のために——

成瀬光雄

昨春、我々が雑誌「大衆」を創刊して以來、既に早くも一年を經た。

しかし、それは、我邦無産階級運動の全歴史においても恐らくは稀れに見るほどに、多事多端の一年であつた。いま、たゞ重だつた事件を數へ擧げるにとゞめても、なによりもまづ、久しく我々の翹望の的であつた勞農黨の成立を見ゐた。續いては、この政黨をめぐつての、これを鬪場としての、左右兩翼の對立、抗爭である。第二回中央委員會におけるいはゆる坂本案の通過、第三回中央委員會におけるこれの排棄。かくて、初秋には、第四回中央委員會における總同盟その他の右翼派の脱退。同時に、勞農黨そのものは左翼による再組織を了した。なほこれにとゞまらない。右翼は、いまや意識化せる右翼として、「社會民衆黨」をもち、中央派は「日勞黨」においてみづからの獨立した表現を求めた。かくのごとくにして、「勞農黨」、「日勞黨」、「社會民衆黨」の鼎立にまで到つた。

他方、これと表裏をなして、總聯合の坐折があると共に、「統一運動同盟」の進行がある。いはゆる「右翼結成」の試みと並んで、中央派の「勞農總聯合」があつた。

かくの如き、複雑なる、轉變極りない無産階級運動の現實と面して、我が「大衆」もまた決して單純ならざる一年を送つ



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

た。なかんづく、我々の過失は諸僚誌の激しい批評を喚び起した。また、指摘はされなかつたにせよ、我々がみづから顧みて過失と認めざるをえないものもある。

我々は常に進歩、發展を求めて止まない者である。將來における進歩、發展は、みづからの過去に對する充分なる批判なくしては、決して期しえられない。我々がこゝに自己批判の鞭をみづからに加へようとすることは必ずや徒爾ではないであらう。

## 一

我々はまづ、いはゆる中間派の問題について述べよう。「マルクス主義」その他僚誌の旺なる批評は、實に、この問題に關して我々に向けられたものであるから。憾むらくは、その批評のあるものは低劣なる惡罵と根據なき讒中傷以外の何物でもなかつた。しかし、我々はこれをも、我々の自己批判の機緣として、耳を傾けようと思ふ。

昨秋九月、「大衆」はその第七號に鈴木茂三郎氏の「左翼除外と左翼當面の諸問題」および浦田武雄氏の「勞農黨形成過程に於ける吾々の任務」の二篇を載せた。そして、この二つの論文がいづれも中間派左翼の結成を提唱したこと――問題は、こゝにその端を發する。

我々はなにがゆゑに、いつたい、この二氏の論文を載せたか?

これに對して評者の或る者は、我が「大衆」が中間派左翼を「其の自らの下に」結成せしめようといふ、いはゞ陰險な意圖を以て、これを「創刊當時からの唯一の目標」として、「愼重に」「着々と」企て來つたかの如くに云はれた。そして、その論據として、「大衆」が初號以來載せたところの論文のあるものを探つて極めて巧妙にこれを配置して我々に示されまでもした。

しかし、我々はかゝる批評には絶對に服しえない。我々は、評者の論據に對しては、別の論文を探つて別様に按配する



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ことによつて、全く別の結論をも引出しうる。また、鈴木氏と浦田氏の論文がかなり重大な點で所說を異にしてゐるのに見ても、いはゆる「大衆」の惡意なる計畫の如きはなんら存するものでなかつたことを知りうるであらう。だが、我々はかゝる價値なき問題に多くの辯を費すのを止めて、率直に當時の我々の意圖を語らう。我々は中間派の問題が、問題として、極めて重要であることを認めた。それゆゑに問題として提出したのである。「大衆」みづからは鈴木、浦田兩氏の所說を錄して他の意見、提唱を求めたのである。この重要な問題を「一般の討議に移さ」（九月號「編輯局から」）んとするのが我々の意圖であつた。

しからば、中間派の問題は、我々のいふやうに當時の無產階級運動の現實の狀勢においてはたして重要であつたであらうか？。

極めて重要であつた。まづ、當時における勞農黨の危機を指すことができる。いま更めて繰りかへすまでもないが、右翼の焦點たる總同盟は第三回中央委員會において己れの主張である左翼四團體の排斥を行ひ、同時に支部承認の問題を以て、勞農黨を崩壞せしめるのに腐心しつゝあつた。このときにあたつて——第四回中央委員會を目前に控へながら——この總同盟の企畫に抗して、その脫退を押へることは、少くともこれを孤立せしめ最も不利なる位置において脫退せしめることは、左翼にとつていかにしてもなさねばならないことではなかつたか？ そして、これがためには、第二回中央委員會においていはゆる「坂本案」を通過せしめた農民組合、日本勞働總聯合、司厨同盟等の中間派團體、また、これらならびにその他の中間派團體中にある左翼的分子は、左翼にとつて重大なる考慮の對象たるべきであつた。さればこそ鈴本氏は勞農黨における「左翼除外」を機としてこの問題を提出し、（同氏「左翼除外と左翼當面の諸問題」）また浦田氏は「日和見主義極右翼一派の爲めに壟斷されんとしてゐる」「勞農黨を彼等の手から奪還」する一つの手段として「中間派結合」を提唱したのである。（同氏「勞農黨形成過程に於ける吾々の任務」）

それのみではない。當時左右兩翼が、おの／＼、意識化し、結成するの過程にあつたことは、說明を要しないであら



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

う。しかも、そこには、いまだ右翼的にも左翼的にも意識化しないところの中間派要素の巨大なる群が存してゐた。してみれば、左翼にとつてこれらの要素をば、いかにして現實の土臺において、左翼にまで昂むべきかは、極めて緊切な問題でなければならなかつた。この意味においてもいはゆる中間派は左翼が速かに解決すべき一個の課題であつたといへよう。

さらに、より具體的な事實を示していへば、勞農黨の樹立に際して、またその以後の種々なる重要事項について、左右兩翼の險しい對立のゆゑに却つて、不當に重要な役割を演じえたいはゆる中間派は、彼等みづからの力に恃んで、結成せんとする勢を見せてゐた。このことはまた恐らく、彼等が無理論のゆゑに、彼等の左右にある兩翼の闘爭をたゞひたすらに回避しようとする態度にも因つたであらう。ともかく、我々の僅かに知りゑたかぎりにおいても、かうした中間派結成の――左翼團體の最も有力なものを除いての！――現實の試みは既に當時兩三度に亘つてゐた。これが左翼に對して危機を作るであらうことは疑を容れない。我々左翼はこれをいかにして打破すべきか？　問題は焦眉の急に迫つてゐたとも云へよう。

しかるに、我々の批評家北條一雄氏はこの點について次の如き批評を加へられた、――『おもふに、「中間派に對する認識、從つて戰術の問題」は、彼等のいふが如く、嘗つて問題となりながら今日迄「喰ひ違つたらしいまゝに放置されてゐる」たところのものである。……我々は、だが、彼等の如くこゝに單に未解決の問題を發見し、イキナリそれにぶつかることによつて問題の解決をうるものと考へてはならない。』（北條一雄氏「左翼中間派結成計畫の批判」、「マルクス主義」十五年十月號。傍點は筆者）すなはち、氏によれば、いはゆる中間派の問題は、當面の問題として現實においてなんらの重要性をもたず、たゞ我々が漫然これを取りあげたにすぎないといふのである。しかしながら、かゝる見解は、我々が上に述べたところによつていまや明かであるやうに、我々を以てすれば、いかに氏が無產階級運動の現實の狀勢に對して盲目であつたかを曝露するにすぎない。我々は、當時にあつて、いはゆる中間派の問題を問題とし、これを提出し、また解決



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しようと努力したことにおいて、毫末の過失も認めることができない。

しからば、我々はこの問題をいかなる立場において取扱はうしたか？ この點について、我々は北條一雄氏から「彼等の根本立脚地は、勿論所謂右翼……ではないが、さればといつて、所謂左翼……でもない」といふ評語を受けた。そしてその理由として氏の引用されたものは、「大衆」四月號における「巻頭言」のうちにある「我國無産階級の當面の問題とは何か。驚くべき現實論でもなければ、現實に對する「認識の不十分」でもない」』といふ言葉である。だが、我々はなにがゆゑにこの言葉が我々の立脚地を決定すべき論據となりうるかを解しえない。こゝで云はれたものは「我國無産階級の當面の問題」ではないか！ もとより、我々は眞實の左翼の路を些の誤りもなく歩みえたとの自信をもちえない。後に述べるであらうやうに、我々は、左翼として、重大な過失をした。けれども我々は左翼たらんと努めた。いはゆる中間派の問題もまた左翼の立場から取扱はふとしたのである。いはゆる中間派を如何に處置することが左翼にとつて最も有利であるかを考へようとした。鈴木氏は「そも／＼左翼は、何にを以て、備へんとするか」に對して「中間派左翼の結成」を提示し、浦田氏が「中間派結合」を云ふのもまた、「眞の勞農黨の形成過程に於て右翼の一部幹部との鬪爭によつて之を戰ひとらんがためであつたのである。我々は將來においても、よしや誤を犯すことはあらうとも、左翼の路を歩むべくあらゆる努力を盡すであらう。

我々は、進んで、主として鈴木、浦田兩氏によつて示された、いはゆる中間派問題に對する「大衆」の解答が如何にあつたかを檢しようと思ふ。

が、それに先きだつて、此等の議論の基礎になつてをるところの、當時における左翼、中間派および右翼に對するその評價が如何やうであつたかを見なければならない。北條一雄氏はそのおのおのについて「大衆」の誤を指摘された。

まづ、左翼について「左翼全體の氣勢は下向ひである」との見解（高野實氏「市電自治會の分裂」、「大衆」九月號）が全然誤りであることを擧げられた（北條一雄氏「理論的鬪爭開展の社會的根據」、「左翼中間派結成計畫の批判」、「マルクス主義」



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十月號)。思ふに、高野氏のこの觀察は主として量的方面を指さゝれたものであらう。けれども、我々は左翼を見る場合、同時に、その――譬喩的な表現を用ゐれば――質的方面を考慮せねばならない。左翼がいかに强く眞實の無產階級的意識をもちつゝあるかを顧みねばならない。高野氏がこの考察を缺いてゐた點において、我々は北條氏の批評に服せざるをえない。もとより、高野氏に見られたかゝる觀察は、鈴木、浦田兩氏の論文にはそのまゝに現れてゐるものではなく、その意味において直接の關係は存しない。が、當時においては、ひとり高野氏ばかりではなく我々もまた氏と同樣なる見解を抱いてゐた。我々はこゝにその疑を告白しようと思ふ。

右翼については、北條一雄氏は、「右翼一大展開が次に必然に來るであらう」との鈴木氏の言(鈴木茂三郎氏「左翼除外と左翼當面の問題」、「大衆」九月號)を擧げて、我々の過大評價を責められた。では、氏によればいかなる意味で過大であるのか？ 北條氏の論據を充分には知りえない。たゞ、氏が「我國に於ける形勢の進行のところの、上の如き、複雜にしてあわたゞしき開展の必然、並に所謂左右對立鬪爭の今日の發展段階、に就いての我々の見解は、必然に、所謂右翼のもはや、無產階級右翼としての存續展開が不可能になつたことを信ぜしめるものである。」(北條一雄氏「理論的鬪爭開展の社會的根據」、「マルクス主義」十月號)といふ意見から見るならば、次の如く解さるべきであらう。すなはち、氏によれば、從來無產階級の陣營内において右翼を形成したるところのものは、いまや、「無產階級右翼として存續展開」が不可能になり、小ブルジョアジーの陣營に移り去つた、――ために、これがなくなつた以上、無產階級の陣營内における右翼の勢力はさまで大きくはないといふのである。だが、これは、我々をもつてすれば、右翼の勢力をたゞ觀念的、概念的に減殺して、みづから慰めつゝあるものにすぎない。なるほど右翼の指導者、指導精神が、いまや、小ブルジョア的になつたことは氏の言ふが如 である。けれども我々はそのもとにある膨大なる勞農大衆の存在を忘れてはならない。我々がこれに意をそゝぐかぎり、いはゆる右翼の意識化、その量的進展は、どこまでも無產階級陣營内における右翼の展開である。これに對して晏然たるのは、また、現實を知らざる者である。我々は我邦資本主義の「安定」を契機とする右翼の展開を、



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

當時におけると同じく、いまもなほ主張せねばならない。

しからばいはゆる中間派については？　これが、當時の狀勢において、戰術的に見て、我々が考慮すべき重要なる要素であつたことは既に明かにした。しかしながら、このことゝ、いはゆる中間派が、はたして、左翼にとつて重要なる役割を演じうるかといふことゝは全て別個の問題である。いはゆる中間派は——それ自身として見れば——明確なる理論を有せず、また意識が低いために——そのうちの左翼分子といへどもこれを眞の左翼分子と比べては——甚しく力の弱いものである。卑俗な云ひ方をすれば、左翼にとつて賴みにならないものである。しかるに、我々はいはゆる中間派の占めた重要なる地位から、誤つて、中間派の實力を高く評價する傾きのあつたことを否み難い。それには、また、勞農黨の成立、ならびにその以後の中間派の活動に、幾分か眼を奪はれてゐたといふこともあつたであらう。この意味において、北條一雄氏の「彼等は、中間的中立的團體としての活動について、かけられゐたる期待——その嘗つての段階には對應したる期待——が、其の今日の段階にも、なほ、否、より多く對應しうるものと考へてゐるからである」（北條一雄氏「理論的鬪爭開展の社會的根據」、「マルクス主義」十月號）といふ言葉は、これを我々の所見に對する批評として見るとき、承認せざるをゐざるものである。

次に、かゝる觀察の上に築かれたいはゆる「中間派結合」の內容を見る。それはこの問題の核心である。いま鈴木氏によれば「いはゆる中間派には、左翼分子が多數にある。………之れらをいかにすべきか、これが又問題の一とつ」である。（鈴木氏「左翼除外と左翼當面の諸問題」、「大衆」九月號）そして、かく「分散されたまゝの彼等（左翼的の分子）の多くは、一個の中間派分子たるに過ぎないが、中間派結合のもとに、彼等もまた一つの組織體のなかに、密着したる一勢力、それは左翼分子としての、力を形成する。（鈴木氏「左翼當面の任務と中間派結成」、「大衆」十月號）かくの如くに氏は見られた。浦田氏はいふ、——「………中間派の中には鬪爭精神を有する戰士、階級意識を有する或は有すべき素質を有するあまたの鬪士が潜んでゐる。………之等は凡て中間派中に於ける左翼分子と稱することが出來る。………若し彼等が、一定の形



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

勢に於て一定の條件の下に或る組織を有ち、一定の政策方針を以て進むならば、眞の勞農黨樹立の過程に、彼等も又意識的計畫的に參劃し活動する大なる役割を有することが出來るであらう。」（浦田氏「勞農黨形成過程に於ける吾々の任務」、「大衆」九月號）これによつてもわかるやうに、氏等がその結合、結成を勸めたものは、いはゆる中間派中における左翼分子である。しかも、これが本來の左翼と如何なる關係に立つべきか――これの點に對して氏等はその論文においてほとんど全く觸れてをられない。從つて、このかぎりにおいて氏等においては、いはゆる中間派の左翼分子が、それみづからとして、結成すべきものであつたと見ねばならない。こゝに重大なる誤謬が存したのである。

この點に關しては、山川均氏がその「中間派左翼の結成か單一左翼の形成か」（「マルクス主義」十月號。山川氏「左翼の鬪爭」九五頁以下）において綿密周匝に批評された。我々はこれに對してほとんどその一々に服するものである。いま、いはゆる中間派々、また中間派のうちの左翼的分子を、本來の左翼との連絡なくして、それみづからとして、結成せしめるならば、それは本來の左翼に對する一つの對立物を作り出すことになるのは明かである。なぜならば中間派中の左翼的分子といへども、原則としては、本來の左翼よりも程度の低いものである。從つて、それが獨自の組織をもち、みづからの力を發揮するにいたるならば、本來の左翼に對して、態度、立場において、戰術上の意見において、別個のものとなるであらうことは當然である。そして、このことは本來の左翼をして孤立せしめるの結果を生むであらう。これらのことは浦田氏の次の言葉において、なかんづく強く云ふことができる。――「故に吾々は、今日の形勢の下に於て、中間派諸團體に屬する左翼的分子の結合を提唱したい。……それには二つの形態を考へることが出來る。一は勞農黨の運動を促進せしむる團體、他は勞働組合の統一を促進せしむる團體である。……尤も此二つは一定條件の下には二方面の任務を持つ一個の團體であつてもよく、又あるべきであるが故に正確には此二つの運動を目標とする實行團體なり、その初端形態としての研究會なりを指すものである。」（浦田氏前掲論文傍點は筆者）すなはち氏にあつては、その結成の形態は相當に確固たる組織をもち、かつ、永續的のものである。かゝるものが左翼との連絡なしに存在することは、本來の左翼にとつて



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

非常なる――逆説的にいへば、左翼に近きがゆゑに却つてより甚しく――障害である。この點に關して鈴木氏はむしろ過渡的のものとして考へられた如くである。なほまた、氏は危險を充分に認識して「過渡的存在としての、中間派の結成が、發展しない固定したものでは、いつまでもあり得ない。……中間派といふ、意識の派生をなるべく防ぐところの…………技術的努力がなされるであらう」（鈴木氏「左翼當面の任務と中間派結成」、「大衆」十月號）と云つてをられる。しかし、それにもかゝはらず、上の意味におけるかぎりの「左翼中間派」の結成が、結局はあらゆる防止策においても、中央派として、獨自の存在に變質するであらうことは今日から見るならば、あまりにも明かである。我々はこのことを、中央派としての「日勞黨」の成立、發展において明白に知りえたではないか！

それゆゑに我々は山川氏の次の批評を甘受するものである。氏は云ふ、――「中間派左翼の結成は、それが如何に純眞な左翼的願望に出發してゐるにせよ、右翼に對する左翼の陣營を二つに分割するものであつて、その結果においては、支配階級と右翼主義者とが、左翼の一部に『共産派』の烙印を押すことによつて達しようとしてゐる目的の達成を助けることに歸着する。」（山川氏前掲論文）

しかしながら、浦田氏、ならびに鈴木氏が、左翼との連絡を全然考へなかつたといふわけではない。浦田氏がその考察の基礎、前提として「階梯的方法」を主張し、「左翼派の當面の任移は、………、又『階梯』的方法を適用しつゝ、その各過程を敏速に捉へ、政治的技術的訓練を以て機關の構成改善を行ひ、あらゆる無産階級の中に政治的闘爭を組織し指導しなければならぬ」、（浦田氏前掲論文傍點は筆者）と云つてをられるのは、――少しく深切に讀むならば、――本來の左翼との關係を、一定の時期に達したならば本來の左翼をば來り加らしめることを考へたものである。また鈴木氏はその「左翼當面の任務と中間派結成」――念のためにいへば、この論文は雜誌「マルクス主義」の特輯「大衆」批評號の發表される以前に書かれたものである――において、明白に「やがて左翼諸團體を、中間派との……結合に導く。導かねばならぬ。導くところの、努力が爲されるであらふ、」と述べられてゐる。たゞ、いはゆる中間派を利用する必要上、左翼の關係を故意



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にほかしたものと云へよう。だがしかし、これが正しくない。かくの如きは、勞農大衆に向つて物を云ふとする、公の機關としての雜誌「大衆」の執るべき態度ではない。のみならず、既に述べたごとく、中間派が、中間派として結成しようとする試みが既に現實になされてゐたといふ狀勢に對して、本來の左翼との關係、ひろくいへば如何なることが理論的に正しいかを、明白に語るべきことは絕對に必要であつた。これを誤つたところに、なほ、我々の重大なる過失があつた。

さらに細かい點について見れば、山川氏の指摘された如く、中間派團體とそのうちにおける左翼的分子との區別、關係が甚だ曖昧であつたことを擧げうる。恐らく、兩者を考へてゐたと思ふ。第四回中央委員會を前にして中間派團體を、いはゞ「上から」、いかに動かすかと、同時に、左翼的分子を、いはゞ「下から」、結合せしめてこれを活動せしめ、またこれによつて中間派團體をも動かすか、――かく考へゐたのである。しかし、この兩者の區別、關係がもつと嚴密に考へらるべきであつたことは、疑を容れない。

なほまた、いはゆる中間派問題においては政黨問題と勞働組合問題が、區別され、兩者の正當なる關係において考へられてゐなかつた。既に述べたやうなこの問題の具體的契機からいつて、主として政黨の問題として考へられた。が、他方において、總聯合の問題と關聯して、また勞働組合の問題として考へられた如くでもあつた。こゝに混合、錯雜を見ざるをゐない。もちろん、今日の如く政黨が明確なる形を取つてゐなかつた當時においては止むをえなかつたとはいへ、これまた誤でなければならない。たゞ、この點に關 ては評者、山川氏、北條氏においても決して明かではない。例へば、北條氏は「大衆」の組織論として浦田氏の所說――「舊き原則的なる、或は既に萎縮したる組織のみによつて行動せむとするものは、諸發展階段に於ける限度と形態と階梯のあることを解せざるものである。吾々はこれらのあらゆる限度階梯におけるあらゆる形態を以つて補足し克服しつゝ眞の無產階級の鬪爭舞臺を擴充して行かねばならない」（浦田氏前揭論文）――を擧げて、極めて簡單に次の如く批評してをられる。曰く「こゝに我々の見るものは、政黨理論にソノママ立脚するところの勞働團體の組織ではないか？ かくの如きは正に政黨組織と勞働團體組織との間に存する本質的差異を忘却したる



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ところの謬論でなければならぬ」。（北條一雄「左翼中間派結成計畫の批判」、「マルクス主義」十月號）これを單に浦田氏を突くものとして見れば、當らないではなからう。しかしながら、では、政黨組織と勞働團體組織との間の「本質的差異」はどこにあるか？　その關係は如何にあるべきか？　氏はなんら答へられるところがない。それは、ほとんど單なる放言にとゞまるといはるべきであらう。

要するに、いはゆる中間派の問題に關して我々の與へようとした解答は、他のことはしばらく措くとしても、本來の左翼との關係を充分に考へなかつた、明かにしなかつた點において、根本的に誤つてをつたといはねばならない。我々はかゝる重大な過失を敢てしたことに對して深く僚友諸君に謝しようと思ふ。

## 二

さらに、我々は、いはゆる中間派の問題に直接關聯してゞはあるが、「大衆」の全體の態度について加へられた批評を顧みねばならない。北條氏は、我々の中間派問題に對する誤を以て、『所謂歴史的使命意識形成のための闘爭の途上に於て、彼等自らは我々と同じ「解決」に向つての闘爭過程を過程しなかつたといふことから出發するものである。』とされる。（北條氏「理論的闘爭開展の社會的根據」、「マルクス主義」十月號）言葉を換へていへば、また、「無産階級運動に於ける全問題の眞に無産階級的な解決のための第一條件の意義並にこの條件獲得の眞實の方法と段階を理解せざること、に存する」。（北條氏「左翼中間派結成計畫の批判」、「マルクス主義」十月號）しからば、「第一條件」、その「條件獲得の眞實の方法」とは何か？　氏はこれに答へて云はれる、――「我々の見る所によれば、この條件とは、左翼が眞實のプロレタリア政治行動主義の意識にまで發展成熟することであり、この條件を戰ひとるための方法とは、執拗なる對立の闘爭、所謂理論的闘爭を闘爭することでなければならぬ。」（北條氏「左翼中間派結成計畫の批判」傍點は筆者）

我々の考へるところによれば、いはゆる中間派の問題は、もとより、原則的、一般的のものではない。上に叙べたやう



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に、當時の具體的なる狀勢の下において、左翼が取るべき、特殊的、現實的なる、この意味において過渡的なる、いはゆる當面の戰術としてゞあつた。北條氏の指された戰術――「理論的鬪爭」は、我々の考へるところによれば、左翼の意識を「發展成熟」せしめることが絶えず必要であるといふ意味において、左翼によつて常住なさるべきものでなければならぬ。それゆゑに、我々はこの他に、現實の具體的狀勢に對應して、具體的な特殊戰術をもたねばならぬ。繰返していへば、いはゆる中間派論は、實に、かくの如きものであつた。

しかしながら、それにもかゝはらず、我々はこの點に關する我々の態度が必ずしも正しくなかつたことを認めざるをゑない。なぜならばいはゆる中間派論は、それが上の如き意味のものであつたにもせよ、原則的、根本的なる左翼の戰術との聯關の考察を缺いてゐたからである。我々は特殊なる戰術をいふ場合、原則的なるものに對していかなる關係をもつかを常に顧慮せねばならぬ。我々はこの點は明かにしなかつた。また、一般的に見て我が「大衆」は、かうした、左翼の質的昂揚の問題をば、比較的に閑却し來つた。そして、こゝに上に述べた我々の他の誤謬、例へば當時における左翼を過少に評價したことの如きも、基いてゐたと云ふことができよう。この意味において我々は北條氏の上の如き批評に――氏の議論そのものには恐らくは贊しゑないが――從ふものである。

いま一つ我々の態度について云はれるものは、いはゆる「通俗化的形態」である。そして、その證據として擧げられたものは我々の「創刊の辭」における、――『雜誌「大衆」は、讀者を汎く一般大衆に求めます。少數研究家の愛玩雜誌たることよりも、工場に農村に日常の鬪爭をたゝかひつゝある勞働大衆の、た易い理解のうちにとけこむことの出來る知識――その鬪爭のために直ちに武器となり得る生きた知識の供給者たらんことを期します。」（「大衆」三月號）といふ言葉である。そして、北條氏はこの「通俗的形態」を強く非難された。いかなる論據によつてか？「理論が通俗化せられるがための第一條件は、理論が先づ完成せらるゝことでなければならぬ。」（北條氏「左翼中間派結成計畫の批判」、「マルクス主義」十月號）しかるに、當時にあつては、理論は「形成の途上にあり」、從つて、「其の通俗化といふやうなことは理論上全く不



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

可能事であるからである。」かく氏は主張される。

我々は氏の言が何の意味なるかを解するに苦しむものである。こゝで「理論」とは何か？ もし、それが、我々がさらにそれによつて展開すべきマルクシズムの「基礎」の意味であるとするならば、我々は今日、マルクス、エンゲルスによつて見事に完成された「理論」を具へてゐる。これを認めないのはひとりブルジョアジーあるのみである。もしまた、それがこの「基礎」によつて、新たに展開しくるところの現實に從つて、さらに展開さるべきところの、いはゆるマルクス的なる無產階級的理論の全體を指すものとするならば、氏の誤は一層に甚しい。なぜならば、かゝる意味の理論は、現實の展開と共に、遂に完成される日のなきものである。それは辨證法的唯物論の第一原理ではないか！「理論が先づ完成される」といふが如きは、我々の、辨證法的唯物論の立場よりすれば、一個のナンセンスにすぎない。重ねて云ふ、——我々は氏の所論を解するに苦しむ。

もとより、ある問題については、例へば「組織論」のあるものゝ如くに、いはゆる通俗化をいかなる意味においても許さないものがあらう。しかし、それは通俗化を總ての意味において否定することではない。のみならず、我々の主張する通俗的といふことは、「少數研究家の愛玩雜誌たること」の排斥にあつた。勞農大衆のための雜誌たらんとすることにあつた。しかも、我々の通俗化はみづからの理論を大衆の「中間要素」、「下級要素」にまで引きさげるのではなく、たゞ、できうるかぎり、「た易く理解」しうる表現、説明方法を選ばうといふにすぎない。難澁な言葉や廻りくどい表現を試みるのを以て能事了れりとするのは我々の断じて與しないところである。我々は今後においてもこの態度を續けて行かうと思ふ。

## 三

我々は既にいはゆる中間派の問題について、云ふべきことをほとんど盡したと思ふ。それゆゑに、我々は次にこの問題以後における我々の態度について語らねばならない。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

いはゆる中間派問題について「マルクス主義」を始めとして諸條誌の批評を受けた我々は、これに對してなんらの答辯をもなさなかつた。我々が批評に接してみづから誤りと認めたものはしばらく措いて、我々が承服しわざる點についても、ひたすらに沈默を守つた。いまにしていへば、このことは我々の大なる誤である。むしろ起つて、誤りは誤りとすると共に、批評の却つて誤れるものに對しては、決然として理論鬪爭を行ふべきであつた。

けれども、もし、こゝにしばらく陳辯の辭を列ねることを許されるならば、我々は、我々のかゝる態度は、當時の狀勢において、左翼陣營内に無用の紛亂を招くものではないかを恐れたのである。こゝに我々が默して止んだ理由があつた。しかしながら、これもまた、明かに、誤謬である。みづからの態度の左翼的であることを信じるかぎり、我々は自己の所見を披瀝して、活潑に議論を上下すべきであつた。我々はいかなる場合にも理論鬪爭を回避してはならない。

## 四

上來、我々は、いはゆる中間派問題を中心としてそれ以前の態度、またその後における態度と、我が「大衆」が一年の間に歩み來つた跡を審さに顧みた。不幸にして我々は、いはゆる中間派の問題についてはその解決の仕方において、我々の根本的態度についていへば理論鬪爭を怠つた點において、我々の誤謬を告白せざるをえない。我々はそれらの過失を、またそれが何處に存したかを、自己批判を試みた。同時に、我々の取つた態度、理論においていまもなほ正しいと思ふものを明かにした。我々はこの自己省察の上に立つて、新たにいま一歩を踏み出さうと思ふ。では、我々は何を、いかなる立場においてなさうとするか。それは將來において、我々によつて現實に證さるべきものである。しかし、これを約束するといふ意味において、以下に簡單に述べておかうと思ふ。

我々はどこまでも左翼の立場を守つてゆかうと思ふ。左翼の立場とは眞正のマルクシズム——レーニニズムの基礎に立つといふ意味である。だが、かく態度を表明する場合、現下の我々は、「社會民衆黨」、「日勞黨」、「勞農黨」の鼎立を前に



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して、少くとも無産階級の問題について何事かを云はうとするかぎり、具體的に、このいづれに就くかを明かにせねばならないであらう。我々は意識化せる右翼黨としての「社會民衆黨」はもとより、中央派として獨自の立場をつくりつゝあるところの――そのイデオロギーの理論的表現を我々は雜誌「社會思想」に見る！――「日勞黨」のいづれにも、強く反對す。我々はひとり「勞農黨」を支持するものであることを、こゝに公宣するものである。

我々は、あらゆる機會において、理論鬪爭を試みようと思ふ。第一に、我々と根本的に立場を異にするところの右翼、中央派に對して。それと同時に、左翼陣營内においても、所見を別にする時があるならば、我々の意のあるところを忌憚なく主張するであらう。

しからば「大衆」は何をその職分としようとするか？ 「マルクス主義」、「勞働者」、「政治批判」、「インタナショナル」と僚誌の數は決して尠くはない。その間に立つて「大衆」の任務として我々は何をもつか？ 我々は主として經濟問題を取扱ふと思ふ。例へば我邦資本主義の解剖、調査はその具體的問題の一つである。しかしながら、もとよりこれを切離して我々の對象としようとするのではない。たゞ、諸僚法に對して我々はこれに特質を見出さうとするの意味である。かつまた、現下の實狀においては、幾分か混合的な形態を取らざるをえないことは、多くの人の諒察するところであらう。

かくして、我々はこゝに、いま一度、新たなる一歩を踏み出さうと思ふ。

僚友諸君！

我々に鞭撻と批判とを吝まれざらんことを！

（一九二七――三――一一）



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 所謂「國家資本主義トラスト」の批判

## ――林氏の勞作並に丸岡氏の「資本輸出」論を評す――

薄　茂　人

### 一、福本氏怠慢の所產

いはゆる現段階の分析、究明、批判に關する、福本和夫氏の怠慢は、われらの既に指摘したるところではあつた。氏は『マルクス主義』第三卷四號（大正十四年十月）で、『私は近く別にこの點を詳細に分析究明するの機會をもつであらふ』ことを宣明し、第四卷一號（大正十五年一月）に於て、次ぎの如く、いとも簡單に片附けたまゝ、爾來、氏は顧みて他をいふの態度にある。

『我が無產階級は、いかなる社會的地位――狀勢の下にあるか。簡單には次の如くいふことができよう。

1、日本のブルジョアジーは、未だ所謂、絕對的、專制的勢力を打破し切つてゐない。

2、しかも我が資本主義は、今や世界資本主義と共に現實に沒落の過程にある。「資本主義最後の段階としての帝國主義」は今や我國に於ても亦强烈に沒落の過程を辿りつゝある。

3、我が無產階級は、かゝる形勢の下に、而も始めて政治鬪爭の舞臺に上り來つたのである。

4、なほ、農村に於て被抑壓階級たる大多數の小農民の窮乏化を見る。』

しかるに、尊敬する同志淺野晃氏は、福本氏の旗の下に置かるゝ、『マルクス主義』三十二號（大正十五年十二月）に於



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、氏の『簡單なる分析』の、修正、變更を要求せらるゝにいたつた。

淺野氏は、その勞作『所謂現段階の分析について』に於て、私の『大衆』第九號の、いはゆる貧作を紹介され――と私は大體解してゐる――次いで福本氏の『簡單なる分析』を排置し、かくて淺野氏は云はるゝ。

『だが、階級對立闘爭發展の狀勢は、右の――註、福本氏の「簡單なる分析」筆者――一般的規定の修正、變更を必要ならしめつゝあるが如くに見える。先づ我が無產階級の「社會的地位――狀勢」の分析について考へて見やう。』

といふ前提のもとに、淺野氏は林二郎氏の國家資本主義トラスト的體制(產勞時報十三號)を展開し、氏は爾く考へらるゝが故に、福本氏の『簡單なる分析』――一般的規定――を、かく修正變更され、またかゝる必然の結果として、一般戰略の部分的修正と精密なる規定の必要を提議されたのである。『かくて、我々は「現段階」を以上の如く認識することによつて、――我々のとるべき一般戰略――闘爭樣式――に、何等かの部分的修正を加へ、更に之をより精密に規定するの必要に迫られてゐることを看取する』(傍點は筆者、以下又同じ)さればこそ私は、淺野氏の厚意ある批判に答ふべく、氏の精密なる規定の、示敎さるゝを、いまなほ待ちつゝある。

しかるに又、ここに、『マルクス主義』の姉妹雜誌として創刊されたる『政治批判』一號に、林二郎氏が、淺野氏により修正變更されたる、所謂『國家資本主義トラスト』に關する、一大雄編を物されたるとき、たま〳〵時を同じふして、姉妹雜誌『マルクス主義』三四號(昭和二年二月)に於て、めづらしや柳芳彥氏は、日勞黨の理論的闘士河野密氏の、勞農結合の論理的混亂を究明し、『だが我々は、全問題を無產階級の社會的地位から觀察せねばならぬ』この、尤もなる觀點に立たれ、柳氏は『政治批判』にて、完全に修正變更された筈なるべき、福本氏の『簡單なる分析』を、舊態のまゝ、氏はこれを『發展の相こして捉へ』つゝある。

『マルクス主義』と『政治批判』の對立――こは見ないにしても、現段階に對する二つの――修正變更を必要こする程度の――見解が、福本氏の旗の下に橫はつてある。福本氏よく健在なりや。だが、敢て追窮せぬ。たゞわれらは、福本氏の現



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

段階に關する、『簡單なる分析』が、林二郎氏によつて『政治批判』に修正變更されたゞけのことを確め、あらためて林氏の一大雄編に接するをもつて足れりとなすものである。

## 二、林氏「現段階の」寄與

林氏の寄與『國家資本主義トラストの進出』は、左翼が脚下の現段階を示したる精密なる規定の最初の雄編であり、いまさらの如く、此の眞執なる努力には、襟をたゞさゞるを得なかつた。

だが、一大雄編であるだけに、屢々難解に苦しましめる。例へば、國家資本主義トラスト――獨裁的體制――に轉化しつゝあるのか、或は完成したるものか、それは現段階の重點でなければならぬ。しかるに氏によれば、しつゝあるが如く、またしたるが如くに看取される。かゝる難解に備ねながら、氏の分析の批判に這入らふ。

## 三、經濟的暴露の批判

A、氏はカルテル化の發展を說いて、重工業部門に於ける、五つのカルテルを指摘されたが、五つのうち三つは、カルテルでは無い。輕工業部門その他にて、十二のカルテルを擧げられたが、人造肥料、茶業と曹達酒類聯合會(誤植か)は、カルテルではなく、製麻はトラストであり、製紙聯合會は單なる調査機關で、板紙、パルプの特種品がカルテル化され、蠶糸中央會は、その第三部門がカルテルである。少くも右の十七のうち、六つはあひにくカルテルでも、トラストでも無い。氏は、三五パーセントの誤謬の上に立つて、『生産のカルテル化は、重要なる産業の全部門に迄擴大するに至つた』と云はるゝ。氏は氏の頭腦いつぱひに觀念化されたる全カルテルの機構を描かれてゐるやうだ。左に私の調査したるものを示す。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

| | 重要産業(株式會社) | | カルテル・トラスト | |
|---|---|---|---|---|
| | 社數 | 拂込資本金(萬圓) | 社數 | カルテル名稱 |
| 農業 | 二 | 一五〇 | | なし |
| 水産 | 一五九 | 、八五九 | | なし |
| 採鑛製煉 | 八四 | 四一、九三七(銑鋼) | 五<br>一五 | 銑鐵共同組合<br>製鋼懇話合 |
| 石炭産業 | 八二 | 三九、九一五 | 四四 | 石炭鑛業聯合會 |
| 石油礦業 | 一六 | 一四、五四九 | | なし |
| 綿糸紡績 | 五一 | 二七、四三八 | 五一 | 大日本紡績聯合會 |
| 絹糸紡績 | 一六 | 一、四三二 | | なし |
| 麻糸紡績 | 一四 | 四、四一二 | 一 | トラスト(帝國製麻) |
| 毛織産業 | 四五 | 一二、三八八 | 一〇 | 羊毛工業會 |
| 綿織物 | 二一五〇 | 九、六〇五 | | なし |
| 電氣機器 | 一一五 | 一二、〇九八 | | なし |
| 造船 | 五〇 | 一五、六三一 | | なし |
| 機械産業 | 二五八 | 九、七九八 | | なし |
| セメント | 五一 | 七、〇四六 | 一七 | セメント聯合會 |
| 一般窯業 | 二四六 | 五、八九三 | | なし |
| 人造肥料 | 九五 | 一〇、三一一 | 一二 | 過燐酸同業會 |
| 製紙業 | 一四九 | 一六、三五六(板パ) | 一八<br>三 | 板紙、パルプ共同會社 |
| 一般化學 | 六〇一 | 一七、三三五 | 一二 | 曹達晒粉同業會 |
| 製材木工 | 五三三 | 五、八一二 | | なし |
| 印刷 | 二五七 | 二、五三五 | | なし |
| 製糖 | 八 | 三、一〇四 | 七 | 製糖聯合會、酒精協定 |
| 製粉 | 一七八 | 二、九三六 | 六 | 製粉聯合會 |



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 罐詰 | 二九 | 三四五 | 三(約) | 罐詰共販會社 |
| 一般食料 | 一七九七 | 二八、〇五一 | | なし |
| 電力事業 | 五〇五 | 一一一、七一四 | | なし |
| 運輸產業 | 一、七五一 | 九九、三五七 | | なし |
| 建築產業 | 一二四 | 九、七九四 | | なし |

備考、社數の比較は便宜上のものである。又カルテル化してゐるものは、小產業でもこゝに採錄してある。

B、現段階に於ける、企業結合の觀點は、その質的、量的の發展、と又カルテル對立の樣相に置かれねばならぬ。質的、量的の發展とは何にか。1、重要產業部門に於けるカルテルの位置、並にカルテル化の速度、2、各產業部門に於ける各カルテルの位置——例へば市場獨占——並に速度、3、各カルテルの——多くは條件カルテルだが——條件の發展、協定の強度、4、各カルテルに於ける『金融資本』支配の關係——『產業資本』、5、商業資本——特に輸入資本——との諸關係、6、國際市場に於ける位置等である。そして、かゝる觀點よりすれば、大部分は不完全カルテルであり、強度の微弱な初期カルテルの段階にある。

同じことは、大資本財閥に對しても云へる。氏は財閥を、縱斷的トラストとして、外形を遠望されたるにとゞまり、不完全トラストであることを見逃し、市場の獨占力を各個には充分もたず、また相拮抗しつゝある、不完全企業結合の本質的對立を完全に見逃してゐる。重工業部門に於ける、カルテル化の過程と現段階を見られよ。

C、さらに氏によると、かゝるカルテル又はトラストの上に、金融資本のシンヂケートが君臨することになる。廿一銀行の銀行團シンヂケートは、氏によれば『完全に金融市場を獨占し、國債社債の起債、株式募集に際して、工業資本を意の儘に驅使するに至つた』のである。

なるほど一つのお伽噺だ。——氏が自由競爭と市場競爭を、過去のお伽噺とされる程度の——銀行團シンヂケートは、



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

單に國債の引受團にすぎないことを、氏は故意に隱蔽されてゐる。——知られないとすれば迂濶過ぎる——よしんばまた、シンヂゲート銀行團が、形態の上で、氏の註文に應じて君臨するやに見ゆるも、これだけの事實をもつて、『今や明かに金融資本主義に到達し來つたことを知る』ことは出來ない。とりわけ證券市場の發達のおくれてゐるわが國には、ヒルファデイングの見解をそのまゝ、押しつけることは出來ぬ。況んやシンヂケート銀行團を見たゞけで、『今や明らかに』と、きめつけるは明かなる粗忽である。

D、次きに、此の『國家資本』に對する分析に觸れる。第一は、氏の國家觀念の混亂である。第二は國家資本とブルジョア組織體との連絡の誤謬を見る。

すでに、ことはつてもあるが如く、氏の雄編は、難解の個所が多い。だから或は私の頭腦がでんぐり返つてゐるのやらも知れぬ。氏によると、國家がどこに居るのか、トラストが國家か、國家がトラストか。經濟的機關の國家資本によるトラストと、國家が混亂しつゝあるやに見ゐる。またいはゆる兩者の連絡——氏によれば國家及國家資本とブルジョア組織體との連絡——は、氏の示されるが如く、特殊銀行、特殊會社、諸法令、によつて連絡される——この連絡は封建的遺制の殘存によつて妨げられてはゐる——と云ふことはたゞしい。だがそればかりでは い、氏によつて切り離されたところの、政府事業——鐵道トラスト、郵電トラスト、製鐵所、機械製作所等々——もまた同樣である。製鐵所と製鋼懇話會の關係製絨所の羊毛カルテル加盟、また鐵道との諸關係をみれば明白である。

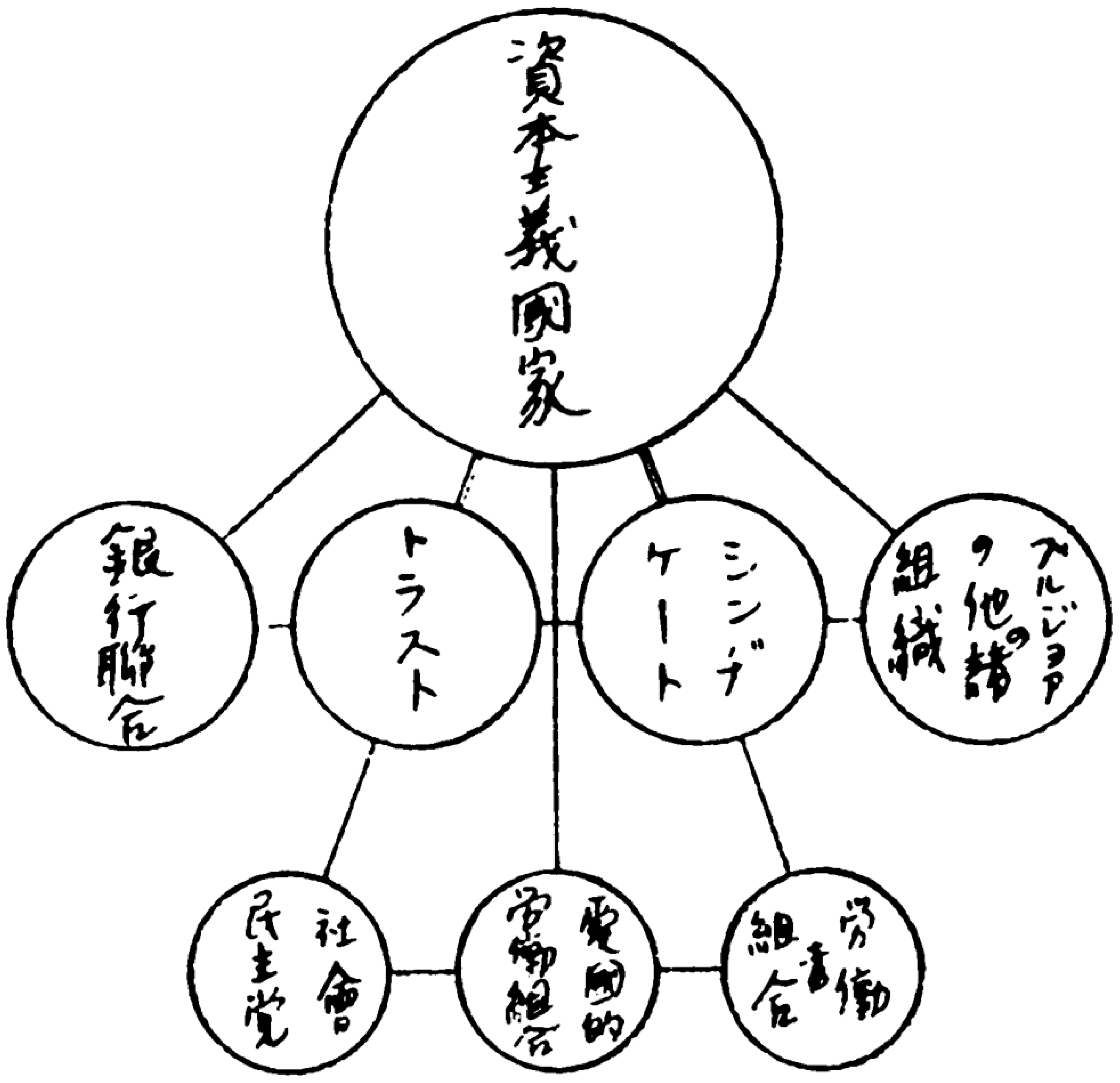
あらためて、氏の教を乞はんがために、私の理解し得たるものを、ブハリンの圖解と對照して示す。

ブハリンの國家資本主義と林氏の國家資本主義トラストの比較圖解

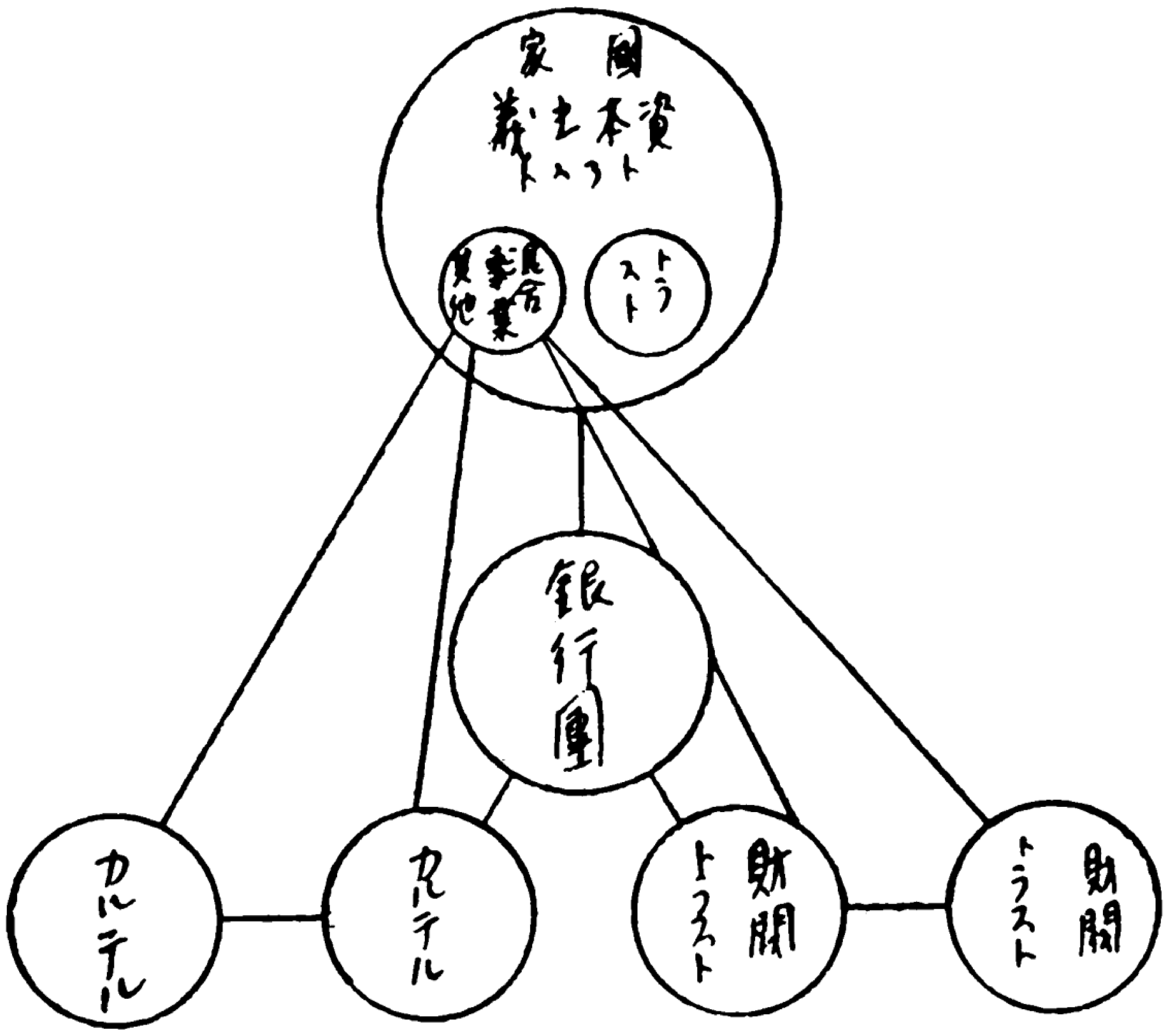


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

**甲、ブハリンの國家資本主義制度の圖解**




**乙、林氏の日本國家資本主義トラストの圖解**



E、氏の混亂はこれに止らない。次ぎには、金融資本、産業資本、銀行資本の混亂が、捲きおこされる。一つ二つを、ひき出して見よう。財閥トラストのうちに、三井、三菱、安田、住友等の金融資本財閥と、大倉、鈴木、古河等の産業資本財閥を混同し、電力五大會社、麥酒、石油の『産業資本』によるもの、氏のいはゆる獨占的横斷トラスト——電力トラストはこれもお伽噺ではあるが、だがそれは好い。問題は、かゝる産業資本による企業結合と、金融資本との諸關係である。これを究めずんば、現段階をもつて、國家資本主義トラスト——獨裁的資本寡頭政治——の完全なる結成となすことは出來ぬ。

敢て、究めざるは、産業資本も銀行資本も、氏の尖鋭なる頭腦には、一様に金融資本として理解されてゐるのではあるまいかと思はるゝ節は、なほ隨所に見らるゝ。

## 四、政治的曝露の批判

A、氏の擧示された範圍に於て、先づ氏に質問を投げる。

質問の意圖は、主として完全に正體を曝露するまでに、成熟したる『獨裁的資本寡頭政治』は、これらを速かに何故解決し得られないかにある。

1、『重工業資本』は、氏のいはるゝ如く、完全に保護されては居らぬ。完全だとすれば、いかに完全であるか。

2、アルミニウム、曹達工業等々、いはゆる重要工業助成案が、提出されないは、何故であらふか。

3、『燃料政策』——一大石油トラスト——は行き惱みつゝある。何故か。

4、農村に對する經濟的讓歩——副業奬勵、自作農創定案、出荷組合等々、——このくらひは、何んでもないとすれば、讓歩の限度は何處にあるか。

5、つひでにお尋ねして置かふ。氏によれば生活必需品の異常なる物價騰貴を惹起したさうなが、アメリカの物價の間



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

違ひではあるまいか。

日本の物價なら、昨年は次ぎのやうな足取りである。

日銀食料品小賣物價指數表(東京)

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 一月 | 二二五 | 五月 | 二二三 | 九月 | 二一二 |
| 二月 | 二二二 | 六月 | 二一七 | 十月 | 二一四 |
| 三月 | 二一九 | 七月 | 二一四 | 十一月 | 二一一 |
| 四月 | 二一九 | 八月 | 二一三 | 十二月 | 二一二 |

B、氏によれば、政治的には普選、經濟的には農村讓步――勞働者には何にを讓步するか。讓步するほどのことは無いと見るか――あれも讓步、これも讓步だ。

普選――おことわりして置くが、普選ではない――選擧權擴張の理由は、氏によれば1、わが無産階級の政治的成熟(自然發生的)2、國家資本主義トラストの積極的政策によつて、氏によれば、この讓步はブルジョアジーにとつて非常なる冒險であり、また何んでもないことである。そのどちらだかは、例によつて不可解である。

かつまた、何んの必要に基く、積極的政策の、あらはれであるかは、說明されてをらぬ。――この冒險――だとすれば――を侵してまで、讓步しなければならぬほど、わが無産階級の政治的成熟は遂げてゐたとも思はれぬ。

氏の言葉の如く、餘儀なくさらしめたほど、成熟してゐたとすれば、わが無産階級の主要勢力なる廿五才以下の青年を除外したる『非普選』の、選擧權擴張にとどまる筈はなかつたのである。また『議會が總てゞはないから……』との說明は、積極的讓步の說明とはならぬ。

だが、問題は次ぎにある。

C、『獨裁的資本寡頭政治』の一樣相として、いはゆる超衆議院的機關――貴族院、樞密院、元老、軍閥――を、大ブルジョアジーによつて完全に操縱する物質的根據を示されてゐる。しからば氏の物質的根據とは何にか。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『貴族院に蟠居する貴族群、樞密院の官僚群、軍閥は、多かれ少なかれ資本家であり、現に重工業會社並に大銀行の大株主として、大ブルジョアジーと密接な利害關係の下に置かれてゐるのだ』

そこで氏は、株主名簿から貴族群の名前を拾いあつめられかくして、獨裁的資本寡頭政治の超衆議院的機關の完全なる操縱が行はれるものとされる。

1、官僚群、軍閥の各個は多かれ少かれ、いづれにするも資本家ではなく、恩給に依存しつゝある。もつとも、氏の指摘された前田利爲は、陸軍大學教官だから、これは軍閥ではあらふ。

2、貴族群のかなり多くは——多かれ少かれの程度よりも遙かに多く——利子取得資本家である、——社債株式よりも、公債に多くを依存してゐる、株式はブルジョア經濟發達の初期に所有したるが多い——と同時に、地代に依存しつゝある。

3、氏の指摘されたものゝ大部分は、社會的、政治的の存在が、稀薄なものばかりである。指摘するとすれば、貴族院に於ける各政派の中心的人物の、ブルジョア諸政黨との關係、金融資本家との關係、『國家資本』に於ける位置、產業參與の諸關係を探明して、これを曝露しなければならぬ。

D、かくて氏は、無產階級の一般戰略の問題に到達され、ブルジョア民主々義の獲得を必然の結論として、ひき出される。——何故にこゝに到達されるかは、說明されてゐないが、——だが、この歸結は、すでに福本氏の一般的規定——『簡單なる分析』——の上に、福本氏自からが歸結したるところのもの——鬪爭目的と鬪爭樣式、淺野氏によれば一般戰略——であり、また淺野氏が、部分的修正と緻密なる規定を必要とされたるところのものである。

福本氏の一般的規定を、積極的に修正變更されたる氏が、同じ歸結に到達し同じ一點に低迷されるは、そもそも何んに基いてのことであらふか。明らかにせられんことを望みあはせて一日も速かに精密なる規定を示敎せられんことを期待するものである。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 五、資本主義安定の否定

氏の所論の範圍内に、できくるだけとゞめ、言はんとするところは、大體言ひ得たりと信ずる。多かれ少かれ、氏の努力を傷つけたるは、私の心から遺憾とするところではある。(經濟的分析の批判と、政治的曝露の批判と、ことさら分けたは、便誼によつたに過ぎない)。だが氏の雄編には、少くも四つの大きな缺陷がある。現段階を國家資本主義への發展の相としてとらへ、氏の豫圖を示されたとすれば——とすれば國際的合理化が缺除してゐる——ともかく、ブハリンの『轉形期の經濟學』の國家資本主義體系の公式を、そのまゝ日本の狀勢に、あてはめんとしたことが其の一である。『ブルジョアジー諸相の、對立——矛盾に眼を閉じたるは其の二である。分析の對像物に對する、理解の不充分なるは其の三であり、これらはすでにわれらの批判したるところではある。

第四は氏の所論の範圍から離れたところにある、資本主義の安定の否定がそれだ。そして氏の雄編の、全的不安定もまたこゝにある。

淺野氏はかつて、『かゝる安定は保れてゐる』といふ、私の言葉をおさへて、『それは正しい、しかし乍ら……』云はれたが、氏は安定を何處に認めてゐるか。もつとも、言葉の端くれで認め、實は否定しつゝある。ロシアの反對派ジノヴイエフ一派の怯懦にくらぶれば、安定を默殺し去つた、氏の果敢なるを愛する。

だが、『資本主義の安定』、——日本のいはゆる左翼は消極的否定をなしゝあるも——『世界資本主義安定』の問題は、すでに解決せられたるところではある。(私はこの問題につき、別の機會を持ちつゝある)

## 六、丸岡氏の非帝國主義論

だが、もちろんわが資本主義の現段階は、今や帝國主義に沒入したるやに見ゐる。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

第一は資本の集積と集中に見らるゝ、第二は金融資本の進出に見らるゝ。第三は企業結合――いはゆる合理化――の展開に見る。第四は『資本輸出』に於て見る。第五は支配階級の反動政策――階級對立の激化に見らるゝ。

かゝる段階に立ちて、敢て過重評價するところの、林氏の『國家資本主義トラスト』は、われらの批判し得たるところなるも、こゝにかゝる現段階の特徴――就中、第一、第二、第三、第五、そしてその發展を條件づけるところの樣相には、まつたく分析究明を怠り、『少しでも資本輸出がなされ、少しでも國内にカルテルトラスト化が行はれ、少しでも金融資本の支配が現れゝば、それが帝國主義時代にまで成熟した證據なのだ』と、揶揄される、丸岡重堯氏の非帝國主義論をも、擊破しなければ　らぬ。

氏の『世界及日本資本主義の情勢と我國社會運動』（社會思想第五卷十二號）は『資本主義の行き詰り』（高橋龜吉氏）より、『資本主義の安定』への、表裏する展開を示さるゝ、他の何物でもないが、『資本主義の情勢と我國社會運動』（社會思想第六卷三號）は、いかに少しでもであるか――一般的狀勢そのうちに於ける特徴――を、少しでも究明するところなく、頭から否定せらるゝ。――もつとも、この點は追つて氏の親切なる教ゐを受けて、あらためて見參する。氏が統計を以て示すならば、われらも統計を以て答える。氏がとくゐとせらるゝ世界資本主義の狀勢を以て迫るならば、われらも世界資本主義をもつて應ずるであらふ。だが、氏の所論のうち、多辯なる御說教は、私の關知せざるところなるも、この論文の意圖する範圍に於ても、氏の『資本主義の情勢と我國社會運動』の、主要部分をなす『資本輸出』――帝國主義の段階に於ける――に對する、氏の見解の誤りを見逃すことは出來ない。

## 七、氏の「資本輸出論」

先づ丸岡氏の『資本輸出』に對する見解の一般を示して見よう。『所詮、日本は資本の輸出國ではなくて、寧ろ資本の輸入國なのである。日本は現在、內地に未だ多くの資本活動の餘地がある。日本ほど金利の高い國はない。かうした時代に



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

於ては、資本の輸出は專ら特殊的であつて、決して普遍的原則とはなり得ない。』（詳細は『社會思想』三月號にて知られたい）

こゝでは、簡單な批判にとゞめる。

A、日本は寧ろ資本の輸入國で、輸出國では無いといはれる。この種の統計の不完全なことはもちろんであり、また私も金額を捉へて『直ちに云々しやうとは思はぬ』ことは、氏と同樣である。だが、氏はわが對外投資額を指摘したゞけで、『日本の外國投資』、日本への外國投資に就て瞥見しなければならぬ』と云はれ乍ら、瞥見もせず、日本は資本の輸入國だと斷言される。

氏のかゝる、空嘘なる斷言は、數字の正直さによつて、みごとに覆沒される。

**對外投資**

| | 千円 |
|---|---|
| 外國の內地發行公債 | 二四〇、〇五三 |
| 在外正貨 | 二五七、〇〇〇 |
| 對外投資額 | 一八六二、七一九 |
| 計 | 二三五九、七七二 |

**外國の內地投資**

| | 千円 |
|---|---|
| 國債 | 一五〇〇、二一五 |
| 流出內國債 | 八、七一二 |
| 地方債 | 一二四、六八五 |
| 社債 | 三三三、一一六 |
| | 一九六六、七二八 |

二十三億五千萬圓と十九億六千萬圓の、どちらが多いかは、氏を煩すまでもなく明白である。

右の數字は大正十四年末現在（大藏省調査）のものだ。震災後の、復舊費、外債、電力社債等の增加でその後變動はあるにしても、この事實を根本的に覆すことにはならぬ。

つひでに、對外投資の每年の利潤、利子收入の增加の狀勢を示して置く（我國際金融の現狀及改善策、附錄、井上準之助著單位千圓）



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

| 年次 | 投資事業純益 | 利子取得收入 |
|---|---|---|
| 大正三 | 四五、三〇〇 | 二、八〇〇 |
| 四 | 四六、四〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 五 | 六八、五〇〇 | 一八、五〇〇 |
| 六 | 八九、九〇〇 | 三六、七〇〇 |
| 七 | 一一四、八〇〇 | 四五、八〇〇 |
| 八 | 一三一、八〇〇 | 五九、七〇〇 |

| 年次 | 投資事業純益 | 利子取得收入 |
|---|---|---|
| 大正九 | 一二六、一〇〇 | 五〇、五〇〇 |
| 一〇 | 一一〇、八〇〇 | 四六、〇〇〇 |
| 一一 | 一〇六、三〇〇 | 二八、七〇〇 |
| 一二 | 一一二、〇〇〇 | 二八、〇〇〇 |
| 一三 | 一二三、〇〇〇 | 二〇、四〇〇 |
| 一四 | 一四八、〇〇〇 | 一九、〇〇〇 |

B、なるほど金利は高い、中央銀行の公定步合でみても、英國五分、米國四分に對し、日本は五分八厘四毛である。市中金利はなほ高いであらふ。

だが、『資本輸出』を決する條件は、金利のみではない。

また氏の云はるゝが如く、內地に資本活動の餘地があらふがあるまいが、これも『資本輸出』の絕對的條件とはならぬ。『輸出資本』——産業又は金融資本——は、投下された地域に、1、新たに市場を開拓する。2、購買力をたかめる。——といふことは、氏の註文に從つて、商品輸出を擴大する——3、投下された國の、『産業資本』こ同樣、關稅障壁の保護を受ける。4、原料と生産の結合のためにも、資本の輸出を絕對に必要とする。わが重工業の對支、露投資、輕工業の米國、墨國、支那、シベリア投資は其れだ。

だから、帝國主義の段階に於ける『資本』は、『武裝された資本』として、勞働力を賣るところの、勞働者さへ存在するならば——賃銀も、低賃銀のみを條件とはしない——荒寥たる砂漠にでも輸出される。

C、氏は頗る單純さを以て『資本輸出』を經濟的にのみ理解されてゐる。だが、かゝる、氏の理解が眼前の經濟的條件——金利、內地未開發——に囚はれ過ぎたものであるかは、わが對支借欵の大部分を、政治的借欵として理解し、かゝる



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『資本』がいかに政治的に働きつゝあるかによつて明白である。

對支借款の條件（滿鐵調査資料十四篇、支那の國債に關する統計）

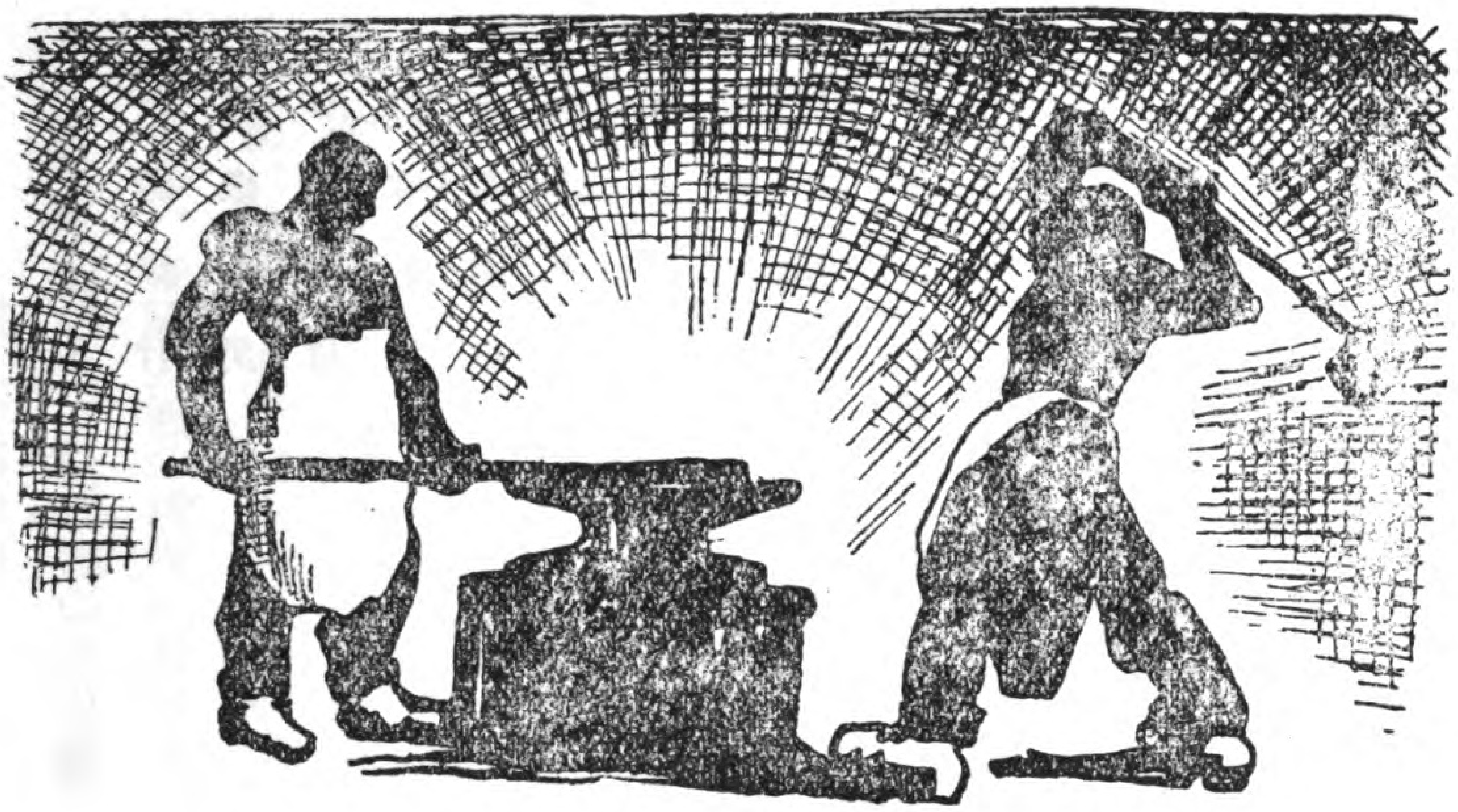
| 借款の名 | 金額 | 債權者 | 擔保又は條件 |
|---|---|---|---|
| 交通銀行 | 百萬円 二〇 | 興銀、臺銀、鮮銀 | 國庫債券 |
| 京畿水災 | 五 | 十一銀行 | 山東三箇所關税 |
| 有線電信 | 二〇 | 興銀、臺銀、鮮銀 | 技師傭聘、材料供給 |
| 吉會鐵道 | 一〇 | 同 | 鐵道敷設權、産業參與 |
| 吉黑鑛林 | 三〇 | 同 | 金鑛、森林收入 |
| 滿蒙四鐵 | 二〇 | 同 | 吉會に同じ |
| 山東二鐵 | 二〇 | 同 | 本鐵道公債金より償還 |
| 參戰借款 | 二〇 | 同 | —— |

D、氏は現段階に於ける、企業結合——從つてその『資本輸出』との連關——同時に企業結合の深化——帝國主義的樣相の發展——の一切を笑殺し去られる。

さればこそ、『資本輸出』を過少評價され、濱田氏のための、いたづらなる御說教を、過大評價されるのだ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



# 京濱電鐵爭議批判

嶋田英雄

## 一、爭議發生より解決まで

昨年十二月二十一日、京濱電鐵株式會社從業員よりなる自治會京濱支部に於て

一、從業員の勞働組合加入を認め[illegible]事
一、健康保險組合設置の件
一、時間外勤務手當改正の件
一、車庫從業員の年功加俸制度制定の件

外二十二ヶ條の嘆願書を會社に提出した。それに對し會社は、重役會開催の上回答すると聲明し、十二月三十日に至り、全部拒絶するむね申し渡した。そこで從業員は三十日の夜、從業員大會の結果、嘆願書を要求書として再び會社にせまり、翌三十一日から一月一日の元日にかけて怠業に入る可く三十一日早朝より除行運轉を開始した。

然るに三十一日夕神奈川縣警察部に於ては、會社側代表と從業員側代表とを



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

川崎署樓上に招致し、「諒闇中につき何とか妥協してもらいたい」とて調停の結果、會社側もおれて、御大喪後十日以內には、『誠意ある回答をなす』とて、一時爭議を中止した樣な形となつた。然るに御大葬後の二月十八日に至り『篤と考慮したるも要求に應じ難し』との拒絕に接した。此の拒絕に接するや從業員側は非常に激昂して、翌十九日に右回答を會社に返送すると同時に、二十一日二十二日と怠業に入り、同時にデモンストレーションを決行し、二十三日から總罷業に入つた。其の間二十四日夕刻に至り當局は二百餘名の警官を動員して、爭議團事務所を襲い、支部長以下團員二百十數名の大檢束を見た。二十六日より城東、王子の各近郊電車も同情怠業に入り、三月三日には東京市電一齊に五分間ストライキを決行することに決定したが當局の壓迫にて成功せず、ついに三月四日に到り、左の調停案にて解決するに至つた。

一、犧牲者七名中三名を復職させること。
二、犧牲者四名には各參百圓づゝ支給すること。
三、爭議中の費用壹千八百圓は會社が負擔すること。
四、爭議中の日給は半額を支給すること。
五、今後解雇者を出さゞること。他の要求條項については會社は出來得るだけ盡力すること。

以上は爭議發生より、解決までの大體の經過である。

## 一、爭議批判の方法

吾々が一の爭議を批判する時、要求條件の獲得の有無よりも、其の爭議が如何に取り扱かわれたかによつてなさなければならないと同時になす可きである。

如何に要求項目の大部分が貫徹したればとて、其の爭議が組合主義的狹域より一步も出なかつたならば、完全なる爭議とは絕對に言い得ない。吾々階級的解放運動はたゞ單なる勞働條件の獲得のみが目的では無く、我々無產階級に與へられたる、歷史的使命をはたす可く一意努力することこそ我が運動の眞實の目的である。故に吾々は常に此の當面の要求——反抗を通じて、無產大衆に全無產階級的政治鬪爭意識を把握さす可く努力しなければならぬ。又其の爲めのストライキである。此の努力なくしては、たゞ勞働條件維持改善萬能主義——日和見主義——の爭議と化するであらう。

たとい獲得條件が如何あらうとも、其の爭議を全體性的に視て、よく全線的政治鬪爭意識把握の一訓練所となり一舞臺となり得たならば、有意義なる爭議として批判なし得るであらう、之に反し假りに全要求が獲得なし得ても、終始一貫して、經濟鬪爭の枠內より一步も出でず、自然成長性的爭議に終つてしまつたならば、無意義なる爭議として批判せざるを得ないのである。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 爭議失敗の原因

以上の見地から京濱電鐵の爭議を批判するに、經濟的鬪爭としても、政治的鬪爭としても全然失敗に終つたと言わざるを得ない。

此の爭議に關し初めから指導した者は自治會本部の、石毛、條出君等の右翼幹部であつた。其の指導振りが、少しも自然發生的な反抗より全線的政治鬪爭意識にまで抽出發展せしめ得ず、自然發生的な反抗のまゝに引きづり行つたと言ふ指導振りに過ぎなかつた。

又獲得し得た條件を見ても、重要なる要求と言ふ要求のほとんど全部が拒絶されて、たゞ價値なき古證文をもらつたと言ふ位いに過ぎない。

此の爭議の失敗の原因の主なるものは何であつたろふか？

第一に、爭議開始の時期が惡かつた。右翼指導者は、正月の初めの雜踏時をめがけて、罷業に入る戰術であつたらしいが、かの京濱電鐵の乘客は、其の九割迄では沿線に居住する、俸給生活者、工場勞働者、學生等であり十二月末から一月七日頃までは、所謂正月休みで、會社も工場も學校も休みの爲め、之等に通勤する者はほとんど乘車無く、乘客が激減するのである。そうした事を豫想しなかつた幹部の失策も失敗の一原因である。それが爲めに、せつかくの怠業（除行運轉）の戰術も思ふ程の功果が無かつたのである。

斯の如く初めから成債がよくなかつた爲め、日和見的從業員がかなりに其の勝利を不安がり裏切つてしまつた。

第二の原因は右翼幹部の官憲に對するあまりにも安價な信用である。一般會員が、官憲の不當取締りを叫彈せんとする樣な時にたゞその爭議團壓迫を恐れる右翼指導者達は之を制止して、此の自然發的生な反抗をより良く展開させ樣との指導をしなかつた事であり、又あまりに紳士的態度(?)をとつたことである。

撤布した、ビラ中にもある如く、『昨年十二月三十一日深更縣當局の調停によつて大葬十日後迄待遇改善問題の延期…なし、ひたすら謹愼して奉悼の意を表して居た私達京濱電鐵從業員の紳士的態度は、汎ねく稱讚の的となつてゐた處であります云々。

從來私達の行動は飽くまで公明であり從つて合法的な運動であつた事は、既に皆樣が御承知の筈だと思います。警察當局も勿論斯く認められて居ります』云々。

如何に紳士的であらうとも、鬪爭の尖銳化したる時に於ても、警察當局が、よく中立を守り得るとは、別な社會ならいざ知らぬこと今の社會では、絶對に考へ得られ無い事である。

紳士的態度を持し、合法的手段のみを行ふ處に、官憲は中立で居てくれるこ考へて居た、又そう數へ込んで居た事はそ



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もく〜の失敗である。
その爲めに一度び總檢束!! を食ふやギャフンこして二の手の出し樣無きまでにへこたれねばならなくなるのである。あまりにも當局を信じ過ぎた——右翼幹部には、當局は常に資本家こ勞働者の局外に居るものだと考へて居たんだらう——事は、廿四日の總檢束の日、幹部の伊藤、松坂支部長等が、檢束者もらい下げの爲め、のこ〜と署長室に嘆願に行つた爲め、之等も留置場へ監禁された事によつてもわかるのである。最早今日の如く階級鬪爭の尖銳化したる時に於て、官憲の中立こ言ふ事は絕對に望み得ない事である。
たまに當局が不干涉主義であつても、其れは理解あり、中立性的立場からなされる、不干涉主義ではない。階級對立の尖銳化、左右兩翼の對立の現段階に於ける、彼等の常套的ギマン政策であり、戰術的意味の含まれたる不干涉主義である。
こうした今日の狀勢をはつきり認識なし得ない處から起る失敗は明かに、右翼指導者の失敗である。其の他交通勞働者の戰術として特に必要な怠業期間の短か過ぎた爲めに、最後に採る可き罷業手段を速め、戰術が行詰まつた事であるが、此の爭議を根本的に不利に導き、失敗の大なる原因をなさしめたものは何と言つても。
『御大喪十日後には必ず誠意ある』この會社の言葉こ、當局の立會を信用して、爭議を一時中止して、回答を待つたる氣長い右翼幹部指導者の失態である。
吾等はいつの爭議、いかなる爭議に於ても絕對に注意しなければならない事は、一般爭議團員の一度び燃へた意氣を喪失せしめぬ事であり、敵に出來得るだけ油斷させ、其の間隙をねらふ事である。然るに會社こ警察當局の言葉を其の樣にまで信頼する、お人よしの右翼幹部は、四十數日の永い間の休戰を宣した事によつて、ついに從業員の赤く熱した氣分をやわらがせ、かへつて敵に挑戰準備の期間を與へてしまつた。それが爲め、完全に挑戰準備整つた會社側は、初めから終りにまで、高壓的態度に出で從業員側をして、非常に不利な立場におかしめた事は競へぬ事實である。
以上によつて、此の爭議を概括的に批判するならば、經濟的意味に於ける爭議こしては、支拂いおぼつか無き空手形を握つたと事になり、政治的意味における爭議こしては、たゞ一度ゼネラルストライキの擧に出でたこ言ふに過ぎず、其のゼネラルストライキさへも技術的失敗によつて不成功に終つてしまい、初めから終りまで潛在的要求をたゞづる〜べつたり指導したに留まり、社會主義的政治鬪爭主義の立場まで誘出展開せしめ得なかつた爭議で終つてしまつたと言い得る。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 理論闘爭への不滿

## ——主として婦人問題に關して——

槌田かい

私は或る組合に席をもつ女です。私は、其の組合の研究會及び茶話會で、教育され訓練されてゐる女です。そして猶ほ、私は、無產階級の新聞雜誌機關紙パンフレット等によつて啓發され、指導され、より多く必要な智識を貪りたいと希つて居る女です。その上まだ慾深く私は、二重五重の束縛に苦しむ無產婦人をどうして自覺させ、どの樣に組織されるのだらうかと、絕へず至らぬながら注意を向けていたのです。從つて私は、婦人問題、婦人運動に對して、特に神經を銳く働かさゞるを得なかつたのです。こゝに私が書せて貰ふ事は、決して只だ無產婦人のみの問題でなく、全無產者階級の問題であらうと思ふのですが、私が女である爲に、些か乍ら女の方面に目をつけて來た便利と『無產者新聞』や雜誌『勞働者』『未來』などの婦人に關する諸論文を讀んでの感想なので、わざ〳〵特に『婦人』と限ぎつておいたのです。

（一）

先づ第一に私は、前記の諸紙上に載せられてある論文の一樣に難づかしく、コケおどかし的であるのを不服に思ひます。これが貧乏と無智と隷屬に陷れられて居る勞働者階級に理解され得るものでせうか？　それは一概に『階級意識が鈍いからだ！』では片づけられまいと思ひます。何故ならば私共の信奉する所のマルクス主義は、滔々たる論文句調と衒學的な文句と壓迫的な筆致によつて、相手方を面喰す所に眞意があるとは思へないからです。平易に親切におだやかに說明し得る所に、無產階級運動の理論の强さや廣さや力があるのだと思へるからです。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

何故こんなに、モノ〳〵しい角ばつた態度で、同じ無產階級運動の陣營内に大亂鬪を起さねばならないのでせうか。

何故、折衷主義的だ、組合追隨主義だ、といふ汚名(?)を、ベタ〳〵と塗りつけねば氣がすまないのでせうか。

勿論、理論鬪爭は十分に徹底させねばならないし、無產階級運動の方向を誤りなからしめる樣、周到なる注意と見とほしをもたなければならない事は心得て居ります。だから、例へ同じ陣營内でも、猛烈な討論の起こされる場合もあるでせうし、或る一時、或る程度までも對立する樣な事もあらうとは思はれますが、今日の狀態が無理からぬ『理論鬪爭の展開』であるか、否かが、私のギモンなのです。

私は昨今問題にされて居る『無產婦人問題』の論文を、大體讀ませて貰つたのですが、成程尤もだと解らせてくれた論文は先づ〳〵無いのです。私には、私の生活の爲の仕事もあるし、雜務もあるので、心ならずも不勉强にもなり、勿論基礎的智識の不十分から、理解し得ないのだとも思ふのですが、これ程の努力と熱意をもつて勵けんでいる者にさへ解らない樣な論文なら、勞働者に不必要なものなんだと考へたい位です。全く無產階級的理論ナンテ、糞でも喰へと言ひたくなるのです。この位、壓倒的な形式の文章でありながら、この位要領を得ないボヤけた内容をもつ文章も、少ないと思ひます。確かに勞働者の腦みの種であると私は信じます。

言ふまでもなく、無產階級に必要な理論智識は、必ず即時に無產者には呑み込めるものだと云ふのではないのです。マルクスの資本論が、路傍の勞働者にも直ぐに理解されるといふのではないのです。『資本論』もむつかしい。『共產黨宣言』もむつかしい。『國家と革命』もむつかしい。然るべき人の然るべき論說は、むつかしいに違ひないのです。けれども道を辿つて、順をふんで學んで行けば、ちやんと理解されるのです。相當な豫備智識さへ持つていれば、正當な結論に至る樣、科學的な仕組が立てられてあるのです。

（二）

私は次に如何に難しげに、廻りくど〳〵論爭されているかを知る爲に、最近の論文、即ち『勞働者』三月號、『我々は婦人運動にありて何から始むべきか』の一部を拜借してみやうと思ひます。

原氏にあつては、婦人運動の當面が左の如く規定されて



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

居る。

『以上の如く我々は、婦人運動當面の道程を、全無產階級的見地より——無產階級の現發展段階、階級鬪爭の現發展段階より、從つて我が當面の鬪爭目的及鬪爭樣式の見地より——ブルジョア民主主義獲得の援軍編制の過程として規定し、婦人運動そのものゝ發展段階としては、これを方向轉換の過程として規定する。

かう解する事によつてのみ、全無產階級的見地より、全無產階級運動の發展の全意義の理解の上に立ち、我が婦人運動當面の過程、及その過程の特殊性を眞に辯證法的に把握し得るものと信ずる。』

(西部氏はこれに對して、こう答へて居る。)『その素ばらしき左翼的言辭にもかゝはらず、我々はこゝに、その折衷主義の本質の曝露を見逃す事は出來ぬ。氏によれば、全無產階階的見地よりの婦人運動當面過程と婦人運動そのものゝ發展段階は排他的分裂的に考へられて居る。即ち全無產階級的見地より、先づブルジョア民主主義獲得の爲に、援軍編制過程なれと。然る後ちその內部に於て方向轉換に始るかの如き、段階的な見解、それは眞に辯證法的に內的連關に於て把握されて居ないものと言はざるを得ない。』

この『何から始むべきか』は、大體この二つの見解を數頁に亘つて廻りくど〱縷々と述べられて居ます。或る所では秋川陽子氏の一節を引用したり、或る個處では、その才筆をもて遊んで徒に問題をゴタつかせて居ます。そして結局のところ、西部氏の落ちは左の引用句であらうと思ひます。

『我々が團結する前に、又團結する爲には先づ決定的に明瞭な一線によつて分れなければならない。』(レーニン)

『かゝる理論鬪爭に於て、我々は、現段階の分析の上に立つ婦人の特殊なる社會的歷史的地位を分析し批判し、かうして我が々運動上の連關に於て婦人運動の鬪爭目標、鬪爭樣式を、一應理論的に解決せねばならぬ。かゝる理論鬪爭の道程は、かゝる理論鬪爭に貫れたる運動の主體を結晶する過程たり得るし、又たらしめねばならぬが故に理論鬪爭は公然の舞臺に於て、全國的規模に於て行はれねばならぬ。我々はかゝる鬪爭を開始し得べく、又しなければならぬ。』(無產者新聞)

さてこゝに拔書をしてみると、それが要點であるだけに、判合ひにその七むづかしさと繁さに名句のラレツが鼻につか



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ないですみますが、それにしても、何と衒學的な言葉でせう。又何と『かゝる』の多い事でせう。

そこで私が、も一度兩氏の御意見を失禮ながら俗くつぽく言ひ直すと、原氏は婦人運動は先づブルジョア民主々義獲得鬪爭の爲の援軍を編制しなければならぬ。そして眞の無產婦人運動たらしむべくその內から分離をしなければならぬと云はれ、西部氏は、その原氏の意見を折衷主義的なものである。先づ我々を結合の前に分離をせねばならぬとされるのだらうと思ひます。即ち援軍編制に際して、編制後に左翼結成をするといふのと、編制前に判然と左翼結成をしなければならぬといふ意見の相違の様に考へられます。

私は原氏の意見でも、きつと、援軍編制の場合に、テンデバラバラに出かけて行つて組織されるのではないと思ひますが、とにかくこの論文の中では、西部氏の意見が正しい樣即ち左翼運動のとるべき道であると思ひます。併しながら左翼結成といふ事が、援軍編制の場合に、少しも不利でないならば結構ですが、餘りにも闡明なる左翼結成の爲に、その援軍編制がされ得ない樣な事があつた時には、如何に處すべきか。そうした技術上の問題は別に殘されて居るわけです。

併しこうした私の意見は、又の時に言はせて貰ふ事にして、今日流行の理論鬪爭、左翼內部の論爭のされかたについて、も一度くりかへしたく思ひます。

こゝに拔萃した原氏と西部氏の論爭だけでも分る樣に、何と抽象的な觀念的な物言ひなのでせう。もつとサバサバと簡單に明瞭に進めて貰ひたいと思ひます。この樣に言葉を殊更らに難しくされ、新語を製造され、論點を意識的にボヤかして、それにから冗語を威たけだけと、モテ遊ばされては、たまらないのです。僅かな時間と乏しい智識に賴つて努めつゝある私共の立場を御考へありたし。無產階級運動は、書生つぽの自己淘醉的戲文では解決されないのですから。

『分析し究明し批判』する事は、ほんとに大切な、しなければならない事だとは分りますが、『我々は分析し究明し批判しなければならぬ。又なし得るであらうでは。』納らないと思ひます。『かく解する事によつてのみ……辯證法的に把握し得るものと信ずる。』なども、かく解する事が辯證法的であるか、否かゞ問題だと思ひます。私はその邊に自分よがりの土臺を築き、自分よがり展開がなされている樣に思ひます。

とにかく私は、自分の意見を發表されるなら、人に解る樣、讀ませる樣にしなくては、發表される目的が消へて終ふだらうと云ふのです。『目的意識的』を强調されつゝ、『目的意識的』を忘れていられるのではないかと思ふのです。

## 既成政黨を振撼させた 山本懸藏君の立候補

意氣と熱の人山懸君は、一時『病篤し』と傳へられて、果して無事に出て來るであらうかと、氣づかわせた八ケ月の獄中生活を終へて、意氣と熱とを愈ゝ益ゝ加へて、加之に大に肥滿——ほんとは病氣のために腫れて——して出て來たのは二月の初めであつた。そして意氣と熱の彼は席の暖る隙もなく、わが勞働農民黨の公認候補として、補缺選擧に立つたのである。

十四の小僧から、三十四の今日まで二十年間、筋肉勞働者として、はたわが無產階級解放運動の戰士として、每に先頭に立つて鬪つて來たことは、誰れもが知らぬものゝないところのことである。そして、今度の彼の立候補が、もとより當落が眼中にないのは無論のことで、彼は言ふ『無產者諸君が現代政治に對して、甚だ理解がうすいのでこれを無產者の立場からする政治教育と、また一面からは既成政黨の醜狀暴露が立候補の眼目で……次の選擧に、縣東部より土にまみれた鍬とる小農民諸君の中から候補者を立てたいからである』

ブル政黨の中にあつて、もつともよくその醜腕を振つてゐたあの松島遊廓事件の盟主故岩崎勳の補缺選擧、その選擧區の沼津市に山懸君が乘り込んだ時は、彼の懷にはほんの參拾貳錢の金きりなかつた。これで選擧運動が出來るだらうか、といふのはブル政黨のことで『彼無產政黨何をかなす』と、同市一流の料理屋、旅館に陣取り、美妓を相手に酒くみかわす、たかをくゝつたブル政黨、政友、憲政の兩候補が、同市國技館に於ける最初の演說會——しかもブル候補の無料演說會に對して、拾錢の入場料をとつた演說會——そしてまた、これによつて事務所費、會場費、印刷費等を生みだした演說會の、われんばかりの人氣に驚いたことは言ふまでもあるまい。ブル候補の門前は俄に自動車が動き初めたのであつた。

無產階級の力は、組織と熱と活動とにある。そして言論は唯一の武器である。參拾貳錢の山懸君の事務所には、地方農民諸君からの米と味噌、醬油の兵糧は持ち込まれた。運動員は動員されて、ポスターはり、ビラまきサンドウヰチの宣傳隊等が、あだかも眠つてゐた巨人が眼を醒したやうな、潑溂たる活動は初められた。町から村へ、村から里へと。

『身體と意氣とを資本の勞農黨候補山本懸藏君の沼津市の選擧事務所にはふさわしくない、人通りの少ない、露路をはいつた西條町に、自轉車が二臺ブル候補の自動車の格で立てかけてある。上下とも六疊二間の室には街上宣傳のメカホンやら、赤ずりのポスター、ビラが雜然としてゐる。……折りから歸つた同志の一人が、香貫農民の十票は確ですと、正直な報告をもたらすと一同がドット笑ふ。記者も學生の選手合宿所にても來たやうに、明い氣持ちになる。……はしご段を降りやうとすると、菜葉服の一人が、山崎さんから握り飯十人前寄附と山本候補に注進に及んだ』と、地方新聞記者さへもが、氣もちよく書いてゐる。

かくて、五日間に演說會を開くこと八回、開票の結果山本候補の貴き得票は實に二十一票であつた。

山懸君はこの經驗を語つていふ。

『農民には農民の言葉を以つて語れ！』（レーニン）

（まさいち）



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 組合運動の內部に於ける前衛黨の日常の任務

ゲー・スモルヤンスキー

組合委員會が、共產黨インターナショナル第七會擴大執行委員會に於ての如く、かくも全面的に、かくも詳細に前衛黨の組合內に於ける具體的な仕事に關係したことは、コンミンテルンの歷史に於て初めてゞあること、主張することが出來る。そしてそれは偶然事ではない。今や組合の問題と組合の仕事とが共產黨インターナショナルの注意の中心に立つた。組合の仕事の問題は、統一の問題や大衆指導の鬪爭の問題と密接に結び付いて居る。我々は××の組織に對する準備の仕事をなす時代、即大衆を組織し指導する時代に生活して居る。正にその爲に黨と組合との相互關係の問題、組合內に於ける共產主義者の具體的有機的の仕事の問題が非常に重要なものになつて居る。

既に第五回世界大會以後――共產黨インターナショナル第五及び第六回擴大執行委員會に於て及び共產黨インタナショナル執行委員會からドイツ共產黨への公開狀に於て、――黨の仕事の七割五分は――組合の仕事と云ふ合言葉が發せられた。しかし丁度これと同時に××黨は一連の危機を經驗して居たので、この合言葉は、實現され得なかつた。最强の西ヨーロッパの支部を動搖させて居た「極左翼」病によつて、或程度まで××主義者は組合に組織された大衆から孤立してしまつた。又一方ではボルシェビキ的訓練が最も不充分であつて、固有の「因襲」を形成して居た黨の組合部に於て、右翼のリキダトールは非常に屢とその支持者を見出した。例へばスウェーデンに於て、ヘーグルンドが黨の殆んどすべての組合部



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

員を伴つて裏切りをした時がそれであつた。今や××黨はひたすら大衆を獲得する任務について居る。共同戰線の戰術の應用は緊急の問題となり切實となつて居る。

これに對する出發點としては、「極左翼」と右翼との誤謬の克服のみならず――第一に――資本主義と勞働運動との內部に起る新なる過程も亦役に立つ。資本主義的合理化とその結果――幾何級數的に增加する搾取、大衆的失業、男子の勞働を婦人の勞働によつて置きかへること、熟練勞働者を不熟練或は半熟練勞働者で置きかへること――すべてこれ等は勞働者階級をして統一の問題に當面させる。就業勞働者と失業勞働者とを、後者が無政府サンヂカリズムやストライキ破りの豫備軍とならぬ樣に結合すること、男子勞働者と婦人勞働者との團結、產業部門を基準としての勞働者の統一（職人根性に對する鬪爭）、プロレタリアートの內部に於ける種々なる層の協同及び、最後に（問題中の問題！）――國際的統一の問題等これである。資本主義の新しき過程と同時に、勞働階級の內部に激しい分化が行はれてゐる。世界の勞働組合の圖面に目を向けるならば、第一に、過去數年に於いて組合が疑ひもなく强まつた事が確認されねばならない。今アムステルダム派はこれで大騷ぎをやつて居る。併し、此の成長と此の結合とは同一方向に向つて居るのではなくて、二つの異れる互に完全に對立した方向に向つて居ると云ふこと、即ち、一方には改良主義的組合運動を先頭として段々大いに右翼化し結成することが行はれ、他方に於ては大衆を下から左翼的に結合することが行はれて居る。アムステルダムの雜誌の最近號（ディー、インテルナチオナーレ、アルバイターベウェーグング、第四號）に於て、ジューオーの口を通じて、右翼指導者は自分が資本主義安定の公然たる協力者たることを宣言して居る。同樣な未曾有の卑屈な態度で同誌同號で、狡猾なる官僚であり、「インターナショナル」の副書記であるザッセンバッハは、戰線の統一に挑戰することを宣言して居る。總罷業及び坑夫ストライキ中の總評議會の指導者の行爲の爲に、「英國反對派」――パーセルとヒックス――はザッセンバッハとジューオーとの手中に戾つて行つた。「上からの左翼運動」の他の形態、所謂「產業別インターナショナル」の反對派（この組織の幹部の大部分よりなる）はそれと丁度同じやうにだめになつてしまつた。一切の產業別インターナショナルの中で最も



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

反動的である、國際化學勞働者同盟の「指導者」ステンユイスの、最近のオランダ社會民主黨大會に於ける「革命的」演說は彼の生涯に於ける重大なる事件であつたが、彼はすべてのオランダの統一委員會を破壞することをフキンメンに要求した。加之、フキンメンはステンユイスの攻擊に對する自己の辯護に於て、次の樣に議論してゐる。それは明瞭なるものであるから注目に値する。即ち

「我々は我々の右翼の友――即ステンユイス――に並んで立つて居る許りでなく、彼等の前に立つて居り、彼等に向けられてゐる多くの打擊は我々も引受けて居る」(フキンメンの論文「共產主義者と我等」)

他の最も重要な階級鬪爭問題の全系列に於て、フキンメンの位置は非常に錯亂した曖昧なものである。即ち例へばオランダの殖民地インドネシアに於ける騷動の問題では、國際的團結に對する彼の態度の爲に名聲を博したフキンメンは、「一國だけで」帝國主義と戰ふのは彼には不可能であると云ふ見地に立つて居た。此の如く改良主義の此の部分では、多形狀性より單一性への進化が明かである。

他の極に於ては他の光景を見る。此年は大體に於て左翼の一般的成長と一般的結成のみならず、又その分化と云ふ特徵を持つ。イギリスには、下から出た左翼運動の力强き結晶過程が起り、それは益々小數派運動の周圍に集群しつゝあると云ふ典型的な例を見る。これに反して他の國々に於ては、種々なる左翼のグループの分裂と並存(ベルギー、オランダ)とを見るが、統一委員會に對する××黨の嫉妬的、分派的態度及び又共同の旗の下にブルジョアー的改良主義的行動を我々の戰列に密輸入せんとする敵の試みさへを見る。かくてブルガリアでは、ザンコフの兄弟(フリッシスト)が、社會民主黨の右翼反對派の指導者カザツソフ博士と共に共同戰線の合言葉の下に新しき勞働組合同盟を建設せんとした。

エジプトではツアグルル、パシャの一派が又共同戰線の旗の下に勞働同盟を打ち碎いた。パレスチナに於ては「左派」パオールユダヤ主義者は右翼とこつそり了解して、共產主義者の剿滅を唯一の任務とする「左翼」をつくらんとして居る。

併し此等のこと一切は主要な事柄即ち我々は統一の鬪爭の新しき相に這入つて居ると云ふこと――統一の鬪爭の重心は



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 目ざめたる支那

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

下へ即ち工場へ移つたと云ふことを紛らかすことは出來ない。統一委員會、「共同の友」無産階級統一委員會等の、殆んど到る所に於て記録さるべきその成功は、正に此形態が(序に云ふならば、工場委員會の存在しない國では共同戰線と云ふことが、工場委員會を得る鬪爭の基礎にならねばならない)大體今日の發展段階に對應するものであることを示してゐる。

殆んど全く下からのみ組織された、ソヴエット、ロシヤ聯邦訪問勞働者代表者派遣が如何に偉大な運動を呼び起したかは云ふも愚かなことである。第一回のドイツ派遣代表者だけで五十萬の參加者を持つた千有餘の集會を組織した。第二回の派遣代表は十一月十二日迄に六百六の集會を行ひその中の三十は社會民主黨の勞働者と國權黨とによつて呼び集められた。チエツコスロバキアに於ては、ドイツ派社會民主黨の中心地即ちカールスバードを奪取した。こゝでは社會民主黨の勞働者がソヴエツト聯邦への旅行の爲に黨から除名されたのである。

勿論、勞働組合の生長と、資本主義の壓迫の爲に盛んになる、勞働者階級の活動を、改良主義的指導者も亦利用して居る。さうするより外には全くありやうがないのである。併し發展の辯證法は、對抗する過程が他の極に凝固することにある。此の過程のテンポは前者のテンポより早く且力強く、又不可避的であつて、左に向つて發展する大衆が上記の改良主義の假面を粉碎し、それによつて勞働運動の簒奪者が簒奪されると云ふ結果にならねばならない。

さて此の條件の下に於て××黨は何をなさねばならないか? それは明かである。即第一のそして最も重要な任務は、工場と組合とへの組織的侵入である。此の目的の爲に黨は此の事を要求する。即ち

(イ) 黨に組織された總ての勞働者は組合に關係すること、
(ロ) ××主義者は組合に於て活潑なる組織的の仕事をすること、
(ハ) 組合内に強固なる黨の組織即活動力のある××主義者の分派(フラクション)を作ること、

**さて如何にして黨は此の任務を遂行するか? 疑ひもなく「コミンテルン」の殆んどすべての支部に於て組合の仕事の領**域に於て一定の成功が示された。この成功の曲線は確かに色々違つては居るが、成功は到る處にあつた。しかしこれは何



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も我々の仕事の弱點や缺點をかくしてもいゝと云ふ事を意味しない。そして過失もあつた――それは屢々此の如き組織上のものばかりではなく、政治的性質のものであつた。さて健全な自己批判から正しい結論を引き出す爲には、此の成功と過失を靜的に(「絶對に」靜的な現象として)考へずに、動的に考へなければならない。云はば成功と過失とを「それ自體」として見ずに、その傾向とそれの組合内に於ける黨の仕事の條件との關係を研究しなければならない。かく考へれば多くの過失は生長の困難であり、多くの成功は可成粗雜な缺陷があることが明かになる。

さて去年における黨の最大の成果は何處にあつたか？ それは我々の仕事によつて到る處に大衆の内に共同戰線に對する興味を呼び起した所にある。多くの國々に於て我々の宣傳が統一委員會の形成に到り、改良主義派の勞働者の著しき大衆を運動に引き入れた。全體としては、最大の功果は我々のアジテーションの仕事である。併し我々は我々の煽動の成功を又組織的に固めることを了解して居なかつた。我々の煽動的政治的功果のテンポと黨による我々の影響を組織的に固めて行くテンポとの間の不均衡中に、我々の仕事の主なる過失が含まれて居る。第一の問題――黨に組織されたすべての勞働者が組合に關係すること――を論じやう。此れに關する前進運動は存在して居るが併し、そのテンポは十分でない。最大の成功をおさめたドイツ國に於ては、一九二六年七月には黨員の六割、十月には七割が組合に組織された。組合に組織することが問題とならない黨員(家婦等)七分乃至八分を除いても、尚黨には二割の組合に組織されて居ない勞働者が存在する。黨員の中に非常に失業者がある事又極左翼の反組合的政策等を考へに入れるならば確にこゝでは發展の困難が問題になる。併し事實は事實である。他の國に於ては黨員を組合に組織することが尚遲々として居る。イギリスに於ては組合に這入つて居る黨員の割合が全く七割にまでも退歩したが、これは確かに特殊な黨には「無關係」な理由からである。即ち總罷業及び坑夫ストライキの間に組合に入つてゐない坑夫の妻君が澤山に黨に這入つたからである。

他の問題は××主義者の組合役員を教育することに關係して居る。例へばドイツに於ては地方の組合の中には多數の共産主義的な或ひは反對派のものが居るそしてこゝでは××主義者が悲しむべき狀態にあつて、指導的機關に選出し得る樣



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なものが居ないこ云ふ樣なことは珍らしくない。××主義者の組合役員は、組合員と云ふよりは寧ろ組合の中の黨の煽動者であり、宣傳者である。そして、この中の極小部分が眞にボルシェビーキ的の教育を持つて居る。それ故に××黨の最も現實的の日常の仕事は、組合内で小さな仕事をすることを理解して居り、しかもその場合に革命的展望を忘れず、自分の仕事をプロレタリアの××の大きな窮極の任務と結びつけることを知つて居る××主義者の組合役員を作ることである。

最後に最も重要な問題は××主義者の分派の仕事である。こゝに於て最も密接に黨こ組合との相互關係の問題に觸れ、又こゝに於て實にレーニン主義の問題の立て方と全然異つたものが生ずるのである。殆んご總ての各國支部に共通に缺けて居るのは、××主義分派の仕事の質が悪い事である。××主義分派を形式的に形成するここは全速力で進んで居る。ドイツ金屬勞働者同盟には三〇〇の分派が、ドイツ化學工業には八七、紡織工業には六〇、存在して居る。アメリカ共産黨の組合部でさへ三〇〇の分派を數へて居る。しかし實際にはこの分派はごれだけの意味を持つか？　彼等組合の前衛は工場の日常の狀態に於て何をなして居るか？　こゝに於ては尙量が質に變じて居ないここは疑ふべくもない。

さて統一的な組合運動のある國々では××主義分派の仕事は、黨が組織的に、多少なり機敏に大衆に働きかける努力であるが勞働運動が、分裂して居る國や獨立の××的組合のある國ではこの問題は、今日迄は尙全く違つた意味を持つて居る。此の如き國では××主義的分派の意義の政治的無理解や、黨と組合との相互關係についての不明確な考へがしばしば行はれてゐる。此等の國では一般に××的勞働組合は數的に黨より強大である。そして此の「客觀的」(統計的)の力の關係が勞働階級の前衛としての、組合運動の指導者としての黨の役割を低く評價するに到ることが珍らしくない。

**此の點について、オランダが一つ典型的な例を表はして居る。**××的組合同盟、全國勞働者書記局(NAS)は黨よりは遙に強く遙に古い。このサンヂカリスト的組織は、改良主義的勞働組合同盟よりも尙以前に、加之社會民主黨よりも以前に創立されたものである。サンヂカリズム的傳統の中に育てられて、「此の組織は自分自らに滿足して居り」そして屢自分



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の「完全なる」肩に黨の政治的機能を引き受け勝ちである。加之、NAS出の××黨員は只「××主義者の分派」と云ふ言葉を使つても怒つて了ふのは怪しむにたらぬ。彼等によればNASの中には、この組織が××的であるから××主義の分派はいらないし又、改良主義的組合の中では、若しその中に××的の分子があるならば其れを即刻NASの中に引き入れなければならぬから、そこでも××主義分派は不要であると。NASが改良主義的組合に於ける統一委員會を改良主義的なと云つて打こはし運動をしてゐること、及びこの組織の數的存在が既に數年來に氷點にあると云ふことを尙特に附言しなければならない！ NASの中には、その人數が數十人位の組合（農民の組合は十七人、使用人の組合は五十四人から成る等）があるも、併しそれは「完全なる」考慮から産業別部門の完全なる「裾飾」を享樂するために維持されてゐる。これが分派主義とサンヂカリズム的慣例の適例ではないか!?

しかし又、統一勞働總同盟（CGTU）の强大なる基礎を持つフランスの如き大きな黨に於てゝ屢ゝ尙××主義的分派の政治的意味の認識の不充分なことに出會する。去年黨は組合の仕事の領域に於ても又改良主義的勞働者への接近に於ても大前進をなした（プロレタリア統一委員會、混合委員會等）。一九二二年のサン、エチアンヌ大會に於ては未だ執行委員會は全く無政府（アナルコ）サンヂカリストの手中にあつた。今日に於ては執行委員會の委員は二三の例外はあるが全部××主義者である。そしてフランスの同志は時々無理解にも頭を振つて「近頃あつた鐵道從業員の會議では、代表者百五十名の中百三十五名は共産主義者であつたのに、何故それに分派を作らなければならなかつたのか？」と云ふ。こゝが肝心な所なのである！ こゝに黨による組織的指導の政治的意味を十分に理解して居ないことが現れて居る。そしてこれが一般の仕事に影響してゐる。フランスに於ける我々の仕事の缺點は何處にあるのか？ それは眞に階級鬪爭を行ふ唯一の機關、黨のCGTUとが運動が既に粉碎して了つたときに初めて、その運動をやり始めると云ふ所にある。運動の組織的準備がかけて居る。そしてこれは黨による强固な組織的指導によつて最も容易に實現されるのである。

CGTUの數的の且社會的成員が又一つの弱點を形成して居る。改良主義の同盟に比較すれば確にCGTUは遙にヨリ



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

善き產業的の基礎を持つて居る。改良主義者は只鐵山勞働者に於てのみ強い。且又この事實を我々の階級の敵も承認せざるを得なかつた。一九二六年十一月十八日の「鐵工所委員會報告」には氣の毒氣に次の如きことが說かれてある。即ち「事務員がCGTに協力しても、CGTは益々勞働者に見すてられるだらう。そして今日では工業の中心地では勞働者運動の指導はCGTUに歸して居る。」

併しCGTUは、かく云ふは妙に聞ゆるかもしれないが、主として熟練勞働者を抱含してゐるが全勢力を巨大な數百万に登る不熟練勞働者の獲得に向けることを理解して居ないと云ふ事情がCGTUの組織上の缺點である。それだから統一勞働總同盟の組合員の動搖があり量的增大が小さいのである。これが又行動の組織的準備が不十分である社會的根據である。

こゝに又、出したファシストのイタリー――そこでは勞働組合がファシストによつて完全に破壞され指導者は鬪爭を斷念して居る――に新しい組織形態を作らうとする二三の同志によつてひろげられた問題がある。「革命の波が高まり來る展望」の下に於てさへ此の提議のよりもつと抽象的な公式を考へることは困難であらう。恰も黨が機械的に「自分から」大衆運動をつくり出すことが出來るかの如くであつて、反對に黨が廣大な階級組織の歷史的に與へられた形態と有機的に結合し、これに對する指導權を得ることによつて、黨自身が一つの大衆的組織となるのではないかの如くに考へられてゐる。黨は正しく行動して此の抽象的な形式を拒否した。如何となれば、之を採用するのはファッシストの砂漠の砂地の上に浮雲の家を建てるに等しいからである。

新しい組織は突然には發生しないこと、勞働者運動の傳統と政治的訓練がこの際非常な役割を務めることゝは、警察恐怖の國即ちバルカン諸國の勞働運動が通つて來た進化から學ばれる。次の樣な政治的訓練のあつた國では正に勞働組合は**維持されて來た。ブルガリア――そこでは二十年の反改良主義的傳統が存在し、組合運動が黨の絕對的政治的影響の下に**發展した――に於ては勞働組合同盟は、最も殘忍な恐怖にもかゝわらず、ツアンコフ顚覆の後には忽ち再び立ちなほり始



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

めた。これに反してユーゴースラヴイヤに於ては一九二〇年の例外法によつて破壞された勞働運動の恢復は進行最も困難である。そして勞働運動がヨリ發達して居た元オーストリアに屬したスロベニア、ウォエウォディナ、クロアチア地方では恢復は最も容易に行はれて居ると云ふことを云へば全く十分である。ルーマニアに對しても亦同じことが云へる。こゝでは白色恐怖に對する抵抗はチーベンビュルゲンと、バナートに於て最も功果を上げて居る。イタリアの組合運動は非常に容易にファシストによつて破壞され得たが、それは例へば其處に何等の傳統がなかつた爲ではなくて、サンヂカリズムの傳統があつた爲であり、大衆が何等政治的訓練を得て居なかつた爲であり、組合が大衆及び工場に組織的に根をはることが不充分であつた爲であつた。

尚共同戰線の鬪爭に於ての錯誤について二三言を述べやう。統一戰線の戰ひは演習(マヌーバー)でもなければ信仰箇條でもない。それはプロレタリア的變革を組織するの戰であり、勞働階級の多數を獲得するの戰ひであり、勞働階級を指導するの戰ひである。改良主義的指導者にとつては正に、統一の努力は專ら我々の戰列を分裂させる掛引であり、又赤色勞働組合運動を淸算する掛引である。此等の指導者はプロレタリアートの革命的鬪爭に反對である爲にこそ、彼等は又共同戰線に反對し「組織的統一なくしては、統一戰線も亦あり得ない」と云ふ樣な合言葉を使用する。同時に彼等は「演習」をしたり、「別々の土臺」の上に同盟することを同意したりすることは嫌やがらない——彼等は小數の革命的なものを食つて了ふ力や可能性が完全に確かである場合には。併しそれだからとて共同戰線に對して懷疑的な態度をとり、それを煽動用の合言葉であると主張する同志が正しいと云ふことを意味するものではない。如何となれば勿論第一にそれは、單に改良主義者に於ての批判に自らを限り、この批判を廣く大衆に了解せしめることをしないと云ふことを意味するから。しかし同時に統一は又教理でもなければ偶像でもない。「統一の爲の統一、如何なる價を拂つても統一せよ」と云ふ合言葉は、不可避的に我々の戰列内にリキダトールの傾向を導き、我々の目的、大衆の獲得に接近せしめず、それから我々を引き離すであらう。統一は善い、統一は必要である、それは勞働者階級に有利である、若しもそれがプロレタリアートの階級戰の組織、その戰鬪能力の向上プロレタリア的變革の組織を促進するならば。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 世界革命と農民の地位……（二）……

ブハリン

同志諸君、ブルジョアジーの前には、今や非常に種々な性質を持つた實際的に困難な課題がある。そこで、我々は今、獨逸・佛蘭西・英國、部分的には又アメリカ等の全てのブルジョア經濟新聞に、例へば自足經濟等々の如き、諸問題に關する最も詳細な分析と論戰を發見する。二三の獨逸經濟學者は云ふ、「吾人は他の諸國に依存してゐる、從つて充分な工業と農業とを有する經濟を緊要とする。」それは經濟的動機である。それは軍事的動機と結合してゐるのである、「吾人は大戰に於て敗辱した、その理由は吾人が經濟的に他國に依存してゐたからである。」それから第三に階級的動機が來る、「吾人が今の如く長足に進歩してゆくとするなら、大なる危險に向つて進みつゝあるのだ、何故なら、資本主義國の工業化は共產主義に溺れる都市プロレタリアの大なる增加と結合されてゐるからである。吾人は、背進的發展過程を必要とする、プロレタリアの田園への複歸をもたらす農業の建設こそ吾人の任務である。吾人は農業を模型として、全經濟を修復しなければならぬ、等々。」

この議論は偶然ではない。それは支配階級の側に於けるプロレタリアに對してもつと大きな、もつと激しい挑戰をなすことの必然性の現れに過ぎない。

私は、諸君にこれに關して二三の非常に興味ある例證を引くことが出來る。佛蘭西をとつて見やう。佛蘭西は大戰中非常に多くの苦酸をなめた、今やそこには、佛蘭西農業者及ブルヂョアの範域に非常に大きな運動が起つてゐる、その標語は凡そ次の如きものである、土地に歸れ！、又は土地によつて、そして土地の爲に！、又は土地を農家へ、等々。この運動は非常に發展してゐる。一まとまりの文献がこの論題について存在してゐる。私は只イティエー、カヂオー、メリン等の著作家や編纂者を思ひ泛ぶのみだ。これは一つの力強い奔流である。その論爭の中に、二三の興味ある問題が現れてゐる。私はそれをこゝに例證しやうと思ふ。一つの流れはこう云ふ、吾人はより多く生產しなければならぬ、土地經濟を工

業に對して高めねばならぬ。しかしこれらの問題にたづさはつてゐる人々の多數はかく云ふ、成程彼等は、經濟技術的事實の立場から、生産を卒刻高めると云ふ立場からは正しい、しかし吾人が若し吾人の階級的立場を出發點とするなら、かくの如く進んではならない。吾人はそこに、多數のプロレタリアが使用される事を許してはならぬ。吾人は、吾人の社會的立場から見て、反對に農民の更に大規模の移住に對して贊成するものなるが故に、それは默許し難い。今や、彼等は多數の農村勞働者が都會に吸集されてゐるので、いろんな手段によつてこの勞働力の缺乏を補ふとしてゐる。それは、外國勞働者、ポーランド人・チエッコ人・イタリア人等の移住によつてゞある。それらは屢々零細な土地を手に入れる、かくの如くして彼等は一方に於ては土地經濟を高度にするための確固たる地盤を他方には安定した社會的基礎を創らうと望んでゐるのだ。そのために、佛蘭西では、土地によつて、そして土地の爲に！　土地を農家に！　土地に歸れ！　と云ふ樣な標語がかくの如く効果的なのである。

獨逸に於ても類似してゐる。この問題に携つてゐる獨逸の一流の人々の間に交はされる論戰の中に二つの流派間の對論がある、その一つはより多く、他はより少く農業者的に染めつけられてゐる。かくて、例へばディーツェ教授はヴルガ教授に對してその動議に關はる異れる基準に關して論戰を開いてゐる。彼がヴルガ教授に對してなしてゐる本質的な論點は次の如くである、吾人にしてヴルガ教授の動議する如き基準を遂行せんか、土地共産主義が發達するであらう、そはマルクス主義と全く同樣に、非常に恐るべき種である、と。この危惧は——かくて我々は知る——これら全ての論戰に於て決定的な論點である。

何故に私はこれらの事實を引證するのであるか？、ブルジョアジーは共同戰線をプロレタリアに對して、同時にプロレタリアに對抗して適用しなければならない事を全く了解してゐる事を示す爲である。我々は又、ブルジョアジーは全然意識的に計畫的に、我々の屢々する樣に、單に決議書の上ばかりでなく、又美辭麗句によらずして、實際に、實踐的に眞實に進んで行くのを知る。それは——私はそれを何度でも云つて强調する——疑ひのない所だ。私はアメリカの一金融新聞に、V・Iモルガンの編輯してゐるクッチンソン・ニュスからの引用文を見出した。このモルガンは次の如く云つてゐる——私は英語から飜譯する——

「煽動者共は、農民(Farmer)は勞働者又は社會主義者又はその他のグループと共同しなければならぬと農民に云ふ、彼等の利害は全然農民の利害と同じ方向に行くものではないのだが。農民が政治的同盟を結ぶ場合は、しかし只彼等の利害の爲にするのだ。彼等は銀行、鐵道會社、工場等や、高級金融と結合しやうと欲してゐる。それは、彼等



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自身の振興が農民經濟の繁榮に基礎をおいてゐる人々なのだから、農民の眞の友である。」

それは全く精密に定式化された共同戰線の方針である。金融資本はかく云ふ、煽動家即ち共產主義者は農民に共同戰線をもちかける。共同戰線の觀念はよろしい。農民は共同戰線を必要とするし、政治的助力を緊要とする。しかし彼らはこの助力を大銀行、大工業に求むべきである、と。それはプロレタリアに對立する共同戰線の思想の、全く精密な定式化である。しかし、ブルジョアジーはこの戰術を如何に遂行するか？ 私は、彼等がこの戰術を言葉だけではなく、實際本當に行つてゐると云つた、同志諸君、ブルジョアジーが農民に與へる種々な讓歩(コンセッション)から成つてゐるこの戰術は多種多樣である。先づ我々は後進國で種々と農業改良が遂行されたのを見る。この改良の原因は、農民の、簡單に云へば農民の革命運動の壓迫である。かくして、事實改良が遂行されてゐる。成程、それは、我々の立脚點から判斷すれば全く不充分だつた。この事は我々を騙つてそれに對して鬪爭し、より大なる、より廣汎なる革命的要求を提出せしむるのである。だが兎に角改良はそこにあるし、而も部分的には非常に狡猾に遂行されてゐる、ブルジョアジーは革命的展開の過程を緩漫にし又は廢棄し去る爲には大地主の一部を犧牲にすることを餘儀なくさせられた。それは正しい。それは例へば我がソヴェット聯盟に隣接してゐる二三の國々に於て適用された方法である。農民は最初小片の土地を手に入れる、それと共にブルジョアジーは全農民の心を集中せしめ、狀態は段々よくなるだらうと云ふ期待を起さす。それと共に彼等は農民を手中に擄にする。これらの改良が餘 うまくゆかなかつたルーマニアでは事情は異つてゐる。しかしそれにも關らず、ブルジョアジーは農民の一部を味方につけたのである。

第二の問題は農村信用と協同組合の問題である。形式からすれば、我々に於けると同じ問題と同じ戰術に關してゐる。階級的性質及運動の立脚點及歷史的目標からすれば、それは全く異つたものになる。が、形式的立脚點からすれば、彼等は問題を我々が我が聯盟に於てすると同樣に提出し、我々と形式的には同じ樣に解決する。主要重要性は、銀行と密接に關聯して與へられる農村經濟信用に置かれてゐる。組織形態は協同組合である。協同組合と農民組合とを手段として、今やブルジョアジーと大農業者は農民に對する影響を保持してゐる。

小さな一例をとらう。獨逸に於ける農業者及農民の組織は獨逸最大の農銀行と結合してゐる多數の固有の銀行を有してゐる。芬蘭土では農民組合は二つの私銀行に集中されてゐる。二つの私銀行が全情勢の主人公である。農民組織は極立つてブルジョア的性質を有するこの財政制度に經濟的に結び



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ついてゐる。アメリカ合衆國から、も少し例をとらう。一方に於てトラストや金融資本家はアメリカ農民を絶滅しつゝある。私が既に示した樣に、全農民の殆んど三分の一は、この前の農業恐慌の際絶滅されたのである。同時に彼等は全力を擧げて、農民に融通し、それによつて手中に得つゝある。それは固より最も重要な事である。

經濟的領野に於けるこの結合（ブロック）と共同戰線とのも一つ他の形態は保護關稅の問題である。丁度農業恐慌の最中に、保護關稅のためのプロパガンダは農民と大農業者間の統一的紐帶だつた。保護關稅問題によつて大農業者は農民の大なる階層をその影響下にもたらした。結末は一聯の種々な讓步であつた。それについては、こゝでは深く立ち入るまい。我々はこの問題に於ても、ブルジョアジーの經濟政策又は經濟政策の方針は非常に怜悧に打算されてゐるのを見る。成程、種々樣々な結果――それについては、我々の戰術を規定するものなのだから、尙語りたいと思ふが――が現れた。しかし、ブルジョアジーは計畫的にそして有利に、農民獲得のあらゆる可能な方決を適用してゐる事は疑を容れない。

同志諸君、私はブルジョア側の共同戰線戰術の方法について語つた、その目的は農民を獲得しプロレタリアに對して逆用する事である。かゝる切實な情勢に際し又我々が大衆を獲得しなければならぬ時期に於ては、我々はブルジョアジーの側から我々を脅す危險を全く明瞭に認識し、我が黨に於てこの問題の新方向を得ることの缺く可からざることを理解しなければならぬ。人は、以前の樣に、農民にかゝづらふ事を秘密な病氣と見做すことは出來ぬ。我々がレーニン主義黨であり、ボルシエヴイキ化を欲するなら、この歸結を引き出さねばならぬ。然らずんば我々はレーニン主義黨ではないのである。正に、トロツキー主義の主要缺陷は農民問題の輕視にあるのだ。

多數の同志がトロツキー主義に反對して非常に多くのものを書いてゐられて而もこの問題に於ては古い立脚點に留つてゐられると云ふ樣な事はあり得べからざる事である。人は自分自身に對しては少くとも公明でなければならぬ、然らずんば、トロツキー主義に對して反駁するにも關らず、やはり文盲である事を認めねばなるまい。そうでないならば、どうかそれから斷案を下して戴きたいものである。私は、共產黨の實踐、非常に多くの黨の實踐は絕對にレーニン主義的ではないと主張する。ロシヤ共產黨に於ける最近の危機は決して表面的な騒ぎではなかつたのだ。それは、農民問題に於ける、ある新方向の決定であつた。それが我々の論戰――私の第二の報告に於てそれに立ち入りたいと思ふ――の客觀的基礎だつた。我々は嚴正な立脚點を見出さうと試み、そしてそれを發見したのである。我々は今農民問題に於ける正確な戰術を



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

有してゐる。そのためにこそ、我々は主としてトロツキー主義に對して戰ひ來つた又その爲にこそ他の諸黨もトロツキー主義に反對を宣言するなら、その事を爲さねばならぬ。そこで、それらの最初の課題は農民問題に於ける正しい立脚點を有し、尚重要な事は、適應的な政策方針を行ふ事である。人は如何に聲高くでも、レーニン主義者だと表明する事が出來る、だが、正しい方針を遂行しなければ、それに對する權利は有つてゐないのだ。

我が同志諸君は、共產黨に於ける正しい立脚點に反對の何等かの偏見を持つてゐられはしないか？　疑もなく、その樣な偏見が存在してゐる。私の信ずる所によると、これらの偏見の主要な根據は、今に至るまで根を張つてゐる、工業國に於ける勞働者の職業的觀念である。私は既に、英國の權力の根抵は何處にあるかを問ふた。それは亞細亞にあり、佛蘭西の權力の根抵は大部分アフリカにある。それは全く明らかだ。しかし、人が職業的觀念に立脚してゐる場合は、大きな展望を求めずに、只鼻の先にあるものだけを求める必要を感ずる。例へば、私は少し前に獨逸の一同志と語つた。彼はこんな事を云つたのである「貴君は勞農政治に何を求められるのですか？　こんな合言葉を以つてして、一文の足しにもなるものですか、況んや一人の勞働者だつて、とつゝかまへる事は難しい。」それは何を意味する？　職業的觀念が勞働階級に勢力を占めてゐることを意味するのである。それは我々の豫後（Prognose）の立脚地からは何を意味するか？　このイデオロギーの克服に全力を注ぐ必要を意味する。さて獨逸では、植民地がないから、情勢は尙いくらか單純である。だが、若し英國勞働者がかくの如く云ふならば、彼は失墜するであらう。その勝利の後、彼は必然的に支配權を失ふに違ひない。それは絕體に明白であり、その故にこの職業的心理を放棄すべきだ。

レーニンは曾つて、最大の誤謬は一定の時期に全く妥當だつた合言葉や標語や全體的方位を機械的に他の時期にもつて行く事により、起るのであると云つた。向上的資本主義の時期に於ては、我々の主要方位は特に資本主義の發展の方に向けられた。問題はこうであつた、誰が勝つか、大經營か小經營か？　曾つて一身分たりし農民の分化過程はどの程度まで起るか？　誰が勝利者になるか？、資本主義の向上線はどれ程續くか？　これらの諸點の中に、全共產黨の主要方位があつた。主要命題はこうであつた、資本主義の發展を攪亂するものは全て勞働階級の解放鬪爭を阻害するものである。プロレタリアの途上にある全ての障害を根絕しなければならぬ。それが一般的方位であつた。そして向上的資本主義の時期には、それは正しかつた。しかし、我々が全く他の諸課題と一の全く他の方位、即ち政治權力を奪取する、換言すれば資本

主義を剿滅すると云ふ方位を有する現在の時期にも亦、その様な立脚點が決定的であると云ふならば、それは間違つてゐるである。

以前の組織原則は自己の階級の構成を主要課題としてゐた。我々はプロレタリアを階級にまで形成し、我々の黨を確固たらしめねばならなかつた。それが殆んど我々の全課題であつた。しかし乍ら、政治權力の奪取が我々の直接の任務となる時期には、更に先の課題が起る。就中同盟問題がある。以前には、我々はそれに關はる事が出來なかつた。プロレタリア階級は弱く、階級意識の萌芽のみが與へられてゐたのである。だが、勞働者が可成り固く結合され、多少とも力強い勞働黨が創られた時代には、同盟問題は全政策の最大の諸問題の一つである。

かくして、一方に於ては單に豫後のみならず資本主義を倒壞せしむる事、他方に於ては我々自身の階級形成のみならず、同盟者の獲得。かくして他の目標と他の標語。かりそめにも、村落民と何の關る所があるか、など云ふ者は、自己の投降に注意せず、政治權力奪取の戰ひに於ける村落の役割を認識しないものだ。かゝる議論は職業的機會主義の表現である。最後に我々の把握すべき事は、我々の政治的任務は、只に純粹に自己階級の關係のみを顧慮することにあるのでなく、先以て鬪爭の主體としてのプロレタリアの他の諸階級に對する關係の問題が考察されるにある、この事である。同盟者の二三と敵の二三とが分析されねばならぬ。

政治權力の奪取が歴史によつて我々に强要されてゐる時期に於ては、職業的心理よりも恥ずべきものはない。如何なる手段を以て隱蔽しやうともそれは客觀的には日和見主義たるを失はない。

同志諸君、トロツキー主義の本質は何であらうか？　それ又「よりプロレタリア的」「より工業的」であつて、「農村を輕視する」ことにあるのだ。

そしてそれは危險だ、かゝる道筋によつて職業的心理は生じ増長する。事實かゝる見解は勞働者農民間の結合の分裂を、かくしてプロレタリア獨裁の破滅を意味する。而して何處に誤謬が存するか？　正に勞働者階級と農民間の正しい關係を理解しないことに。そこにこそ、日和見主義的偏向があるのだ。

正に、何の爲に村民なんかと關る必要があるのかと云ふかの見解の中に、正しくその中に、あらゆるプロレタリア的色彩に輝いて居ようとも、トロツキー主義的に染められた日和見主義が成立する。

同志諸君、私の論綱の中に――私はこの題目を詳細に展開する事は出來ないのだが――諸君は、農業及農民政策の全ての大きな問題は、三つの主要視點の下に觀察されてゐる事に



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

お氣付きになるであらう。我々はこの問題を、
第一、政治權力奪取のずつと以前には、
第二、政治權力奪取の直前には、
第三、政治權力奪取以後には、
如何に提出すべきであらうか?、これらの提案の各々は他から區別されてゐる。今やマルクス主義者及レーニン主義者は、それ〱提案を共產黨にとつての正しい戰術の前提として理解する事が必要た。

それが理解されなかつた事に、正に從前の時期の主要誤謬があつたのである。

我々は常に改良主義者に對して次の事を宣言して來た——そして、それは正しかつたし、又正しいのである——大企業は經濟的により合理的である。若しもその成長に障害を與へるならば、我々は反動者たるであらう、と。それは我々の一般的方針であつた、そしてそれは一定の時期には正しかつたのである。だが、我々が權力奪取の最中及直前、即ち現在の帝國主義的時代に、土地經濟の大經營を、それが經濟的に利益であるとの理由で、分割する事を拒むならば、我々は全革命を失つて了ふ事になるのだ。

同志諸君、我々はこの題目に關しては、既に、多くの事を語つた、だが例證を分析すると云ふ事は非常に興味あるものである。だから、私は尚こゝで、最も著しい例即ちハンガリア革命のそれをもち出したいと思ふ。この例及びこの問題に於けるハンガリア同志の實踐は尚評價しつくされてゐないと、私は主張する。全ての共產黨は、そこに何が起つたかを知る爲に、書册、記錄、宣言等について、知識を得られることは缺く可からざる事であらうと思ふ。人はかく主張し得る、ハンガリア革命の敗績の主要原因は農業問題に、ハンガリア同志のこの問題に於ける絕體に默許し難き政策の中に求むべきである。絕體的に、範疇的に、百パーセントの確實性を以て主張し得るのだ。外の全ては二次的現象であり、この根本事實に依存するものである。

ハンガリアの情勢は全ての私有財產者、地主、農民、大農業等の七十二パーセントが全土地の只十五パーセントだけを有してゐたのである。かゝる狀態の下では、大地域を解放することが絕體に必須だつた。かゝる手段を以て、農民をプロレタリアの側にひきつけ、同時に農民の內部に强固な基礎を創り、赤衛軍の中に大熱狂を呼び起す代りに、他の政策が行はれた、衆知の如く大經營は、我々も知つてゐる樣に、技術的により合理的であると云ふ理由の下に、何ものも零細化しなかつた。その爲に同志ヴルガも亦、何人の村落民が工業民の方にやつて來るかを計算した——私は約二人だつたと信ずる。必讀す可き非常に興味ある宣言が發せられた。それは共產黨によつて勞働者會議の集會に於て讀まれた。同志諸君、



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

革命最中の土地分割に關するこの論戰はまことに身の毛もよ立つばかりである。かくて例へば次の如く云はれた、

「村落と都市との對立は、土地經濟プロレタリアと工業プロレタリアの間に隔壁を設ける爲めに、資本主義經濟體制によつて呼び起こされた。この隔壁をプロレタリアは私有財產と資本主義に對する直接の戰によつてのみ倒壞せしむる事が出來る。

私有財產を顧慮するのみならず又强固にする農業問題の標語は工業プロレタリアと農村プロレタリア間の成立を阻害するものであり同時にプロレタリア革命の力を弱めるものである。」

それはこの宣言の特質的な點である。農民は叛亂する、プロレタリアは同盟者を必要とする、同盟評議會は集つて次の如く宣言する「大土地財產を分割するのは絕體に誤であらう、それは私有財產を强固にすることを意味する。」プロレタリア獨裁がかゝる政策を以て支持された結果、以前の私有財產は今は分割されずに再び舊地主に歸屬してゐるのである。勢力が不充分だつたし他の原因の爲に權力を失つたのだと主張するにしろ、農業問題で他の處置をとつたとしても、我々は農民の中に肥沃な土地を持ち得たであらうに。農民は、共產主義は我々に土地をくれたが、大地主が又奪つて行つた、共產主義者は派手好きな馬鹿者だと云ふかも知れない。それは勿論我々にとつての本質的論議であるし、且又農民は我々に歸するであらう。プロレタリアはかゝる困難な關係の下では同盟者なくしては敗戰するに違ひなかつた事は疑を容れぬ。しかし、面白い事には二三のハンガリア同志は今日迄それを理解してゐない。一九一九年從て約五年前には同志ヴルガさへもそれを了解してゐなかつた。だが同志ヘヴエシーは今日迄も尙それを了解しない。彼は我が農民インターナショナルの機關紙にかの政策を正當づけるに役立つ論文を書いてゐる。彼は就中、次の如く云つてゐる、ロシアの情況はハンガリアの情況と別ものである。ハンガリアは小さな土地である、工業勞働者はしかし生活資料を必要とする。かくして、より大なる農村經濟經營を必要とすると。同志ヘヴエシーは大凡そ次の如く書いてゐる、

「しかし乍ら大戰の敎訓は給養物は小經濟よりも大經濟からの方が遙にとり易い事を實證した。(戰時共產主義の粗雜な形態)我々の誤謬は只そして專ら、我々がこの意見を社會意識の中に、特に農民の意識の中に持ち込む努力を爲さなかつた點にある。」

云はゞヘーゲル的意味に於ける「意識」、それはハンガリア農民にとつて非常に結構なものである。しかし本質的な點は、彼等が農民に何も與へなかつた事にある。しかし乍ら、諸君は、何物も又は少しゝか與へない事は、歷史の秤皿では何らかの意識よりも重くかゝるものであり農民にとつては尙更廣汎に妥當すると云ふ事は知つてゐられる。それについては、ハンガリア評議政府も亦大なる敎訓である。

我々は我が大會に於てイタリー及ポーランドについて語つた。ハンガリアの歷史から、イタリア、ポーランドの革命發



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

展史から他方ロシアからこれらの例證に關する全記錄を出版する事は非常にいゝ事であらうと信ずる。私は曾つて委員會でロシアの積局的經驗について語つた事がある。同志諸君、我々は十月革命直前のあの局面を忘れてはならない。農民の間の非常に革命的な醱酵、集會と會合、農民の個條書きの要求「フランス大革命の請願書（Cahiers de Reveudication）に倣つた要求。」二四二條のかゝる農民の要求が、ロシアの色んな地方からモスコーやペテルスブルグへ送達された。それは多くの愚かしい要求夢想的な要求だつた。それを我々は直に認めたのである。だがそれにも關らず我々は農民に對し政治權力の奪取後彼等の要求を直に法律の形にするであらうと宣言して、これらの要求を支持し、政治權力の奪取後直に法律として發布した。我々は非常に僅少なものを失つた、しかし、非常に多くのものを、農民をかち得たのである。これらの要求の夢想的な部分は段々我々の特別な干渉なしに自滅して行つた。然るに、社會的な階級戰略の立場から判斷すれば、我々は農民を獲得したのである。我々は成程生產技術的には、丁度內亂に於ては全ての不生產的費用がその結果たる樣に、失ふところがあつた。だが、それは我々が勝利を購ひ、獨裁の確立、勞働階級と農民間の結合、勝利に到達した價格であつたのだ。ハンガリア革命の消極的經驗、イタリアの消極的經驗及びロシア十月革命の積局的經驗を我々は研究しなければならぬ。私は、該問題の懷疑主義を絕滅する爲には、共產黨は、それが決して二次的な問題でなく、最上級の戰略的課題であり、その解決なくしては勝利は一般に不可能である事を知る樣に、これらの敎訓を研究しなければならない。

私は今や、今日の情勢の簡略な分析をなす點まで來た。私はこの題目を、論綱の中で可成詳細に取扱つたから、こゝでは全く簡單に述べやう。私の最も重大な任務は同志諸君にこの問題は特別に實踐的重要性を有する事を知らしめる事であつた。

我々が農村の今日の狀態を、その言葉の包括的な意味に於て、觀察するときは、第一に大戰後に起つたこの領野に於ける主要現象として都市農村間の關係の變化を確言しなければならぬ。マルクスは曾つて「都市農村間の變化する關係こそは、全時代に於ける諸變化の一標徵である。人々は時代を都市對農村の時々の變化により區別することが出來る。」と云つた。それは全く正しい、資本主義の發展期、それは都市對農村の不均衡な關係の時期である。今、次の如き現象がある、都市に對して農村の意義は增大した。これは種々の立脚點から示され得る。一度は經濟の立脚點から。即ち農村經濟は工業に比して戰前よりも大なる役割を演じてゐる。階級の立脚點から。即ち、農業者農民は今日都市人口より比較的重大な意義を有してゐる。最後に政策の立脚點から農村の影響は從



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前よりも重大であり、その政治的勢力は從前よりも大きくなつてゐる。我々はこの三つの方向への農村勢力の相對的增大を見るのである。

第二のこの領野に於ける大なる現象は農業恐慌である、これに關しては既にジノビエフの報告とブルガの演舌の中に語られてゐる。私はこゝでは、農業恐慌、その種々なる側面、及農業恐慌の生產の立脚點と鋏政策の立脚點からの差違を取扱はふとは思はない、單にこの事實にこゝで注意を促すだけで私の目的は充分だから。

それと結合した第三の事實は例外なく全ての國に生長しつゝある農民の活氣である。社會的性質のこの第三の事實は農民及その組織の分化である。それは今日の局面に於ける最も重要な現象であり、その特殊な表徵である。

大農業者對農民間の矛盾及び農民對大資本のそれは種々なる性質を有してゐる。加之、農民自らの內部にも活き活きした對立がある。これらの矛盾は種々なる形態に於て發展する。農民對大農業者の矛盾は後進國では殊に銳く農業革命の方向へ進む。それは土地を獲得せんとする戰である。多くの國に於て大農業者と農民との要求を一致せしめる動機は保護關稅の方向にある。所謂文明國に於ては、農民とブルジョアジー間の罅隙は二つの主要方向に於て擴大して行く、即ち一つは比類なく大なる役割をなす關稅政策の方向に於て、次に經濟政策、シンジケート•トラストの方向に於て。最後に第三の契機として戰爭の危險のそれが來る。

同志諸君、これらの事實は我々の政策の客觀的基礎をなしてゐる。これらの諸矛盾は、局面を利用して適當な政策的結論を引き出す事を我々に可能ならしめる。我々は、後進國に於ける大地主と農民の對立を利用する事が必要である、その時は言葉の眞の意味に於ける農業問題の革命的標語を有つわけである。租稅問題に於て、穀價問題に於て工業品價格問題に於て、我々はトラスト資本に對する共同の鬪爭と云ふ標語を用ひなければならない。勞働者と農民はトラスト資本及戰爭の危險に對する鬪爭に於て一致する。

同志諸君、二三の共產黨內では、未だ我々は全く經驗的な、全く具體的な要求を以て農民に行かねばならないと云ふ事に對して理解してゐない事をこゝに全然範疇的に確定しなければならぬ。屢々人は農民に、我々が政治權力の奪取後何を爲すであらうかを說明して全く、切實な、現前の要求を等閑に附する。社會民主主義者及びブルジョアジーは、しかし具體的な要求を以て活動する。彼らは云ふ、私はお前から租稅をもつと低くしてやらう。我々は云ふであらう、我々はもつと工業品の價を低くして買ひたいと云ふ要求を支持するだらうと。それは農民に効果がある。共產黨はどんな事情があつても、これらの部分的要求を無視してはならない。反對に



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

我々はこの場合更に進んだ要求をなす事が出來る、だが全ての部分的要求を我々の革命的見通しこ結びつけねばならない。同志諸君、世界にある農民組織の全ての綱領の要求を一度讀んで戴きたい。その際、全ての國の主要要求の一つは例外なく、ソヴエツト聯盟に於てさへも租税政策に關說してゐる事を見らるゝだらう。それは理解されねばならぬ、成程、ソヴエット聯盟では、特殊な局面こ特殊な階級關係によつて、我々は幾らか異つたやり方をやらねばならぬ。我々に於ける局面も亦明らかだ。物價が安定しなかつた時代には、租税は常に下つた。物價が安定した今は勿論それは過ぎ去つてしまつたのである。

租税問題は至る所、農民にこつて、段々意義を増大して來つゝある。正に租税問題の中にブルジョア國家はこの場合農民に對立した利害を示す。租税問題から出發して、我々は農民を獲得してブルジョア國家に對立せしめ得る。租税問題は國家の政策だ。農民が租税の重課に反對するなら、それは國家に對立してゐるのだ。我々にこつては農民をブルジョア國家に衝突せしめる事が大切だ。租税政策及び租税政策に於ける共產主義的要求、それは我々が農民をブルジョア國家に對する愛の立場から、ブルジョア國家に對立する憎の立場へも**たらす事の出來る堅固な橋梁である。**二三の同志は租税問題に於て次の如くにも論斷する、我々が農民の租税の負擔を減らすなら、それによつて勞働者の租税の負擔は增すのであると。それは非常に間違つた議論だ。正反對にしたら本當になるだらう、何故なら貧農、及中農は租税の減少については勞働者こ同樣に利害關係を有してゐる、それ故にこそ我々は一致して進軍しなければならぬのだ。もしも、農民の肩にふりかゝる租税の負擔を減少する事によつて勞働階級に對する租税が高くなるこ考へるなら、それは全く誤れる立論だ。何故に？　我々は農民こ一線に並んでこそ、力強い大衆的壓迫を加へる事が出來るからだ。それは決定的な因子である。

商品價格、鋏政策の問題についても同樣である。鋏政策の最重要な原因の一つは資本主義の獨占機關の政策である。この場合勞働階級は、如何なる一般的標語を用ひる事が出來るか？　獨占的資本主義、カルテル利潤に反對し、カルテル化した工業に於ける價格低下の爲の戰と云ふ標語である。所謂文明諸國の殆んご全ての工業はカルテル化してゐる。金融資本、獨占的資本主義に對する工業品の價格引下げの形である鬪爭は、勞働者、農民の力を結合するに適當である。

私の考へによれば、土地の分割問題即ち後進國及先進國に於ける農業問題、租税問題、トラストに對する鬪爭、商品價格引下げの鬪爭、戰爭の危險に對する鬪爭等は、農民に對す**る我々の政策の最も重要な支點である。**

私は何度でも繰り返す、農民は只我々が、この具體的要求



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と我々の一般的目的とを結合せしめる時にのみ、獲得し得る。この部分的要求を我々の要求から除外するのは絶對に正しくない。

今や、農村內部に一つの運動、全く種々な型を持つた運動、革命的農業運動、農業恐慌その他に基く運動がある。最後のもの丶特殊な形態はアメリカ合衆國の農民運動であつた。その時、既に述べた樣に、約三分の一の農民が破產したのである。それから、獨逸に多くの例を見る樣な不作に基く運動がある。農業運動史の廣汎な一章をなすものは植民地運動である。そして、これら全ての農業運動の數、强度、それからその社會的重要性は最近意義を增大して來た事に疑の餘地はない。確にアメリカ合衆國に於ける切迫した局面は既に消滅しつゝある。多分それは、農村に危機を含んだ現象の起る事によつて更新され、再び生じ來るであらう。

大體に於て、階級關係の中に種々なる變化が現れて來た。我々は、增大した活氣と獨立、より多くの分化を農民に見出す、植民地や後進國に於ては種々な革命的勃發さへも見出すのである。その上、一般的現象は農民組織自體の內部に於ける分化である。この過程は全ての國の農民組織に起つてゐる。かくして、ブルガリアでは、以前のスタムフリスキ同盟內部の可成强力な左翼を含んだ三つの方向がある、チエツコの黨では所謂ドモヴィニイ、獨逸には農民の分裂、ポーランドでは無數の黨や同盟が可成渾沌とした狀態にある農民運動の大分裂。佛蘭西でも、大ブルジョアジー及大農業者の指導下にある總ての組織の間に小さな分裂がある。だが我々は植民地を除いては、全ての國の農民組織の指導は大農業者と大農の手中にあるのを知る。

こゝに於て、今や我々のプロパガンダ、アジテーション、我々の立脚點から見て願はしいと思はれる組織形態や合言葉について種々な問題が浮び上る。

プロパガンダとアジテーションについては私は既に語つた。同樣に主要な合言葉についても語つたところである。さて農民組織について、少しばかり語るのをお許し願ふ。私はこゝで、種々な型や種々な可能性を區別しなければならぬ、と思ふ。その際、二つの問題の複合をしてゐる場合と、我々が只創意者として現る可き場合とに於ける態度を區別しなければならぬ。現存する組織は、形態から云つて政黨とも云ふ可きものと、所謂農民同盟との二つのグループに分れる。後者はその特徵はよく知つてゐられる通りの特有な組織である。全てこの組織の特質的な點はそれが非常にいろんな、大農業者から農業勞働者に至る諸社會要素を包含してゐる事である。この樣な組織に於て分裂があつたのである。農民の種々な階層がそこにもゐる。我々は今、これらの社會勢力の一定の確立を必要とする、そのためには農民黨と農民同盟內の左翼を支持しなければならぬ。かくて、既存の組織に對する我々の戰略の要點は、その左翼を支持するか又はそれと結合



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

する事にある。これが如何なる程度まで又如何なる方法で起る可きかは、種々な事情に依存する。我々が意識的にこの左翼組織を分離せしめる期限の問題も同様である。かくして時が熟すれば我々は分裂しなければならぬのである。

私は、我々の戰術は全ての國で劃一であり得ないことを強調する。だが最重要の問題は我々が創意者たる場合は如何なる組織を選ぶべきかである。私の信ずる所によれば、それは政黨の形態でなく農民同盟の形態であると思ふ。政黨は種々な視點から見て適當でない。然るときは、我が黨員が我々ばかりでなく他の黨にも組織されると云ふ様な状況になるだらう。それはあり得べからざる現象を呼び起す。我々は農民の間に只コムミユニスチック・グループを持つであらう、又、只農民の聯合であつて、決して廣汎な組織ではないであらう。共產主義的農民のセクション、小さなグループは我々の必要とする所でない。我々は貧農、小農の大衆を必要とする。そのためには、農民同盟の形態が遙にいゝ。これらの農民に完全に共產主義的プログラムを公開するのは不必要である。我々は共產主義的便秘を必要としない（歡聲）。我々は可成り要素的な、他の何らかの組織よりも遙に根抵的な要求を提案しなければならぬ。我々はこの組織に、より大なる包容を與へ、我が黨の同志諸君の活動によつて、我々の影響を確固たるものたらしめねばならぬ。必要な場合はそこにフラクションを形成する事が出來る。しかし、フラクションの形成が常に必要なわけではない。組織がフラクションが無くても我々の影響下にある場合がある。農民同盟の形態は我々の活動にとつて政黨の形態よりも更に適合してゐる事は明らかである。

同志諸君！　私はロシアに於ける勞働階級對農民關係と云ふ特殊な問題についても語りたいと思つた。しかし乍ら、この問題はトロツキー主義に關する私の報告の中で取扱ふ方が妥當だと信ずる。だから私は結末をつける事にして、ま一度次の事を強調したいと思ふ、我が黨に於て餘りも僅かしか農業問題を研究してゐないのである。黨はこの「見すぼらしい」問題に、それが社會生活の最も重要なものであるのに、手を附けてゐないのである。我々はブルジョア的農業改良のあつた國の黨から、一度だつて報告を受取つた事はない。「ローテ・フアーネ」「インテルナチオナーレ」及獨逸の黨機關紙は特に多くは、この問題に關つてゐない。他の黨についても同斷である。只佛蘭西では少しましだ。今は農民及植民地問題に關して數段の進歩が示さる可き時なのに、我々はブルジョアジーに比べたなら未だ子供に過ぎない。ブルジョアジーはこの問題を遙によく理解し、はるかに精密に研究し、この領野では共產黨よりも著しく多くの効果を得てゐる

私はこの擴大委員會の開會以後、黨のボルシエヴイキ化のテーゼに從つて、全共產黨及コムミユニスト・インターナショナルが終極的に現實にボルシエヴイキ化し、先以て農業及農民問題にたづさはり、この領野に於ける、適應的なレーニン主義的政策を遂行せられん事を望んで私の報告を終る。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# ロシアに行きたがる人に

伊井敬

## 一

私が最近ロシアから歸つて來た事が世間に知れるとすぐに、諸方面の人々から私は、ロシアに行く方法を敎へてくれとか、内々ロシアに這入る手引をしてくれとか頼まれて困つてゐる。

そう頼みに來る人たちに對して私は、一樣に、今日のロシヤはフラ〳〵氣分で見物に行く場所でない事、或る一定の特殊の目的なしにロシアに行く事は、當人にとつて不得策であるのみならず、不可能である事を說いて斷念させてゐるのだ。

しかし、ロシアを見たがる人は、直接私の接した人以外に、世間に隨分多い事と私は察する。そしてそれ等の大多數は、プロレタリア階級に屬する若い人たちであると私は信ずる。で、この『大衆』紙上をかりて、そう云ふ若い人たちに一般的に注意をしておきたいと思ふのである。

先づ、私のこころへ、ロシアに行きたいからと云つて、相談に來るものを分類すると左の如くである。

一、ブルジョア階級に屬する者で、ブルジョア意識を有つてゐて、それで日本では最早ロクな儲口がないから、ロシアにでも行つて見て、何んとか儲口の穴でも探して來ようと云ふ者——そうとは明らかに云はなくとも、私にはそうと明確に摑める者。

二、無階級者——ブルジョア階級からプロレタリア階級に落下する過程にある者で、自分の苦るしまぎれに、ブルジョアジーに對する反惑に燃へつゝあるが故に、プロレタリア・ロシアに對し心から同情的になつてゐる者、但しその彼れの同情的態度に對して、ロシアから何等かの報酬がありそうなものだと虫のいゝ氣分を懷中してゐる者。

三、プロレタリア階級に屬する者で、プロレタリア・ロシアを『俺が國』とする意識に目醒めてはゐるが、それが抽象的



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

であるが故に、『俺のモノは俺のモノ』と云ふ氣で、勝手にノコノ\ロシアに這入る權利を自ら有つてゐるやうに誤解してゐる者。

四、若いプロレタリアートで、無條件に、信念的に、(それが故に理が解らずに)ロシアに憧憬れてゐる者。

大たい以上の四種類である。

そこで私は第一種の人間に對しては、たゞ簡單に、『糞ッ喰へ!』と云ふに止める。

第二種の人には、『糞ッ喰へ』とまでは云はないが、まあ、日本でゆる\落ちるところまで落ちて、それからの事にし給へと私は云ふ。

第三種の人たちに對しては、私は、時間を費しても、充分に説明する責任を感ずる。第四の人々に對しても、さうだ。

## 二

一たい今日、ロシアに對して、詩人が星を眺めて譫言を云ふやうな態度で憧憬がれてゐるのでは駄目だ。ロシア革命を一の輝く星として觀てゐる間は、それが如何にその者から遠いかを物語るに過ぎぬ。

ソヴエット・ロシアを現實に取扱ふ事、それを全世界的プロレタリア運動の組織の一部分として理解する事、それを世界資本に對する吾々の闘爭の前衛機關として後援する事――之れがプロレタリア階級に屬する各個人のロシアに對する唯一の態度であらねばならぬ。

今私は、ロシアを一の闘爭の機關だと云つた。之の點は重要であるから記憶しておいてもらひたい。闘爭の機關であるが故にそれは、その能力を充分に發揮するが爲めには、極度の組織化を必要とする。それは凡ゆる不純分子、凡ての足手まといとなる邪魔ものを排除せねばならぬ。それは軍隊化された規律を必要とする。『働かざる者は食ふ可らず』どころではない、その働が、今言つた特殊の闘爭目的に役立つものであらねばならぬ。

と云つたところで、現在ロシアに住む民であるところの幾億の人間の凡てによつて、斯ふした國家的活動が意識されてゐると云ふ譯では無論ないが、尠なくとも新らたにロシアに住ふとする者には、この意識が明瞭でなければならない。

茲に、ロシアに這入らんとする者の第一條件が置かれてゐるのである。

だが、この資格に及第しただけではまだ駄目だ。そこには



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

第二の條件がある。

現代は組織の世である。凡ては組織化されねばならぬ。組織のみが力である。個人的才幹は組織を動かす事によつてのみその社會的威力を發揮し得る。特に、個人主義的ブルジョア社會から共産主義的プロレタリア社會に進出しつゝある今のロシアに於てはそうである。

ロシアでは、組合員或は黨員でないものは人間でない、と云つてはチト强過ぎるが、とに角、存在を無視される。從つて新らたにロシアに入らうとする者は、プロレタリア階級に屬する組合なり政黨なりの代表であるか、尠なくともその一員であらねばならぬ。

之れが第二の條件である。

## 三

以上二條件を更らに少し具體的に云へば、世界資本に對抗する目的のために組織された團體を代表する者で、特にその目的遂行の上の要務を帶びた者だけが入露の資格を有つのである。

之れで入露者はかなり局限された譯である。尤も、國交の開けてゐる今日の事だから政府筋から資格を得て行くものは、お勝手次第であり、私の係り知る範圍外である。更らに通過旅客として、歐洲へ行く序に一寸ロシアを見物して行くと云ふ如きは何んでもない事である。

一たい、ロシアを見るに、三つの見方がある。

その第一は、觀光團式に團體を組んでロシアに渡り、二週間なりの短時日に、選定された處だけを觀る方法。

第二は、何等かの機會若しくは口實の下に單獨でロシアに入り、半年なり一年なり相當長い期間、相當自由な身柄を以て視察する方法。

第三は、『視察』客としてゞはない、既に活動してゐるプロレタリア機關の内部の一員として、ロシアを中心とする運動に實際に於て參與しつゝロシアを研究する方法。

この三の方法の中第一は、既にロシア自身が大いに歡迎するところのもので、歐洲の方からは絶へず斯ふした團體客が這入つて來てゐる。それ等は重に勞働組合によつて組織された觀光團で、短時日に、ソヴエット・ロシアを大掴に知るには最も適當な方法である。日本でも、そう云ふものを組織したら、ロシアは喜んで歡迎するであらう。

第二は、三の方法中最も好ましからぬものであつて、ロシ



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

アを見て却つてそれを誤解する者の多くは、この類の視方をした人たちである。彼等は、活動の組織そのものゝ内に喰込み得ないが故に、エテ皮表的觀察に陷入る。彼等に最も易く目に付く事は、例へば、街上に淫賣の多い事だとか、『ネップマン』(新成金)がきかせてゐる事だとか、物資が缺亡してゐる事だとか云ふ類であらう。そしてこれ等の現象の羅列から彼等は深くその根本的原因を糺す勞をとる先きに、勝手な結論を作る、そしてロシアを誤解して了ふ。

第三の方法は最も結構なものであるが、そうした機會を與へられる人は數に於て甚だ限られてゐる。だが、斯くしてのみ本統に今のロシアは理解されるのである。ロシアに於て今最も觀るに値するところのもの、その最も貴いものは、その活動の組織である。而してその組織の運用である。勿論そこには多くの缺點があり、多くの失敗の歴史があるが、それ等を凡て正しく觀察し、正しく理解して行く事がほんとうに吾々に利益するのである。

以上で大たい、ロシアを見る事に對する注意は終つたと私は思ふ。最後に私は、ヤタラに入露したがる若い人たちに一言述べておきたい。

親愛なる諸君よ! 諸君が仔細に自らを省みるときに諸君は、『ロシアに行きたい!』と云ふ諸君のその願望の裏には、『日本がいやになつた!』と云ふ暗い一面が潜んでゐる事を自ら發見するであらう。

言葉をかへて云へば、諸君は日本で自らが『行詰』つた事を感じてゐる、そしてその行詰りから遁れんとする心の動きが、諸君がロシア行を志す一の動機であると私は察する。

だが、考へてもらひたいロシアを中心とするプロレタリア運動は、そんな遁避者を好まない。それは凡ゆる行詰りを打開する勇氣と能力とを有つ闘士のみを必要とする。吾々の運動に決して『行詰り』はない。行詰りと局外者に視へる際限こそ實は、運動が一大飛躍をするところの眞の轉換期なのである。

運動にたずさはつてゐながら自ら行詰つたと思ふ人よ、先づ自らの頭を一つガント毆れ! そしてその勢で腰をすへて再び活動を開始するときに、そこに日本の運動がトテも面白くなつて來て、ロシア行などはケロリと諸君は忘れてしまうであらう。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

調査資料

# 現段階に於ける資本主義安定の諸問題 (二)

## 國際爲替の安定

前號の貿易の恢復に次いで、資本主義の安定を示すものは、圓價恢復、即ち爲替相場の安定である。

戰後の恐慌期に於ては、磅(英國)と馬克(獨逸)の大暴落が國際爲替に於ける最大の苦惱であつた。

磅は一九一九年三月廿日、英國とモルガン商會(米國)の協定による、爲替相場のいはゆる釘付政策の廢止によつて、英米爲替(クロス・レート)は一九二〇年二月四日三弗一九仙(平價四弗八六仙八分の五)、馬克は、戰後馬克爲替が復活してから、一九二三年十二月の米獨爲替は、四、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇馬克——平價四馬克二〇——に對し四兆二千億馬克にまで、大暴落をなしたのである。

ところが磅價は、一九二一年十一月四ドル臺に上り、馬克は一九二四年十月急激に恢復し、まもなくいづれも平價に復し、かくて昨年、(一九二六年)の暗礁は、ラテン締盟三國の、法(フラン)(佛、白)リラ(伊)の上に、現れたのであつた。

| | 英貨磅に對する平價 | 昨年の暴落 | 年末恢復程度 |
|---|---|---|---|
| 佛國 | 二五法二二五 | 二四五法 | 一二〇法 |
| 伊國 | 二五リラ二二五 | 一五五リラ | 一一〇リラ |
| 白國 | 二五法二二五 | 二五〇法 | 一七〇法 |

備考 白國の爲替決濟のための新貨幣單位一ベルガは、比價五法で、年末の對英相場は、三四ベルガ八五又は八八である。

即ち昨年の暗礁は、これ又、年末にはすでに恢復の道程に這入つたのである。つひでに、爲替相場とは關係の深いフエデラル・レザーブ・ブリテン(米國)による、世界の金保有高を示すと、一九一三年の十九億二千四百萬ドルから、四十四億



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

八百萬ドルに五割三分を増加した。またいはゆる各國の財界安定を證據立てるところの金利は、昨年中次ぎの如く低下したるを見る。

| | 舊率 | 改諦率 | 改定月 |
|---|---|---|---|
| 佛國 | 七・五 | 六・五 | 十二月 |
| 獨逸 | 六・五 | 五・〇 | ×一月 |
| 白國 | 七・五 | 六・五 | ×一月 |
| 墺國 | 七・五 | 七・〇 | 八月 |
| 丁抹 | 五・五 | 五・〇 | 六月 |
| 諾威 | 五・五 | 五・〇 | 九月 |
| チェッコ | 六・五 | 六・〇 | 一月 |
| 葡國 | 九・〇 | 八・〇 | 七月 |
| 日本 | 六・二 | 七・三 | ×三月 |
| 米國 | 四・〇 | 四・〇 | 八月 |
| 英國 | 五・〇 | 五・〇 | — |

備考　×印は本年

## 圓價爲替の恢復

各國の國際爲替の恢復を見た。然らば圓價はどうか。

紐育宛電信賣爲替相場（平價四九ドル八四六）

| 年次 | 最高 | 最低 |
|---|---|---|
| 大正三 | 四九・二分一ドル | 四九・ドル |
| 四 | 四九・四分三 | 四八・ |
| 五 | 五〇・八分三 | 四九・四分三 |
| 六 | 五〇・八分七 | 五〇・二分一 |
| 七 | 五二・八分一 | 五〇・八分七 |
| 八 | 五一・八分七 | 四九・八分七 |
| 九 | 五〇・八分五 | 四七・四分三 |
| 一〇 | 四八・八分一 | 四七・八分七 |
| 一一 | 四八・二分一 | 四七・四分一 |
| 一二 | 四九・ | 四八・二分一 |
| 一三 | 四八・四分一 | 〇三八・二分一 |
| 一四 | 四三・二分一 | 〇三八・四分三 |
| 一五 | | |
| 一月 | 四四・四分一 | 四三・二分一 |
| 二月 | 四五・ | 四四・四分一 |
| 三月 | 四五・ | 四五・ |
| 四月 | 四七・四分一 | 四五・ |
| 五月 | 四七・四分一 | 四六・二分一 |
| 六月 | 四七・ | 四六・四分三 |
| 七月 | 四七・ | 四六・四分三 |
| 八月 | 四七・四分三 | 四七・ |
| 九月 | 四八・二分一 | 四七・四分三 |
| 一〇月 | 四八・二分一 | 四八・二分一 |
| 一一月 | 四八・四分三 | 四八・二分一 |
| 一二月 | 四八・四分三 | 四八・四分三 |
| 昭和二 | | |
| 一月 | 四八・四分三 | 四八・四分三 |



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

二月　　四八・四分三　　四八・四分三
三月　　〇四九・

備考　〇印は特に注意を惹くために附したものである。

圓價の下落は、この相場表の如く、大正十三年三四月から、つるべ落しに、急轉し最低の三八弗半は、平價(ミントパー)に對比して二割二分七厘の暴落である。

對米爲替圓價の下落は、磅、法に對しても、また銀本位の兩(支那)に對しても、各國一率に下落したるは云ふまでもない。

ところが、昨年初頭の、四四弗四分一から、四五弗となり、四七弗となり、九月には四八弗となり、ついに現在四九弗にまで、急速に恢復し、金輸出解禁を眼前に豫測される。

かくて解禁の基礎的條件に關する、ブルジョア經濟學者の理解するところによれば、1、爲替相場の恢復が堅實であり、解禁によつて暴落せざること、2、正貨が急激に流出せざること、3、從つて貿易恢復が顯著でなければならぬ、とされる。

ともかく、かゝる條件に達したることは、すでに、この調査の示したるところであり、解禁期(恐らく輸出期に這入り、爲替手形の利喰ひ一段落後であらふ)は、いつにてもあれ、解禁を前提とする條件にまで圓價の恢復したることもこゝに明白である。

## 國際貸借勘定

然し乍ら、貿易外受取勘定(純資本の移動を除きたる)は、前號に示したるも、こゝに重要なる關係にある國際貸借の一般的傾向は、徐々に改善の方向を示しつゝも、なほ甚だ樂觀をゆるさゞるものがある。

即ち左表の如し(單位百萬圓、大藏省發表、貿易は臺灣、朝鮮を含む)

國際貸借表

| | 十四年 | 十三年 | 十二年 |
|---|---|---|---|
| (A) 貿易上收支 | | | |
| 輸出 | 二、三七八 | 一、八七二 | 一、四九七 |
| 輸入 | 二、七三五 | 二、五九八 | 二、一一九 |
| 差引輸入超過額 | 三五七 | 七二六 | 六二二 |
| (B) 貿易外收支 | | | |
| 受取勘定 | | | |
| 經常的收入 | | | |
| 外國證券利子及配當等 | 一九 | 二〇 | 二八 |
| 海外事業及勞務利益 | 一四八 | 一二三 | 一一二 |
| 海運關係收入 | 一九六 | 一八五 | 一六五 |
| 保險關係收入 | 一一七 | 一〇四 | 七五 |



Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

| | | | |
|---|---|---|---|
| 外國人本邦內消費 | 四七 | 四八 | 三六 |
| 政府海外收入 | 二一 | 二四 | 三二 |
| 其他 | 一七 | 一五 | 一二 |
| 小計 | 五六五 | 五二〇 | 四六〇 |
| 臨時的收入 | | | |
| 外國人本邦放資 | 一八六 | 五六六 | 一二三 |
| 本邦人海外放資回收 | 六〇 | 一〇四 | 三七〇 |
| 其他 | | 八 | |
| 小計 | 二四六 | 六八八 | 四九三 |
| 受取勘定合計 | 八一一 | 一、二〇八 | 九五三 |
| 支拂勘定 | | | |
| 經常的支拂 | | | |
| 外國人拂本邦證券利子及配當等 | 一〇六 | 八二 | 六六 |
| 外國人本邦內事業及勞務利益 | 七 | 七 | 六 |
| 海運關係支拂 | 六七 | 六八 | 六〇 |
| 保險關係支拂 | 九七 | 八九 | 六八 |
| 本邦人海外消費 | 二七 | 二九 | 二七 |
| 外債元利拂外政府海外支拂 | 八七 | 八一 | 六二 |
| 其他 | 四 | 一 | 一 |
| 小計 | 三九五 | 三五七 | 二九〇 |
| 臨時的支拂 | | | |
| 外國人本邦放資回收 | 一〇四 | 三三六 | 八二 |
| 本邦人海外投資 | 一〇一 | 九六 | 一九六 |
| 小計 | 二〇五 | 四三二 | 二七八 |
| 支拂勘定合計 | 六〇〇 | 七八九 | 五六八 |
| 受拂超過 | | | |
| 經常的收支受取超過 | 一七〇 | 一六四 | 一七〇 |
| 臨時的收支受取超過 | 四一 | 二五六 | 二一四 |
| 總計受取超過 | 二一一 | 四二〇 | 三八四 |
| (C) 全國際貸借收支 | | | |
| 貿易外受取超過 | 二一一 | 四二〇 | 三八四 |
| 貿易上支拂超過 | 三五七 | 七二六 | 六二二 |
| 差引支拂超過額 | 一四六 | 三〇六 | 二三八 |

次ぎにわが在外正貨について見る。正貨は毎年減少しつゝあるを見る。また正貨を現送し、これを補塡しつゝあるは、一般の知るところではある。だか、輸出貿易の助長と、對外募債によつて、これを維持し得らるゝであらう。

政府、日銀在外正貨趨勢

| 各年末 | | 各年末 | |
|---|---|---|---|
| 大正三 | 二一三百萬圓 | 一〇 | 八五五百萬圓 |
| 四 | 二七九 | 一一 | 六一五 |
| 五 | 四八七 | 一二 | 四四四 |
| 六 | 六四三 | 一三 | — |
| 七 | 一、一三五 | 一四 | 二五七 |
| 八 | 一、三四三 | 一五 | 二三〇 |
| 九 | 一、〇六二 | | |

(つゞく)



Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 列國の對支投資について（二）

荒木五郎

列國の對支未整理債權及び滿洲方面に對する日本の事業投資額は前號において畧述したが本號においては滿洲以外における、列國の投資に觸れて見やう、元來滿洲以外への投資額については何等適確な材料がなく、事業投資、債權、及び支店出張所等の放資額等までを含めやうとすれば調査は不可能といふも過言でない、此調査に關しては三井物產が企畫して失敗し、滿鐵、三菱、日華實業協會、東亞興業等ブルジョアの有力なる機關及び官僚軍閥の機關たる外務省、參謀本部方面においても調査の必要を認めつつ完成したるものはないと聞いてゐる、今不完全ながら大正十五年度支那年鑑及び東亞同文書院機關紙等を參照して綜合すれば

滿洲を除く支那各地事業工場數

| 事業名 | 日本又は日支合辦 | 外國又は外支合辦 | 支那及び不明のもの | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 蛋白澱粉 | 六 | 六 | 三四 | 四六 |
| 兵器製造 | 一 | ｜ | 一 | 二 |
| 石綿石絨 | ｜ | ｜ | 一 | 一 |
| 獸類骨粉 | ｜ | ｜ | 三 | 三 |
| 製罐々詰 | ｜ | 一 | 四〇 | 四一 |
| 煉瓦洋灰 | 八 | 一〇 | 六三 | 八一 |
| 化學染料 | 三 | ｜ | 一九 | 二二 |
| 釀造飲料 | 一 | 一五 | 五一 | 六七 |
| 造船船渠機械製造 | 二 | 一一 | 三三 | 四六 |
| 電燈動力 | 一七 | 一〇 | 一九九 | 二二六 |
| 製粉 | 六 | 八 | 一〇六 | 一二〇 |
| 家具 | 七 | ｜ | 一八 | 二五 |
| 瓦斯 | ｜ | ｜ | 二 | 二 |
| 硝子窯業 | 五 | 一 | 四五 | 五一 |
| 製鋌 | ｜ | ｜ | 五 | 五 |



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 製氷冷藏 | 三 | 六 | 二三 | 三二 |
| 銅工業 | \| | \| | 一 | 一 |
| 製鐵 | 一二 | \| | 三七 | 四九 |
| 皮革 | 一 | \| | 五七 | 五八 |
| 石材 | \| | \| | 一 | 一 |
| マッチ | 一三 | 一 | 一〇四 | 一一七 |
| 釘針 | \| | \| | 五 | 五 |
| 豆工業 | 一二 | 一 | 一三九 | 一五二 |
| 製紙 | 四 | \| | 一七 | 二一 |
| 印刷 | 二 | 一 | 一〇〇 | 一〇三 |
| 精米 | \| | \| | 一二七 | 一二七 |
| 製銅 | \| | \| | 六 | 六 |
| ゴム | \| | \| | 一 | 一 |
| 製材 | 四 | 五 | 二五 | 三四 |
| 製糸絹粉 | 二 | \| | 二二八 | 二三〇 |
| 金屬工業 | 一 | \| | 二五 | 二六 |
| 石鹼油脂 | 一 | 六 | 一〇六 | 一一三 |
| 製糖 | 二 | 三 | 一五 | 二〇 |
| 製茶 | \| | 四 | 一〇 | 一四 |
| 煙草 | 一 | 一〇 | 四七 | 五八 |
| 紡績 | 四五 | 七 | 六九 | 一二一 |
| | 一六一 | 一一六 | 一・八八九 | 二・一六六 |

しかして右工場數に對する投資額に至つては正確なる數字は勿論、概數さへ擧げ得ないのは遺憾であるが、紡績事業は紡績聯合會の調査によれば約一億八千萬圓に達してゐる、投資推測の一材料として內地の事業中右表に屬するものの投資額の平均數を求めて工場數を乘ずるも一方法であらうがこれも結局危險なるを免れないから、多少信ずべき數字の算出は今後の調査に待つ外はない。

なほ支那における列國資本活動の將來を見るためには單に一ヶ年の死せる數字を見るのみでは不可能で、數年間の變遷、政治過程の分析等も合せ行ふことが必要であるが、時日不足のため以上の材料によつて概觀すれば先づ對支未整理債權は英、米その他に比し日本は斷然首位を占めてゐるが既報の通り支那政府が、搾取さるべき財源を有してゐない上、關稅引上げによる債權の確保は英國その他の反對があるため日本がこの方面より搾取すべき當面の利益は皆無であるが、擔保として所謂滿蒙四鐵道敷設權、吉林省方面の森林伐採權、金礦採掘權を確保したることは注目すべく、此權利を侵害せられざらんため、滿洲在留民保護を名として一ヶ師團以上の精鋭を滿洲に派遣してゐる現狀である。

然しながら滿洲方面においては張作霖の武斷政治崩壞の一つの表現として絕ゆ間なき奉天票の暴落があり、日本は張作



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

票を利用して權利を確保せんとしながら、奉天票不安定のため投資する機會を得ず、既に投資された拂込資本合計約五億五千萬圓の資本を滿鐵の事業を除いては殆んど死滅に近い狀態にある、此方面より見た日本資本主義の發達は軍閥の活躍を俟たなければ絕望である、最近しきりに吉林方面における調査隊の活動が傳へられ長春と朝鮮とを連絡する吉會鐵路計畫及びそれに關聯する天圖鐵道買收等が議會に提出された等は右の事實を明かに語つてゐる。

滿洲以外の投資に對しては紡績を他にしても製粉業製鋼業セメント製造業等、支那自身の資本主義が萌芽時代においては、支那を舞臺とする資本主義の發達は外國資本を中心とする現狀であるが、國民政府の擡頭と支那大衆一般の自覺とは相俟つて階級的反抗と、民族的反感、反帝國主義的主張を喚起し列國の投下資本今後の進展は樂觀を許さない、たゞ世界植民地分割後の唯一の搾取地として支那に向つてゐた列國の資本が、簡單に退却すべき筈はないから、こゝ當分は長江を中心に列國帝國主義の露骨なる鬪爭か繰り返へさるゝであらう。

次に列國の對支貿易の消長を見やう、對支貿易に關しては既に前號薄茂人氏の論作が發表されてゐるから、こゝでは絕對數による調査を避け、日本を主として他の諸國に對する貿易比率の變化。及び日支通商條約締結後の貿易消長の比例數を出すことにする、

一、日本の對支貿易(一八七〇年を百とする)

| 年次 | 輸入 | 輸出 |
|---|---|---|
| 一八七〇 | 一〇〇 | 一〇〇 |
| 一八七五 | 一九三 | 七八 |
| 一八八〇 | 二七二 | 八八 |
| ―八五 | 四〇九 | 六〇 |
| ―九〇 | 五七五 | 一九五 |
| ―九五 | 一・三三八 | 五九七 |
| 一九〇〇 | 二・〇〇四 | 六八二 |
| ―〇五 | 四・七七一 | 一・四三〇 |
| ―一〇 | 五・九七三 | 二・四八四 |
| ―一五 | 九・三五七 | 三・一三二 |
| ―二〇 | 一八・〇五五 | 五・七二九 |
| ―二四 | 一九・一五六 | 九・三五二 |
| ―二五 | 二四・〇九八 | 八・九一三 |

即ち輸入においては一八七〇年より一九二五年の間に二百四十倍の激增となり輸出においては八十九倍の增加で輸出は輸入との比率においてはむしろ減少してゐる、しかも一九



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二十四年及び五年の最近の二ケ年においては輸入は激增し輸出は反つて減少してゐるのを見れば、例へそれが爲替低落による一時的現象にせよ一部樂觀論者の如くわが貿易による資本主義の發展餘地が多いとするは即斷たるを免れないだらう。

しかも次表に見る如く日本の對支貿易は諸外國との比率において累年著しく增加し、增加率において輸出入共に大差ない點から見れば世界諸國の對支貿易も發展の頂點を超えたるもといふべく、即ち萠芽時代より脫し來つた支那粗工業の發達が漸く輸入を防止せんとする域に達しつゝあるものと見ることが出來やう。

二、日本對支貿易の全支貿易に對する比率

| | 輸入 | 輸出 |
|---|---|---|
| 一八七〇 | 二・〇二 | 四・四八 |
| —七五 | 三・六六 | 二・八三 |
| —八〇 | 四・四一 | 二・八三 |
| —八五 | 五・九七 | 二・二九 |
| —九〇 | 五・八一 | 五・五四 |
| —九五 | 一〇・〇一 | 一〇・三四 |
| 一九〇〇 | 一二・二〇 | 一〇・六五 |
| —〇五 | 一三・七二 | 一五・五六 |
| —一〇 | 一六・五八 | 一六・一八 |
| —一五 | 二六・四六 | 一八・五四 |
| —二〇 | 二八・七三 | 二六・二五 |
| —二四 | 二四・二六 | 三〇・〇六 |
| —二五 | 三二・六八 | 二八・四八 |

即ち諸外國の輸出入に對して日本の輸出入は同樣の比率で增加してゐるのであるから、第一表との關係において見れば列國共に支那に對しては輸入逐增、輸出逐減の狀態にあるといへる、此點から見るも列國資本主義の對支搾取はそのまゝでは樂觀論者の見る如く永續性と發展性を有しないと思はれる、即ち發展を期するためには必ずや帝國主義的毒牙を露骨に現はさゞるを得なくなるであらう。（完）



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

國內戰線

# 日本農民組合全國大會

昨年度大會直後、平野一派の脫退から、政黨問題を中心として諸問題、右翼、中間派諸團體の勞農黨脫退、社會民主黨、日勞黨の出現等は、勞農黨の中堅たる日本農民組合の奮闘努力にまつところ多く、また、內にあつては健實派同盟の策動、過去六ヶ年間の委員長であつた杉山元次郎氏の委員長辭任、並に多年の僚友であつた十二名の除名等々、實にこの一年間の日本農民組合は文字通りの多事多端の年であつた。從つてこの多事多端なりし一ヶ年の回顧と、そして來るべき一ヶ年間の方針と政策とを規準せんとするこの第六回全國大會が、世人の異常な注意をひいたのは當然であつた。

大會は、二月二十、二十一、二十二の三日間大阪天王寺公會堂に於て開催、代表は遠きは北の北海道から西端の九州に及び、一道二府二十三縣から百九十九名の多きに達した。勞農黨支持、眞實の勞農提携、統一同盟への參加等重要議案を審議した。主なる議案及宣言決議は左の如きものであつた。

一、農民問題調査所設立に關する件
一、消費組合に關する件
一、協同組合統一準備委員會設置の件
一、全國的勞農總聯合組織促進に關する件
一、全日本農民組合排擊の件
一、統一同盟支持の件
一、自作農維持創定法反對の件
一、小作調停法撤廢の件
一、暴力行爲取締法撤廢の件
一、出版物法案反對の件
一、日本勞農黨排擊、勞働農民黨支持に關する決議案
一、農民黨、農民同盟排擊の件

## 宣　言

（一）吾が日本農民組合第六回大會は、こゝに來るべき一年間の新運動方針を樹立するに當り、先づ第一に吾國無產階級の運動の一翼たる、農民運動が現に最も重大なる轉換期に立つてゐることを正確に認識しなければならぬけれども、我々はこれを誤りなく認識し、正しき新運動方針を確立せんが爲めには、吾々は過去の運動を率直に反省し、且吾々農民が現に如何なる社會的地位に置かれてゐるかを嚴密に知ることが絕對に必要である。

（二）……併し我々農民は、資本主義社會に於て、かゝる隷屬貧窮を强制されて居るに拘らず、我々の生產樣式、生活環境が封建的、分散的、孤立的であるがために、我々自身のみの力を以てしては、到底完全なる解放を期することは出來ない。資本主義社會に於て、金融資本團をその王座に戴く商工資本家、地主等の支配階級軍に對抗して、最も勇敢に、最も徹底的に戰ひうるものは、實に都市の勞働者階級である。我々農民は、鬪爭的都市勞働者の運動に信賴し、これと緊密な提携を結ぶことによつてのみ、此の隷屬、貧困の鐵鎖を斷ち切つ



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、幸福自由なる生活を創造することが出來るのである。

故に我々農民は、從來の運動を今や一層發展せしめ、單に經濟的利益の伸張のためのみにする鬪爭を越えて、當面、都市勞働者階級との政治的共同戰線により、全國人民を暴壓する專制的政治勢力と勇敢に鬪爭し、政治的自由の獲得を期しなければならぬ。これぞ眞に我々農民を完全なる解放に導く大道でなければならぬ。

(三)右の如き根本方針に立脚して、我日本農民組合は、具體的方針を新に確立し、次の如き諸任務を遂行せねばならぬ。

(1)勞農黨積極的支持

イ、日本農民黨、全日本農民組合同盟は都市勞働者階級と我々とを積極的に分離せしめ、國家主義を强調して、我々農民を支配階級の犧牲に供せんとする支配階級の代理である。彼等は實に我々の最惡の敵である。社會民主黨も亦、積極的に勞農の仲を割くことこそなかれ、我々農民を單に投票數かき集めの材料に供し、我々をブルヂョアジーの祭壇に捧げんとしつゝあるものであつて、これ又、我々の最惡の敵である。

ロ、日本勞農黨、健實派同盟は、我々農民が都市勞働者階級と政治的共同戰線を張り、專政的政治勢力と鬪爭し、以て我々農民の完全なる解放を期せんとする、無産解放に必然の大道を理解し得ず、我々の運動を依然として經濟運動の範圍內に止めんとするものであつて、彼等は今や我々の運動を阻害し、從つて又、我々農民解放を誤るものと言はなければならぬ。加ふるに、日勞黨、健實派同盟の反動ダラク幹部が、自己の野望を滿さんとして、我が光輝ある日本農民組合分裂のため、中傷讒誣その手段を撰ばざる醜體を敢てしつゝあるを見る時、我々は斷然彼等の運動方針を排擊せざるを得なし。

ハ、かくして、勞働農民黨のみが我々農民の唯一眞實の無産政黨でなければならぬ。從て、我々は勞働農民黨の指導のもとに、專制的抑壓に抗爭し、全國的政治鬪爭に積極的に參加しなければならぬ。而して、またかゝる鬪爭の過程に於て、ニセ無産政黨たる日本農民黨、社會民主黨、日本勞農黨と容赦なく鬪ひ、彼等の假面を剝ぎこの正體を曝露しなければならぬ。農民の解放のためには、かゝる鬪爭は實に止むを得ざるところなのである。

(2)全國的勞農總聯合

我々は益々露骨化し、統一化する支配階級の全線的攻勢と我等組織勞働者及農民の四分五裂の現狀に鑑み、我等の戰線の全國的統一の實現の爲めに努力しなければならぬ。かゝる勞農大衆の熾烈なる要求を無視せる右翼墮落幹部の畫策しつゝある右翼總聯合また左右兩翼の鬪爭を口實に所謂中間派のみを結成せしめんとしつゝある日勞黨幹部の勞農總聯合が全く無産階級の大道に反してゐる事は明白であつて我々は全組織勞農大衆を打つて一丸とする眞實の階級的全國的勞農總聯合の實現に進出しなければならぬ。

(3)組織の確立

政府並に地主の組織的壓迫、攻勢に對抗し、全日本農民組合同盟、健實派同



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

盟と闘つて、彼等を農民運動の分野より放逐し、我々のみが眞實の農民の代表者として恥ぢざる活動をなさんがためには全國的地方的組織を整理し、之れを集中化すべき必要がある。從つて總本部は從來の如く、單なる連絡機關に止まらないで積極的に全國の運動を指導し、地方聯合會はまた本部の指導のもとに組織的に活動する樣に、組織を充實させなければならぬ。

(4)各部門具體方針の確立

我等の運動の轉換期に於ては、各專門部の方針を新に確立し、活發なる運動を開始することの必要あるは言を俟たない。就中、組織部、教育部、爭議部の具體的方針の嚴密正確なる確立は當面の實に緊切なる任務に屬する。

(5)青年部、婦人部の確立

我々は從來の運動に於ても青年部が陣頭に立つて闘ひ、婦人が別働隊となつて我等の運動に參加し、要するに一家總動員して闘ふの必要を痛感し來つたのであるが、今や運動が一段の進展を遂げんとするに當つては、この必要はいよ〳〵増大するばかりである。殊に政治闘爭に於ては、青年の自覺と活動に俟つこと多かるべくまた婦人の解放運動に於ては、農村の無產婦人は、その一中心勢力とならねばならぬ。我組合は、これ等青年婦人の政治的要求及びその獲得のための闘爭に對して、決してその途を閉してはならない。

(6)全國的消費組合運動

我々は、金融資本家及商工資本家の搾取に對し、全消費者殊に農民を闘爭に動員せんがために

イ、まづ消費組合運動によつて、廣汎なる消費者殊に農民を組織し、これを階級的に自覺せしめ。

ロ、かつ運動の基礎を鞏固にし、組合を物質的に援助せんが爲めに、全國的階級的消費組合運動を計劃實行せねばならぬ。

(四)我日本農民組合創立以來すでに五星霜、此の間我々は眞に全國農民の利益を代表して、地主、政府の彈壓に屈せず階級的立場を確守して奮闘努力し來り、よく今日の如き發展をなしとげることが出來た。併しながら殊に過去一年間は、吾が組合史上對內的にも對外的にも、他にその比をみざる多事多難なる時期であつた。無產政黨の問題、近くはまた日勞黨、健實派同盟の出現とめまぐるしき闘爭が轉廻され來たつたのであつた。

　併しながら我々は、あらゆる之等の難關を乘り切つて來た。しかも我々の唯一の階級的な陣營を逃れたものは、何れも旣にその馬脚を露した。かくして我々は、我々の困難を過去の闘爭によつて、今やはじめて農民を眞實に解放し得る闘爭への新なる第一步を踏みしめんとしつゝあるのである。我々農民の幸福自由なる輝しい解放を約束する黎明の光は、今や輝やかんとする。

新中央委員

委員長　山上武雄
委員　鳥居重樹
藤井哲夫
長門博
大山角太郎
△花田重郎
松本積善
前川正一



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

淺野卯之助
辻本菊次郎
長廣秀一
△西光萬吉
畠山松次郎
稲村隆一
村田哲夫
△長尾有
佐藤和藤治
阪本兵藏
山田清之助
瀧澤要平
小別當小三郎
大村千太郎
荒岡庄太郎

（△印は常任）

## 全日本農民組合設立

さきに日本農民組合内にあつて、日本勞農黨樹立に參畫し、更らに健實派同盟を組織して、日本農民組合切りくずしを策動して頭ばかりの日勞黨の足を造らんとして、二月二日の農民組合常任委員會で除名された三宅、須永、淺沼、三輪、吉田、細野、行政等の十二人組は、三月一日大阪天王寺公會堂に於て、全日本農民組合創立大會を開催した。代議員二百二十三名、組合長には、これまた日本農民組合委員長を辭任し、組合員を脱退した杉山元次郎氏を組合長に迎へ，左記の綱領宣言を決定した。役員は、

組合長　杉山元次郎
主事　三宅正一
會計　安藤國松
中央委員　吉岡八十一
河井義一
藤本金助
山崎豊定
今井一郎
小島小一郎
須永好
石橋源四郎
茂長磯吉
澤田義文
淺沼稲次郎
細野三千雄
吉田賢一
宮川伊太郎
行政長藏

尙ほ松谷與次郎、賀川豊彦、山崎今朝彌、麻生久を顧問に推薦した。

### 綱領

一、組合の健實な鬪爭によつて農民の生活を改善し、生產者たる農民に合理的なる生活を保證するに足る小作條件並に農業勞働條件の獲得を期す。

二、國民生活の食料の源泉たる土地を投機と利潤の目的に濫用する弊害を排擊し、實際の耕作者たる農民に土地利用の完全なる權利を確保したる土地制度の制定を期す。

三、實際の耕作者たる農民をしてその成果を完全に享有せしむるが如き方法による、土地の改良、農業技術並に農業經營法の改善促進を期す。

四、小作農、小作兼自作農並に農業勞働者を強固なる組合に團結し、農業生產者の全國的組織を完成せんことを期す。

五、組合の組織と活動とを通じて、農村無產大衆をして、封建的資本主義的隷屬より獨立せしめ、都市無產階級と協力して



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新文化建設の完成を期す。

主張

一、耕地の社會化
二、耕地の不買同盟
三、小作料の合理化
四、耕作權の確立を基調とする小作法の制定
五、農業勞働者の最低賃銀及勞働時間の制定
六、階級的產業組合の確立
七、地主及工業資本家の利益を擁護し、農民生活を壓迫する租稅の廢止
八、無產農民敎育制度の確立
九、治安維持法、暴力行爲取締法、治安警察法、農民運動を壓迫する法律等の府縣令の撤廢
十、全國的農民組合の完成
十一、全國的勞農總聯合の確立

## 日本農民總同盟成立

社會民主黨では、日本農民組合、全日本農民組合其他の組合にも加入せざる地方小農民組合のかきあつめを策し、鈴木文治、片山哲のきもいりで、三月六日總同盟本部に於て日本農民總同盟創立準備會を開催した。地方代表四十名出席協議の結果綱領規約を左の如く決定した。

綱領

一、我等は團結の力により、農民の地位向上、福利の增進並に知識の啓發を期す
二、我等は合法的手段により農民に對する一切の不當なる抑壓を排擊せんことを期す
三、我等は農民組合の實力により小作人階級の完全なる解放と健全なる新社會の建設を期す(規約略)

役員

會長　鈴木文治
副會長　片山哲
中央委員　十名
顧問には　安部磯雄
中澤辨次郎
馬場恒吉

を推す。當組合の發表した構成團體數及び組合數は左記の通りと稱してゐる。

| 府縣名 | 團體數 | 員數 |
|---|---|---|
| 神奈川 | 五 | 二、〇〇〇 |
| 栃木 | 二 | 五〇〇 |
| 千葉 | 五 | 一、三〇〇 |
| 埼玉 | 三 | 一、〇〇〇 |
| 茨城 | 六 | 一、五〇〇 |
| 宮城 | 二 | 三〇〇 |
| 福島 | 二 | 五〇〇 |
| 岐阜 | 一 | 二〇〇 |
| 岩手 | 二 | 五〇〇 |
| 群馬 | 二 | 九〇〇 |
| 靜岡 | 二 | 五〇〇 |
| 東京 | 二 | 五〇〇 |
| 長野 | 三 | 七〇〇 |
| 計 | 三七 | 一〇、〇〇〇 |

ちなみに、全國的無產政黨と稱するものが四つあつて、かくて、農民組合も四つとなつた。即勞働農民黨の日本農民組合、日勞黨の全日本農民組合、社會民主黨の日本農民同盟及び日本農民黨の日本農民同盟のこれである。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# ブックレビュウ

## 左翼の闘爭

山川均著

我國無産階級運動の今日の情態を評して、ある人々は異常な進歩發達だ！といはれる。これに反し今日の左翼運動は一に云へば昔に歸りつゝある、形をかへて大正九年乃至十三年頃の左翼の失敗を繰り返してゐるに過ぎないと評する人もある。

『十人十色、面が變れば、自づと考へることも同じ様に變つて來るのだ』と云つてしまへば、ものは極く簡單にかたがつく。然しこうした極端に相反した、そしてその各々が相當根據があるのだから、あながちこの簡單な論法でかたが付くものでもなからう。

山川氏の近著『左翼の闘爭』は少くとも前に見逃してならない文献の一つである。著者ははしがきに『左右兩翼の對立抗爭は、單一無産政黨の問題と、その形成の過程とをめぐつて進展しつゝある。したがつて本書に收めた論文も、ことごとくこの問題に關聯したものである』と述べて居られる。即ち昨年の三月以降十二月迄の間に物せられた諸論文を集めたものが本書である。そしてその内容は無産政黨の成立より分裂に到る間『いづれもみな眼前を急過する事件の一段階をとらへて、これをその瞬間の形成のうちにおいて取り扱つたものである。』したがつて、今日の無産階級運動そのものが進展か、逆展か、いづれにしろ、その眞相を究める上に於てこの書は讀者の必讀に値するものである。就中、昨年來やかましく叫ばれて來てゐる「理論闘爭」の中心問題となつた、大衆所載の中間派左翼結成の問題、折衷主義の問題等はこの書をおいて論ずることの出來ない問題である。

又著者山川氏は『したがつて事件がすでに次の段階に發展し去つた次の瞬間には、それはもはや印刷に付するよりも屑籠に投げ込むに適したものであるかも知れぬ。けれどもそれと同時に、私はこれらの反對に對しても——時々刻々に發展し、變化し、過去のものとなつて過ぎゆく事象に當面して私の取つた態度と見解とに對しても——私は今日といへどもその責任を負ふことを辭さないものである。』と云つておられる。この點は、明に山川氏の前述諸問題に對し執筆當時と同樣の責任を持つて居られることを物語り、『マルクス主義』同人の攻撃に屈服して居られないことを表明するものである。尤も、山川氏は、『これらの論文のすべくゝりとして、左翼の闘爭についての私の一般的な考への二三を附け加へる豫定であつたが、云々』の如く、此等の論文の補足乃至は補充、意味不明等に對して多少の加筆の勞をとらうと考へて居られたことは讀者一應心すべきところである。尤もそれだけ讀者としては氏を理解する上に遺憾に感ずるところである。然し乍ら所々に書加へられた註は種々の反對意見、主として『マルクス主義』同人諸君への辨ばくであり答辯である。反面これは單なる註として取扱ふものでなく、山川氏の眞意、決意を物語るものであるから本文同樣熟讀が味せられんことを望む。

この著の内容をなす八つの論文中、尤も讀者の注意を喚起したいのは、其四、勞働農民黨と左翼分子の任務、其五『中間派左翼結成』が單一左翼の形成か、其六、勞働農民黨の分裂、其七、無産階級政治戰線の

紛糾の四論文である。(勿論、この論文を讀まれると同時に、『大衆』九月號より最近號に至るまで、同様に『マルクス主義』も併せ讀まれんことを切に希望しますが)

『中間派左翼結成が單一左翼の結成か』の論文中、氏は左翼陣形の缺陷として『左翼分子の間には殆んど何等の聯絡と統一がない。その結果として、無性格、無定見な眞實の中間的分子を支配するのは左翼ではなくて常に右翼である。すべてこれ等の事柄は左翼の結成がはるかに右翼の結成におくれてゐることを證據だてるものである』(同卷一一六―一一七頁)かくて氏は大衆所載の中間派左翼結成論の必要を感じたのは左翼の陣形に存する大なる缺陷を反映したものに外ならぬと論ぜられてゐる。

『中間派左翼結成の主張は、今日までの左翼―なほ形成の過程にある左翼―の缺陷ある陣形といふ現實にそのまゝ立脚したものであつて、―現在の形成によつて追出された對立關係の現實に立脚したものではない。それは左翼の陣形の缺陷をそのまゝ承認し―ないしはこの缺陷に屈從し―中間派左翼の結成によつてさらにこの缺陷を固形せしめるものであつて、現實の形勢の現實な必要に應じてこの缺陷を克しやうとする努力ではないのである。それは有るがまゝなるものゝ無條件な承認である、有るがまゝなるものへの無條件な屈服を意味してゐる。』この點は、『大衆』所載の意見と全く反した(當時)ものである。しかして氏は、單一左翼結成の具體案として

(一)、現在の瞬間において、右翼と左翼とを分割する一線即ち、主として上に掲げた三つの問題に對する態度を綱領として、すべての勞農團體を通じ、また組合以外の要素をも包容した單一左翼運動を組織すること。

(二)、この運動は、非公式ないしは内密な聯絡でなくて、一切の左翼的分子に門戸を開放した公然の運動でやるべきこと。

(三)、この運動は獨立した公然の機關紙を持つべきこと。』

右の提案は此の立論の上から見て至極尤と考へられ、當時の情勢は何等の引かゝりもなくこの提案をうけ入れそうであつたかも知れぬ。然し、氏はこの立論に先ち、左翼と目されてゐる一部に、硬化した乃至は團結した態度方針のあつたことを餘りにも輕視せられたのではなからうか。今更この論文を讀み返して益々その感を深くする。

勞働農民黨の『分裂』を論ぜられてゐるなかの註(一四一頁)に於て『なほ總同盟に脱退の機會を與へまいといふことが左翼の方針であつたと假定するならば、一ケ月前に開かれた勞働組合評議會關東地方合同大會の決定―支部組織に向つて積極的に活動すると同時に黨の大會までは、門戸開放の問題に觸れないといふ決定―妥當であつたと思ふこの點についても、左翼分子の間に聯絡統一の缺けてゐる事が想見される。

私の小論文『勞働農民黨と左翼の任務』をさして、左翼の全線に向つて進出を『命令』したるのだと見なす點において、右傾指導者の機關紙『民衆新聞』と雜誌『マルクス主義』とは全然一致した見解をとつた。またこの『左翼進出』―辯證法的でなくて機械觀的なこの左翼進出論―に、勞働農民黨を分裂せしめた責任を歸しようとする點においても、一部眞正マルキシストと一部中央主義者との意見は一致したのである』云々これ等は明に氏の答辯である。尙氏は續けて、『第四回中央委員會の形勢を前述の如く觀測し、第三回中央委員會の決議を再びひるがへしても總同盟は決して脱退せずといふ觀測のもとに行動するほどに―或は行動することを慫慂するほどに―私は形勢を『辯證法的に』見る能力を持たなかつたことだけを告白すれば澤山である』云々。これ等はともに氏の自説に對する自信と決意を物語る有力なものである。

以上の外氏は新に『マルクス主義』同人の意見には全く相反して居られるのか分る。そして、氏は『マルクス主義』の攻擊に對する應戰の準備として、新しく註を入れ、表題に『最後に笑ふ者が最もよく笑ふ』のレーニンの言葉を引用せられてゐるなど氏の決意を雄辯に物語つてゐる。讀者とゝもに氏の理論鬪爭場裡の活動を刮目して待つ。

(一圓三十錢白陽社發行)―槇圭一―



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 編輯後記

△先號の編輯後記には、「時は來た。わが陣容も既に整つた。われ等は旗鼓堂々、勇敢に、積極的にわれ等の信ずる所に從つて邁進せんとするものである」と書いてあつた。我々は本號でこの約束の一半を果したつもりである。

△まづ、卷頭に成瀨光雄氏の執筆にかゝる『「大衆」は何をなしたか』を載せた、我々のこれ迄の態度に一切の決算をつげた。我々は、事實、誤謬を犯して來た。それは潔く認める。同時に從來我々に加へられた批評の中には隨分いゝ加減なものがあつた。そんなものには我々が到底服し得ないことを、この際きつぱりと云ひ切つて置いた。

△兎も角、これを機會に「大衆」は元氣よく乘出さうと思ふ。そしてその第一の仕事は潑剌たる「理論鬪爭」だ。我々と根本的に立場を異にする者に對しては勿論のこと、假令根本の立場は同じでも種々なる點で意見の違ふ者に對しても、どこまでも抗爭するつもりである。本號の薄茂人の論文はその一つの表現である讀者の熟讀を乞ひ度ひ。もう一つの仕事は「調査欄」の完備だ。こんどはまだ充分とは云へないが、それでもこの意氣込みを示したつもりだ。

### 五月豫告

△各無產政黨の綱領政策の比較と批判……大山郁夫

△左翼の展開並に右翼展開の一基礎……薄茂人

△獨逸に於ける左翼黨病の問題……青戶四郎

△山川氏の左翼の鬪爭に對して……成瀨光雄

△高橋氏のブルジョア辯護論を駁す……佐々木三郎


定價

○壹部參拾錢（送料壹錢）
○半年壹圓七拾錢（稅共）
○一ヶ年參圓參拾錢（稅共）

廣告料

○一等八拾圓
○二等五拾圓
○三等參拾圓
（但し、半頁はお斷り）

昭和二年三月廿八日印刷
昭和二年四月一日發行

編輯發行兼印刷人 黑田壽男

東京市芝區濱松町一ノ一五
發行所 大衆社
（振替口座東京一六二三八番）

大賣捌
東京堂 北隆館
大東館 東海堂




Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# レーニン選集

刊行

第三編　一九〇五年以後……村山藤四郎譯　近刊

第一編　社會民主々義の任務日和見主義に對する抗爭……齋藤信三譯

第二編　一九〇五年に於ける二個の戰術……松本篤一・秋山次郎譯

第四編　三月より十月迄……奥三郎譯

第五編　露西亞ソヴヰエット共和國……譯者未定

ジョーレス　社會主義論集……木下半治譯

ローザ・ルクセンブルグ……高村浪夫譯

京都市丸太町通寺町東
振替大阪一七〇五番

**弘文堂書房**

東京市神田區淡路町二
振替東京五三九〇九番

# マルキシズム叢書

河上肇譯　レーニンの辯證法（デボーリン）……定價・八五　送料・一五

淺野晃譯　哲學の貧困（マルクス）……定價二・九〇　送料・一八

河上肇著　階級鬪爭の必然性とその必然的轉化……定價・五〇　送料・一五

宮川實譯　カントに於ける辯證法（デボーリン）……定價一・〇〇　送料・一八

河上肇譯註　改版　勞賃價格及利潤（マルクス）……定價・四〇　送料・一五

河上肇、宮川實共譯　經濟學批判序說（マルクス）……定價・四〇　送料・一五

河上肇譯　改版　賃勞働と資本（マルクス）……定價・五五　送料・一五

## 近刊豫告

初版資本論首章（マルクス）……小林輝次譯

社會科學問答（エンゲルス）……森戸辰男譯

ケルン共產黨事件（マルクス）……村山藤四郎譯

ヴエラ・ザスリッチへの手紙（マルクス）……淺野晃・喜多野清一共譯

價値形態論（マルクス）……赤松五百麿譯

神聖家族（マルクス）……河野密譯

國際勞働者協會の成立（第一インタナショナルの歷史）（リヤザノフ）……大山一郎譯

事項別編纂マルクス書簡集（マルクス）……土肥楸作・下川源二共譯並編

マルクス政治論文集（マルクス）……杉道夫譯並編

京都市丸太町寺町東入
振替大阪一七〇五番

弘文堂書房

東京市神田區淡路町二
振替東京五三九〇九番



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# インタナショナル

## 三月號目次

コミンテルン第七回擴大執行委員會の諸問題
支那に於ける列强の經濟的、政治的勢力
支那國民革命の特質と前衞の當面の任務（譚平山）
支那をめぐる英米日の外交
黨と勞働組合に於ける活動（ブハリン）
情報　メキシコに於ける勞働者農民問題——エジプトに於ける解放運動と議會主義
資料及インタナショナル日誌

一九二七年三月十日發行　定價一部　貳拾錢　税　壹錢

産業勞働調査所發行

## 四月號目次

一九二七年四月一日發行　定價一部　貳拾錢　税　壹錢

資本主義の安定と農業
イタリーの諸政黨と農民問題
ルーマニアの農業問題
帝國主義と軍備問題
リトアニアに於けるファシストのクーデター
情報　リトアニアのファシストを倒せ！——萬國の青年勞働者、農民に訴ふ！——アメリカ帝國主義の正體曝露
——農民に對するテロ——戰爭反對運動を起せ
インタナショナル日誌

京都市丸太町通寺町東
振替大阪一七〇五番

# 弘文堂書房

東京市神田區淡路町二
振替東京五三九〇九番



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 政治批判叢書

—近刊—

レーニンと農村問題（マルチノフ）……高山洋吉譯
露西亞社會民主黨史（チノヴイエフ）……白谷忠三譯
伊太利に於けるファシズム（アキラ）……黒川健三譯
資本蓄積と帝國主義（ブハリン）……水野秀夫譯
協同組合運動（レーニン）……安田耕一譯

## 豫告

無産階級政治闘爭過程に於ける組織問題（レーニン）……藤井米三譯
勞農露西亞の社會主義的建設（ブハリン）……河上肇 大橋積共譯
社會民主黨農業綱領批判（マルチノフ）……對馬俊治譯
ソヴエット露西亞と背教者カウツキー（ブハリン）……逸見重雄譯
過渡期に於ける印度（ロイ）……門屋博譯
世界經濟、世界資本主義、帝國主義……大森義太郎著
岐路にたてる英國プロレタリヤと英國總同盟罷業……（福本和夫、水野成夫、淺野晃、清水平九郎）
各國の日和見主義政黨（ヴアルガ）……大間知篤三譯

京都市丸太町通寺町東 振替大阪一七〇五番
弘文堂書房
東京市神田區淡路町一 振替東京五三九〇九番



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

河野密・林要共譯

エンゲルス

# 反デューリング論

近日刊行

**マルキシズム叢書（第八篇）**……本書はエンゲルスの主著で、資本論と共にマルキシズムの基礎的文献であるが、從來何人も之が全譯を企てなかつた。茲に公にするのが日本では最初の譯本だが、同時にそれは永く定譯本とならうと信ぜらるゝ程度に、譯者の責任が嚴密に果されて居り、難解の個所には補註をも加へてある。もと本書は、社會主義をアカデミックな、骨抜きなものに改造しようとした處のサロン・ソーシャリストの雄デューリングに對する挑戰状として書かれたものだがその重要性は當時も今と變らない。蓋し俗學的ではあるが極めて博學なデューリングを論駁する爲には、エンゲルス自身、辯證法、經濟學、社會主義等に亙る廣汎な領域について其見解を展開せねばならなかつたし、從つてマルキシズムに關する基礎的な諸問題が内的聯絡において取扱はれねばならなかつたからである。

## 近刊マルキシズム叢書

農民問題（マルクス・エンゲルス）　村山藤四郎・黑田久太共譯

改訂ゴータ綱領批判（マルクス）　水谷長三郎譯

唯物辯證法拔萃（原文對照）　經濟學批判會編

唯物辯證法と自然科學（デボーリン）

東京市神田區淡路町二　振替東京五三九〇九番

**弘文堂書房**

京都市丸太町通寺町東　振替大阪一七〇五番



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

**The Taishu.** (The Mass)

-- Monthly --

Published by Taishu-sha.

No. 15. Icho-me Hamamatsu-cho. Shibaku. Tokyo, Japan.

昭和二年三月二十八日印刷
昭和二年四月一日發行（毎月一回一日發行）

# 無產者自由大學

無產階級の主要戰線が組織的に進出しつゝある時、その前途に一大光明を點ぜんがため、玆に無產者的教育の大綜合機關として本大學が生れました。全無產階級の青年諸君、諸君はブルヂョア的國民教育の繋縛を斷ち切つて、眞にプロレタリアの必須智識を獲得するために直ちに本大學に加入せられよ。

## 豫約募集◆會費五拾錢

### 必須科目

第一册 天文・地文
第二册 生物・人類
第三册 生理・心理
第四册 物理・化學
第五册 世界歷史
第六册 日本歷史
第七册 社會學
第八册 經濟學
第九册 政治學
第十册 宗教・哲學 倫理・藝術
第十一册 社會問題
第十二册 世界の現狀

（外に十二册の科外講座無代添附）

▼締切五月五日▲ 說明書を御申込み下さい

豫約申込金一圓（第一册分と第十二册分）
一ヶ月金五拾錢十二ヶ月完了

### 執筆者

堺利彥　山本宣治　伊藤靖
上田茂樹　猪俣津南雄　西雅雄
大山郁夫　青野季吉　荒畑寒村
山川均　安川德太郎　佐野學
櫛田民藏　白柳秀湖　田所輝明
大森義太郎　川內唯彥　稻村隆一
平林初之輔　藏原惟人　近藤榮藏
山川菊榮　長谷川如是閑

東京九段中山ビル
南宋書院發行
振替口座東京七五三二八番



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN